

2022

# 青森県商業教育

## MERCURY

There can be miracles 奇蹟も起こることだってできる  
When you believe あなたが信じてれば  
Though hope is frail 望みは脆いけれど  
It's hard to kill 消えることはいない  
You're my flashlight あなたは私を照らす光

愛はどこにあるの where is the love  
愛は他のものとは違って It just ain't the same  
唯一不變のもの Always unchanged  
君は俺にとって唯一 너는 내게 최고  
一緒に歩こうよ 같이 걸어볼까  
共に歩いてみようよ 함께 걸어볼까

#Pride  
#Love  
#BlackLivesMatter  
#LeaveNoOneBehind  
#Metoo  
#ClimateChange  
#SocialGood

「平和学の父」として知られる  
ヨハン・カルトツング博士の平和とは…  
・平和実現の方式  
平和 (peace) =  $\frac{\text{Equity (公平)} \times \text{Empathy (共感)}}{\text{Trauma (トラウマ)} \times \text{Conflict (紛争)}}$

・平和を実現するには、「紛争の解決」「トラウマの軽減」  
「相手の考え方を理解しようとする  
(賛成も反対も不要。ただ知ろうとすること)」  
「相手の良さを見極め、自分の良さをさし出す」  
の4つのステップがあります。

<https://www.2011kaifujiw/>  
<https://www.2011kaifujiw/>  
<https://www.2011kaifujiw/>  
<https://www.2011kaifujiw/>

青森県高等学校商業教育研究会  
青森県高等学校教育研究会商業部会

題字 / 奈良 尹 (元青森県高等学校商業教育研究会会長)  
表紙 / 青森県立黒石高等学校 情報デザイン科3年 田澤 杏奈

## 目 次

### 【巻頭言】

「しなやかに変革に挑む商業高校」	1
青森県高等学校教育研究会商業部会長 青森県高等学校商業教育研究会会長 青森県立青森商業高等学校長	三 上 雅 也

### 【特別寄稿】

1 「唯一無二」	4
青森県立十和田西高等学校 教 諭 川 村 真 一	
2 「全国産業教育フェア青森大会 商業部 「わくわくこども商人（あきんど）」を終えて」	6
青森県立青森商業高等学校 教 諭 須 藤 貴 則	
3 「名刺作成体験 × りんごの和紙＝来場者の笑顔」	8
青森県立弘前実業高等学校 教 諭 長 谷 川 善 弘	
4 令和4年度第32回全国産業教育フェア青森大会【県内企業魅力体験】実施報告	9
青森県立八戸商業高等学校 教 諭 藤ヶ森 誠 司	
5 令和4年度全国産業教育フェア青森大会「商業部：電卓・ワープロ体験」	10
青森県立三沢商業高等学校 教 諭 平 川 正 晃	
6 グローバルな人財育成への取り組み	11
青森県立青森商業高等学校 教 諭 高 橋 恭 一	
7 青商ビジネスチャレンジ with 台湾事業 東京研修会紀行	15

### 【令和4年度 第70回 東北六県高等学校商業教育研究大会】

1 教科調査官講演	26
「商業教育の現状・課題と専門教科「商業」における学習評価の在り方」 講師 文部科学省初等中等教育局参事官（高等学校担当）付産業教育振興室 教科調査官 田 中 圭	

### 【研究委員会報告】

マーケティング・ビジネス経済分野研究委員会	青森県立三沢商業高等学校	31
会計分野研究委員会	青森県立八戸商業高等学校	33
ビジネス情報分野研究委員会	青森県立青森商業高等学校	35
教育課程等研究委員会	青森県立弘前実業高等学校	37
総合科目研究委員会	青森県立弘前実業高等学校	38
研究誌編纂委員会	青森県立青森商業高等学校	40

【令和4年度高大連携推進の取り組み】	41
【県商研主催事業報告】	
1 全国商業教育指導者研修会	52
青森県立黒石高等学校 教 諭 鎌 田 吉 雄	
2 商業教育講習会「会計実務に関する講義と実習」	56
青森県立田名部高等学校 臨時講師 工 藤 勝 平	
【青森商研ニュース】	57
【研修に参加して】	
1 「中堅教諭等資質向上前期研修を終えて」	65
青森県立青森商業高等学校 教 諭 長谷川 誠	
2 「中堅教諭等資質向上前期研修を終えて」	66
青森県立八戸商業高等学校 教 諭 秋 田 健 二	
3 「中堅教諭等資質向上前期研修を終えて」	67
青森県立八戸商業高等学校 教 諭 山 口 舞	
4 「中堅教諭等資質向上前期研修を終えて」	68
青森県立大湊高等学校 教 諭 小 出 健太郎	
5 「中堅教諭等資質向上前期研修を終えて」	69
青森県立北斗高等学校 教 諭 山 本 政 志	
6 「中堅教諭等資質向上後期研修を終えて」	70
青森県立弘前実業高等学校 教 諭 平 山 学	
7 「中堅教諭等資質向上後期研修を終えて」	71
青森県立弘前実業高等学校 教 諭 小田桐 正 巳	
8 「中堅教諭等資質向上後期研修を終えて」	72
青森県立七戸高等学校 教 諭 四 木 徹	
【定年を迎えて】	
1 「「現状維持はマイナスである」からの始まり」	73
青森県立木造高等学校 校 長 大 瀬 雅 生	
2 「定年に想う（お世話になりました。）」	74
青森県立十和田西高等学校 校 長 山 口 吉 彦	
3 「定年を迎えて」	75
青森県立黒石高等学校 教 諭 菊 谷 哲	
4 「定年を迎えて」	76
青森県立青森商業高等学校 実習教諭 浪 岡 鋭 治	
【新採用となって】	
1 「新採用となって」	78
青森県立大間高等学校 教 諭 布 施 正太郎	
【令和4年度商業部会・活動概要】	79
I 研究会の概要   II 研究活動の概要   III 各種競技大会   IV 各種検定試験	
【編集後記】	

## 「しなやかに変革に挑む商業高校」

青森県高等学校教育研究会商業部会長  
青森県高等学校商業教育研究会会長

三 上 雅 也

(青森県立青森商業高等学校長)



### 1 はじめに

青森県の商業教育に携わる校長先生はじめ商業科教員の皆さまにおかれましては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に最大限の努力を頂き日頃の各学校における商業教育はじめ、青森県高等学校教育研究会商業部会及び青森県高等学校教育研究会の諸行事に多大なるご協力頂きさらには本県商業教育の充実・発展にご尽力・ご協力頂き誠にありがとうございます。

今年度は、これまで定例で行っている行事以外に2つの大きな行事を行う年となりました。1つ目は、9月8・9日ホテル青森で開催された第70回東北六県商業教育研究大会です。2つ目は、10月15・16日メイン会場を青い森アリーナで開催された第32回全国産業教育フェア青森大会です。

### 2 第70回東北六県商業教育研究大会

東北六県が輪番制で担当し東北各県で開催されている研究大会ですが、第70回大会ということで記念式典を行うこととなりました。記念式典を行う県は10年毎の担当県であり、10前は東日本大震災後ではありましたが宮城県が担当し、本県は40周年の記念式典を担当して以来となり、今年度70周年の記念式典を担当できたことはとても光栄なことであります。

研究大会は「持続可能な社会を担う商業教育の推進」～先創・先進的な商業教育の発信を東北から～をテーマとして開催されました。この研究大会は時代に即応したテーマが設定され、その時代時代に適した研究協議、研究内容、発表方法、公開授業などの実施方法等を協議・検討を重ねて運営されてきました。多くのことが協議され、検討を重ねている研究大会に参加するからこそ、多くのことを感じ、その感じたことを自分の授業実践に取り入れるなど、参加した人は多くの刺激を受けることができる研究大会であると感じています。参加された先生方は、きっと大きな刺激を受け、青森県の商業教育に役立てて頂けるものと信じています。

### 3 第32回全国産業教育フェア青森大会

響かせよう産業の音色 ～縄文の風吹く青森で～をキャッチフレーズに開催されました。商業部は小学生を対象とするイベント「わくわくこども商人<sup>あきんど</sup>」などを行い、近隣の小学生の参加や一般参加の小学生によりとても盛況でありました。これまでの全国産業教育フェアにおいて商業が行ってきたのは、「キッズビジネスタウン」でした。青森大会開催の決定を受け、「キッ

ズビジネスタウン」を実施するかどうかを検討しましたが、青森県独自の方法で商業を学ぶ高校生がその知識・技術を生かし小学生を対象にわくわく子ども商人<sup>あきんど</sup>を実施することにしました。

参加してくれた小学生からはとても楽しかったと言ってもらえたことがとても印象的であり、さらに各ブースの高校生が小学生に対して商業で学んだ知識や技術を活用して活動している高校生の笑顔はとても輝いていました。大会が誘致されたことにより、膨大な時間を費やし準備してくれた先生方にはとても感謝しています。また、小学校への対応にご協力頂いた青森市教育委員会、派遣にご協力頂いた関係小学校には感謝します。

#### 4 青商ビジネスチャレンジ With 台湾

令和3年度に提案者事業実施制度（庁内ベンチャー制度）に応募して採択された「青商ビジネスチャレンジ With 台湾事業」が令和4年度から本格的に動きだしました。この事業は、令和4年度青森県教育委員会の「施策の柱」2 地域で活躍する人財の育成及び県内定着の促進に位置付けられ新規事業として実施しています。本校（青森県立青森商業高等学校）と台湾の高級中学との協働学習による商品開発を契機に、青森県と台湾の両地域における販売実践活動を通じて、県内商業高校（八戸商業、三沢商業、弘前実業、黒石）との連携及び台湾の高校との連携強化を図るとともに、国内外でビジネスを展開するノウハウを高校段階から身に付け、世界に向かってチャレンジする人財を育成することが事業概要となっています。そのために外部講師による講義等を実施し、その内容を各商業高校が共有しました。この学習を元に台湾に渡航し台湾の高校生と協働学習を実施する予定でありましたが、新型コロナウイルス感染症により渡航は断念せざるを得ない状況となりました。代替案として東京研修を実施しました。台湾の企業の方との商談、店頭での販売実習など、とても充実した内容の研修でありました。参加した生徒が成長する姿を間近かに感じることができました。この事業は、青森商業高等学校だけの事業ではなく、県内の商業の学科を設置している学校と連携した取り組みになりました。

#### 5 終わりに

標題の「しなやかに変革に挑む商業高校」このフレーズは、第32回全国産業教育フェア青森大会に合わせて取材があり、担当記者が報道の見出しに使ったフレーズです。しなやかをGoogleで検索すると、弾力に富んで、よくしなうさま。「一な枝」。動作がごつごつしていない様子。「一な身のこなし」と検索されました。取材された記者が感じた感覚と日常では大きな違いがあるかと感じています。令和5年3月31日に商業の学科観光科がある青森県立十和田西高等学校が34年の歴史の幕を閉じます。さらに学科を設置していませんが、商業の科目を学習している5校の高等学校が統廃合となり3月31日に幕を閉じます。統廃合となり、新設校において、商業の学びが継続されたかという残念なことに継続されませんでした。商業の学びの場が激減している状況に「しなやかに」とは言えないのではないのかと感じています。青森県立高等学校教育改革推進計画第2期計画が公表されてはいますが、変革しなければならない状況にあります。

令和4年度の青森県高等学校教育研究会商業部会に登録している教員は第1希望111名、第2希望37名、合計148名です。登録している先生方が日々の授業を大切に、授業の充実に努め、「個別最適な学び」「協働的な学び」「それぞれの学びを一体的に充実し主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」することを商業科教員一人ひとりが意識した授業実践が今後の商業教育の魅力発信へと繋がります。

## 6 退職にあたり

大学卒業後7年間企業に勤務しながら企業スポーツの選手としての活動もし、その後平成4年4月1日山形県の教員として採用され山形県立谷地高等学校に赴任し教員生活が始まり、平成6年に青森県公立学校教員採用候補者選考試験を受験、平成7年4月1日青森県の教員として採用され青森県立中里高等学校に赴任し青森県の教員としての教員生活が始まりました。平成8年4月1日青森県立青森商業高等学校へ異動となり、青森商業高等学校は当時商業高校の中心校であるとともに母校に勤務するという事で新任教員説明会において、あまりの緊張に自己紹介の声が裏返りました。さらに、勤務してすぐ、当時の商業教育部長の先生に「今年東北六県商業教育研究協議会の商業経済分野で発表があるのでよろしく。」と言われ、当時在籍していた商業科の教員の方々を見回したら自分で仕方がないかなと思ひ引き受け、高教研と東北大会で発表をしました。その当時の発表はまだプレゼンテーションソフトパワーポイントを利用して発表がされていませんでしたが、ある先生の「これからの発表はパワポだよ。」の一言にノートパソコンとパワーポイントソフトを自前で準備し、発表のため、独学で操作方法を勉強し発表しました。とても懐かしい思い出や記憶に残る多くの事がありましたが、31年間の教員生活を終えることができました。

特に、青森県立青森商業高等学校の校長で赴任した時は、青森県高等学校長協会商業部会部会長、青森県高等学校教育研究会商業部会部会長、青森県高等学校商業教育研究会会長、全国商業高等学校長協会理事、東北六県商業教育研究会理事など多くの充て職があり、その責務を果たすためには商業高校に係る校長先生、教頭先生、そして運営委員長を始めとする運営委員のみなさんなど多くの方々に助けられたからこそ、青森県の商業教育の取り組みを全うすることができたと感謝の念に堪えません。

これまで多くの場面で自分を成長させてくれたと感じています。第32回全国産業教育フェア青森大会の開催が決定し、準備委員会が立ち上げる前に産業教育に係る校長先生方による打合せが行われました。準備委員会の組織に委員長の選考があり、その当時の校長先生方は開催年にはご勇退される方々ばかり、自分が運営委員長をやらざるを得ない状況となった場面や第70回東北六県商業教育研究大会が本県で開催され記念式典を行うことが協議された時、その当時の青森県の2人の理事の校長先生方は開催年にはご勇退されることから、自分に対して「よろしく。」とご勇退される2人の理事の校長先生からお声がけを頂くなど、多くの場面において多くの責任を負う場面がありました。全国産業教育フェア青森大会では、産業教育に係る本県の先生方のご協力により、東北六県商業教育研究大会は、商業に係る多くの先生方が本当に協力してくれたからこそ成功裏に大会を終えることができました。

「感謝」・「感謝」の気持ちで一杯です。本当にありがとうございました。

平成31年に告示された新学習指導要領が令和4年度から年次進行され、令和の日本型教育への取り組み、新型コロナウイルス感染症への対応をしながらの商業教育、ICTを活用した商業教育、少子化が要因の一つとなっている定員割、高等学校教育改革、スクール・ミッションなどなど、学校現場には多くの課題が山積みとを感じるか、いや新たなことへの挑戦とを感じるか、これからの青森県商業教育を担うみなさんには後者であってほしいと願っています。

ガンバロウ青森県の商業教育！！

ガンバロウ青森県の商業科教員！！

## 【特別寄稿】

### 「唯一無二」

青森県立十和田西高等学校

観光科 教諭 川村 真一

十和田西校の教育目標は、①心身ともに健康で、知（学力）・徳（豊かな人間性）・体（健やかな身体）の調和がとれた、「生きる力」「未来を切り拓く力」を備えた人間の育成②「高い志」と「主体性」を持って社会の発展に貢献し、本県や十和田の未来を担う人間の育成③国際化・情報化に対応するコミュニケーション能力・情報活用能力・語学力を備えた人間の育成であり、未来の青森県の基盤となる人財の育成に長く取り組ませていただきました。個人的に大切にしたのは、若い世代が世界に対して青森県に対する誇りと愛着を表現する場合、育成すべき資質・能力の明確化を地域と協議し「応援されながら決定すること」を大事にし、地域から理解される指導内容を教科横断型授業で確立し、社会全体から見ても最適なものにすることでした。

十和田西高観光科は、商業科目を基礎とし、「地域観光」を学ぶ県内唯一の学科として平成10年に設立されました。地域の豊富な観光資源、経験豊かな地域内講師を活用した学習を通して、変化し続ける現代課題を解決する能力を身につけさせるため、地域のインバウンド（外国人観光受け入れ強化）対策としての英語科協力による「観光英語」、地域の人手不足解消をキーワードに幼児へのダンス指導・高齢者運動指導などを行う体育科協力による「観光表現」、より深い地域問題探求と考察、分析を目標とする家庭科協力による「地域生活探求」などを平成30年度から実施し、「教科横断的な視点」による「県内唯一の授業」を学校設定科目として創出し、地域との協働を盛んにすることができました。これら唯一無二の学習を学校内教員と指導する中で考えたのは、「この指導は、この高校だけで完結してはいけない」という強い思いでした。

「地域の唯一無二の魅力を知り、自分の役割を自ら生み出し、関係する全ての人間への配慮を怠らず、自己犠牲を恐れない者が地域を切り拓く人財となる」という観光科理念から、年間を通して、様々な場所、様々な人々の前に生徒を送り出してきましたが、その活動において、生徒は幼児から高齢者までに対応した「人を惹きつける言葉」と「人を笑顔にさせる作法」という「地域の宝」を生みだし始めました。これは「表現者」としての生徒が、先輩から代々受け継ぎ、大事に磨き、大事に育てた「地域の宝」だと断言できます。多くの人を笑顔にしたこの「地域の宝」は、確実に世界で通用するとも考えました。縁があり、外務省事業である「中国との青少年交流」に参加させていただく機会に恵まれ、12名の「表現者」を「地域の宝」と一緒に中国に持ち出しましたが、予想通り、中国の若い世代と意気投合し、お互いの文化を自慢し合っていました。本当の「草の根外交」とはこういうことだと外務省の担当者から言われたとき、この地域を愛し、地域と協働する教育活動が間違っていないことを確信しました。



観光科では、「地域観光」をどのように「地域生活」に結びつけることが必要か、どの地域協働作業が有効かについて入学時から学習し、外部講師の講義、先輩の発表、地域からの反応をもとに調査や統計を行っていますが、作業が個人作業に偏ることが多く、主張の偏りと自信の無さが見られました。「事象を式で数学的に表現する」ことで「思い込みや感情に左右されず論理的に説明する」能力の獲得のため、以下のように教科横断授業を行ってみました。

3学年観光科「課題研究」と「数学Ⅱ」授業において、11月下旬から1月下旬までの期間で数学科教員と実施。内容は(1)1班2名から4名の班を構成(2)班毎にデータをどのように利用して、どのような予想や結論とするかの話し合い(3)PCを利用して、データの分析を行い(4)分析結果から、予想と結論が正しかったか話し合い(5)CPUプレゼンテーションの準備(6)発表者、PC操作、原稿作成などの役割分担(7)プレゼンテーションの練習と発表としました。使用データは、日本国内人口推計(2015年～2019年)、国内旅行消費額(2015年～2019年)、外国人旅行消費単価(2015年～2020年)の3つを教員が用意し、2つ以上のデータを使用することを条件としました。

内容に関しての制約として、(1)「数学Ⅱ」の授業では、紙ベースでの話し合いを中心とし質問や意見を担当者に聞くこと、(2)「課題研究」の授業では、PCを使用した分析および作成を中心とすること、(3)「数学Ⅰ」のデータ分析学習である「平均値」、「分散」、「標準偏差」、「はこひげ図」、「中央値」、「第1四分位数」、「第3四分位数」、「相関係数」の中から適切なものを2つ以上使用すること、(4)CPUプレゼンテーションではグラフを作成し盛り込むこと。(5)CPUプレゼンテーション画面には音声やアニメーション効果を禁止し簡潔な画面構成とすること、(6)CPUプレゼンテーションは全5枚程度としました。評価については、1月下旬に授業内でプレゼンテーション実施後、「課題研究」と「数学Ⅱ」担当教員2名で行い、評価の観点は(1)説得力(知識・技能)、(2)表現力(思考・判断・表現)、(3)画面構成力(主体的に取り組む態度等)としました。

成果の1つ目として、活発で充実した話し合いが、今までの観光科授業以上に行われたことです。これにより、観光科授業である「観光一般」「地域生活研究」「観光ビジネス」で学習した基礎的知識と、最新の世間一般の意見が必ず一致するとは限らないこと、自分の生活地域に拘った意見だけでなく、他地域や他文化、最終的には国外も含めた調査と意見の収集、世代を越えた共通理解が必要であることを生徒は認識したと思います。2つ目は、数学的分析方法を用いることで、調査統計の幅、表現が確実に広がったことです。数学における「確率論」を取り入れることで、「答え」だけでなく「予測」が可能となり、「答え」だけを求める今までの個人発表から、データに基づいた論理的な意見発表を目指し、他班員の調査統計を受け入れ、より良いグループ発表にしようとする意欲向上がありました。反省としては、「なぜ他者と違う意見だったのか」を自己分析させ、「対応策を考えさせる」時間を多く設定できなかったことです。自ら考え、他者の意見を取り入れつつ、論理的判断による表現と、生徒内省を伴った授業を今後も目指したいと考えています。

「地域社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じて、よりよい社会を創るという目標を共有し連携することが必要」と新学習指導要領では明記され、それが「社会に開かれた教育課程」であるされています。十和田西高という名称は令和5年3月で消滅してしまいましたが、地域社会と繋がり、認められ、他地域からも協働を求められ、「地域の宝」を残したことは疑いようがない事実です。目標・理想・夢を地域の大人と語り合うことで応援と援助を勝ち取り、地域の大人と一緒に未来を切り拓いた高校生の活動について忘れず、次の世代の未来を手助けする新しい手段を今後も創出していけたらと強く願っています。



## 【特別寄稿】

### 「全国産業教育フェア青森大会 商業部「わくわくこども商人（あきんど）」を終えて」

青森県立青森商業高等学校 教諭 須藤 貴 則

これまでの全国産業教育フェア開催県の商業部においては、「キッズビジネスタウン」という名称で、小学生等を対象に幅広い職業体験ができる催しの企画が実施されてきました。そこで本県では、商業を学ぶ高校生が担当するのであれば、商業科目の学習を通して身に付けた知識と技術を活用した催しを企画できないものかと検討した結果、本県独自に「わくわくこども商人（あきんど）」を企画・実践することにしました。対象は小学4～6年生とし、商業科目と関連性のある職業のみを体験できる企画の検討を開始しました。商業部幹事の各校の先生方とともに体験内容を検討し、その中から6つの職業体験を企画することに決定しました。企画した6つの職業体験は以下のとおりです。

- ① 県内の商業科を設置する学校（青森商業高校・黒石商業高校、弘前実業高校、三沢商業高校、八戸商業高校）が開発した商品を販売する商品販売員
  - ② タブレットを活用した Air レジによる会計と商品管理の仕組み、マーケティング理論に基づいた商品陳列を体験するコンビニ店員
  - ③ パソコンを使ってポップ広告制作を体験する広告代理店員
  - ④ パソコンソフト（Excel）のプログラミング機能を活用したアプリ開発を体験するプログラマー
  - ⑤ ネット通販サイトで好きな県産品の販売ページ制作を体験するウェブデザイナー
  - ⑥ 小切手作成や働いた子どもたちへの給料（あぶるマネー）を支払う窓口業務、1億円の重さを体験する銀行員
- 併せて、働いた子どもたちが受け取った給料で遊んだり、買い物ができる「射的」「輪投げ」「めだかすくい」「くじ引き」「ポップコーン」の買い物体験も企画しました。これらの各体験の運営に向けて、会場に近い青森商業高校の生徒を中心に各校と連携しながら準備を進めていきました。

準備と並行して、青森市教育委員会とも連携し、会場近隣の小学校に参加を呼び掛け、子どもたちが安全に楽しく体験できるよう、協力いただく小学校の先生方とも入念な打合せを重ねました。また、県内全域の小学生にも参加を呼び掛けるため、黒石高校情報デザイン科の生徒に参加募集用のポスター・チラシ制作を依頼し、完成版を県内の全小学校に配布しました。その後、Google フォームを活用して募集を開始したところ、2日目で定員に達したことから、早々に募集フォームを閉鎖することになり、わくわくこども商人に対する関心の高さを実感しました。

本番前日には各体験ブースの準備を行い、生徒は担当教員の指導のもと、当日の動きについてリハーサルを繰り返していました。積極的に担当教員と打ち合わせしながら、一生懸命準備に当たっている生徒の姿に逞しさを感じました。本番当日の朝を迎え、元気な声を上げながらバスから降りてくる小学生の姿に「いよいよ始まるな」という思いがこみ上げ、一気に緊張が高まったことを覚えています。整列した小学生を担当生徒が各体験ブースに誘導し、職業体験がスタートしました。最初は高校生も小学生も緊張気味でしたが、すぐに打ち解けて楽しそうに職業体験が進んでいきました。お客様に声掛けする元気な声、棚に商品を補充する楽しそうな笑顔、パソコンを使ったポップ広告制作やプログラミングなどに取り組む真剣な眼差し、給



料と引き替えになる小切手を大切に運ぶ姿など、わくわくこども商人エリアは、生き生きと活動する小学生の活気に満ち溢れていました。また、小学生の活動をサポートする高校生も、仕事の手順を優しく丁寧に教えるなど、普段の学校生活では見られない一面を見ることができ、驚きと新鮮さを感じることができました。小学生と高校生が一体となって取り組んでいる様子が微笑ましく、感動を覚えました。職業体験を終えて給料を受け取った小学生は、買い物体験を楽しみ満足した表情でバスに乗り込み、帰路につきました。

当日引率を担当された小学校の先生からは「本当に素晴らしい体験をさせていただき感謝しています。子供たちもすごく楽しかったと喜んでます。」との嬉しいコメントをいただき、わくわくこども商人を企画して本当に良かったと心から思いました。これもひとえに、関係各校の先生方、生徒の皆さんのご協力があったこそだと感謝しています。本当にありがとうございました。この取組が商業教育の魅力をどのように発信していくのかを考える一つのきっかけになりました。わくわくこども商人に参加してくれた小学生が、職業体験を通して商業教育の魅力を感じ、数年後に県内各地の学校における商業の学びを経て、地域経済を担う人財に成長してくれることを期待しています。



## 【特別寄稿】

### 「名刺作成体験 × りんごの和紙＝来場者の笑顔」

青森県立弘前実業高等学校 教諭 長谷川 善 弘

さんフェア青森2022開催に向けた会議の中で、商業部ブース内での体験学習の1つに名刺作成体験を行うこととなった。そして、弘前実業高校が担当することに決まった。この日から商業での学びや魅力をどのように全国に発信していくか？「名刺作成体験 × 付加価値＝来場者の笑顔」プロジェクトが始まり、私のわくわくがスタートした。

本校生徒が課題研究で取り組んでいたりんごの和紙にビビッと心が動いた。これだ！

「名刺作成体験 × りんごの和紙＝来場者の笑顔」を目標と設定した。

本校の課題研究において継続して調査研究を行っているテーマで「アップサイクル」がある。今年度は焼却処分されるりんごの剪定枝に着目し、アップサイクルできないか調査研究を開始した。調査したところ弘前大学教育学部の廣瀬孝准教授が会長を務める「りんご／さくら和紙研究会」において、りんごやさくらの剪定枝を原材料とした和紙を活用した商品開発を行っていることを知り、早速今回のさんフェア青森で使用する和紙を作成できないか、交渉に伺ったところ快諾していただいた。

8月17日、18日に弘前市相馬地区にあるふれあい交流センター紙漉の里において、班員（女子生徒6名）で名刺用紙を作成するため紙漉体験を実施し、和紙の作成に取り組んだ。目標作成枚数はA3サイズ120枚とし、①パルプ浸水／ビーター＆打開／ネリ準備&説明、②りんご剪定枝パルプの攪拌、ネリ材準備、準備完了後、試し漉き開始、乾燥、③紙漉～脱水～乾燥 の手順に従って、お盆がすぎたとはいえまだまだ暑い最中、生徒たちは一生懸命作業に取り組んだ。

均一に紙漉を行うことが難しく、コツをつかむまで時間はかかったが、なんとか目標の120枚を達成することができた。また、弘前藩と和紙の歴史や長慶天皇の潜幸伝説など、非常に興味深い地域の歴史を知ることができた。

名刺体験に参加する小学生に青森県の魅力を十二分に知ってもらいたいと思い、作成した和紙の裏面には青森県内の市町村の特産品や名所を記載した。これにより、逆に高校生が県内の魅力について新しい発見をすることができた。

次に大会に向けて、会場のレイアウトについて考えた。まずは、「りんご／さくら和紙研究会」の取り組みを知ってもらうため、活動内容について拡大印刷して机に貼り付け、机上には和紙を使用したミニねふたや紙製品の試作品を展示することとした。また、入場口には我々が紙漉を行った際に取材していただいた報道記事を掲示することとした。

大会当日は、思っていたよりもたくさんの子もたちや、高校生、大人の方々が名刺を作りたいと来場し、事前に準備していた和紙の用紙が10枚程度しか残らなかった。今回の取り組みで、焼却処分されるりんごの剪定枝が、付加価値のある製品として生まれ変わっていることを多くの人に知ってもらい、今後、りんごの剪定枝を利用した和紙の商品開発や販売の一助とすることができた。

報道のインタビューに生徒は、「青森県から離れた場所に自分たちの手がけた名刺が旅立つと思うと、うれしく思う」と応じていた。また、来場者からは「りんごの木の和紙に心引かれた。対応する生徒の一生懸命さ。記念として名刺交換せず持っていたい」など多くの嬉しいコメントを頂いた。このことから、生徒たちが取り組んできた商業の学びを全国に発信できたと感じている。このような機会を与えてくれた関係者に感謝すると共に、今後も生徒たちに地域の魅力と通じて、商業の見方・考え方を伝え続けたいと考えている。



## 【特別寄稿】

### 令和4年度第32回全国産業教育フェア青森大会【県内企業魅力体験】実施報告

青森県立八戸商業高等学校 教諭 藤ヶ森 誠 司

- 1 日 時 令和4年10月16日(日) 9:30~11:30
- 2 場 所 マエダアリーナ(メインアリーナ内、体験場所A)
- 3 連携企業 株式会社アイティワーク(八戸市江陽5丁目15-12)  
取締役 岡本 信也 氏、秋葉 正翔 氏
- 4 担 当 生徒6名 情報処理科3年 濱渡 珠世(班長・受付)、地代所 優生(動画)、  
山日 滯(体験)、大久保 玲菜(体験)、高宮 菜緒(受付)、村井 美優(体験)  
教員2名 教諭 藤ヶ森 誠司、教諭 三橋 壮大
- 5 参加者数 31名(うちアプリ体験者数28名)
- 6 内 容 (1) 本校と企業の連携した取り組みと企業の紹介をまとめた動画の上映  
(2) 制作したアプリ体験及びプログラム体験  
(3) ポスター展示(企業と連携した取組紹介、学校紹介、企業紹介、学科紹介)
- 7 所 感

約2年間にわたる企業と連携した取り組みにより、IT企業を知るとともに業務内容についても学ぶことができた。生徒にとっては、普段の授業で学んでいる学習内容が、企業では基礎となる大切な知識なのだと気づきを得ることができた。また、私にとってもIT企業の業務内容の一端に触れられたことは、授業や様々な場面で活かされる貴重な経験になったと感じている。

企業と連携した取り組みを紹介するポスターの制作では、企業を訪問して取材し、企業の特徴を紹介するポスターにまとめることができた。制作にあたっては、デザインや配色にこだわり、まとまりのあるポスターを制作できた。また、企業訪問では動画撮影も同時に行い、実際に仕事をしている様子や企業としてどのようなビジョンを持って経営しているかなどをインタビュー形式で撮影することができた。このようにして動画に収めた内容は、小学生にも興味を持ってもらえるように編集を加え、体験コーナー内で上映することができた。アプリ制作では、南部弁をクイズ形式で紹介し、実際の音声を加えるなどの工夫を取り入れながら制作できた。思うように動作しないことも多くあったが、企業の方にサポートをいただきながら完成させることができた。

大会当日のプログラム体験では、参加した小学生にプログラミングの楽しさを体験させることができた。また、参加した幅広い年代の方からも多くの励ましの言葉をいただくことができた。大会直前まで、より良いものを出品しようと試行錯誤して制作に打ち込んだ生徒達は、他では経験できない達成感を得ることができたと感じている。将来、情報分野の職業を志す生徒が多く、2年間の取り組みから身に付けたことは、将来に必ず活かされていくものと期待している。



## 【特別寄稿】

### 令和4年度全国産業教育フェア青森大会「商業部：電卓・ワープロ体験」

青森県立三沢商業高等学校 教諭 平川正晃

産業教育フェア青森大会（さんフェア青森2022）での商業部ブースは、メインブースの後ろのアリーナ中央通路付近に設営された場所で、「体験学習」を実施しました。

「体験学習」の「電卓・ワープロ学習体験」では、三沢商業高校の珠算部とワープロ部の選手が全国競技大会で出題される問題を入力プロジェクターで拡大投影して、大会さながらに実演したり、参加者に電卓やタイピングの指導をしたりしました。

会場には、双方6台ずつ配備して、担当生徒3名が一度に2人の体験参加者を担当できるように配置するとともに、1時間ごとに交代で操作スピードをプロジェクターで実演する場所を設けた。特に、電卓とワープロの競技大会選手による実演は、プロジェクターを使って披露し、操作スピードと正確性に参観者から驚きの感想をいただきました。

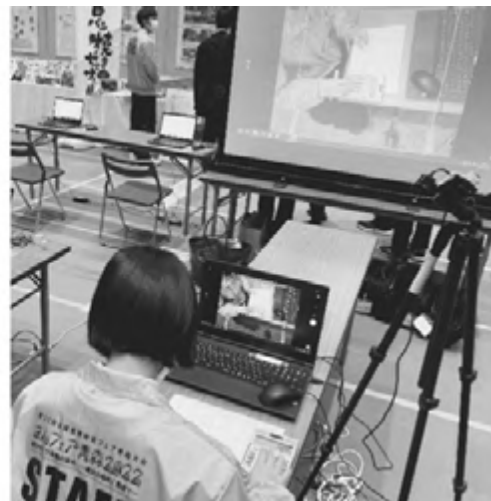
「電卓学習体験」では、競技大会問題や普段の練習問題のほかに、ビジネス計算検定の問題や電卓操作の基本練習問題（見取り算）を用意して、参加した児童や生徒、保護者の希望に合わせて、解答を求める電卓操作や解答となる数値の記入について、問題を説明しながら解答させていた。

「ワープロ学習体験」では、キーボードの使い方やローマ字の資料を準備して、タイピング練習ソフトにいくつかの練習文章を登録して、参加した児童や生徒にキーボード操作を練習させていた。

体験学習は2日間あり、担当した生徒は、始めは緊張のためか、スムーズに進行することができなかったが、受付や呼び込みで集めた参加者が多くなるにつれて、立派な講師として参加者に体験学習させることができるようになった。



ワープロ体験学習



電卓実演

最後に、今回商業部のコーナーを担当した生徒は、全国産業教育フェアで貴重な経験を積むことができた。さらに、来場したお客様や体験学習の参加者への対応は、親切丁寧で大変素晴らしかった。商業高校生が誇らしく感じた。

## 【特別寄稿】

### グローバルな人財育成への取り組み

青森県立青森商業高等学校 教諭 高橋 恭一

#### 1 はじめに

本校では、平成30年度に一般財団法人青森商業高等学校後援会が、冒険家であり探検家でもあった笹森儀助翁の名を冠した「笹森儀助基金」を創設した。その基金を活用し台湾の松山高級商業家事職業学校と連携して、インバウンド観光に関する市場調査や青森県のPR活動・交流等を通して、青森県の魅力と異文化理解、主体性とチャレンジ精神、コミュニケーション能力の向上を目指す取り組みの実践が行われてきた。

令和元年度は、県教育庁の「ドリカム人づくり推進事業」及び一般財団法人青森商業高等学校後援会の「笹森儀助基金活用事業」として、「AOMORIと世界をビジネスで繋ぐ高校生チャレンジ（台湾編）～「商品開発と流通」の先進的な実践～」の取り組みが行われた。

令和2年度および令和3年度は、県教育庁のグローバル社会を主体的に生き抜く人財育成事業の「青森・台湾間の高校生協働学習促進プログラム」及び一般財団法人青森商業高等学校後援会の「笹森儀助基金活用事業」を活用しての取り組みの実践が行われた。

本校では、台北市立松山高級商業家事職業学校及び台北市立士林高級商業職業学校と教育交流を実施することから、令和4年2月16日にグローバル人財育成ワーキンググループを設置した。

#### 2 グローバル人財育成ワーキンググループについて

##### 設置要項

##### 1 趣旨

本校は、平成30年度に笹森儀助基金等を活用し、「台湾とのインアウトバウンド観光を考える」を目的に台湾現地視察研修を実施した。この研修を通して台北市立松山高級商業家事職業学校と教育交流を実施している。

令和3年度青森県教育委員会と台北市政府教育局との教育交流協力に関する了解覚書の締結による教育交流を台北市立士林高級商業職業学校と実施することとなった。（予定では2年間）

さらに、令和4年度から2年間実施することとなる庁内ベンチャー事業に「青商ビジネスチャレンジ with 台湾」を提案し採択された。

これらの台湾と交流に係ることについて、事業計画の立案・実施等について検討することを目的にワーキンググループを商業教育部の下部組織として位置づけて設置することとする。

##### 2 検討内容について

- (1) 台北市立松山高級商業家事職業学校との交流に係ること
- (2) 台北市立士林高級商業職業学校との交流に係ること
- (3) 庁内ベンチャー事業「青商ビジネスチャレンジ with 台湾」に係ること

##### 3 構成員

チーフ 教頭

委員 商業科主任、情報処理科主任、教務部主任、渉外部主任、事業に係る学年主任、英語科主任、商業教育部、商業研究部顧問、事務部、その他必要な教員

##### 4 期間

令和4年2月16日から

令和4年度の人事異動により、商業科の教頭が異動になったことから、構成員チーフを教頭から商業教育部所属の教諭へ変更するため、ワーキンググループの設置要項を一部改正した。

この改正により、令和4年4月1日からのチーフは私、高橋となった。

このワーキンググループでは、年間計画、協働学習に参加する生徒の募集・選考方法、研修会の内容・予算等について、検討した。

### 3 令和4年度の取り組み

今年度より県教育庁の青森から世界へ向かってチャレンジするグローバル人財育成事業「青森と台湾の高校生による協働学習推進プログラム」と県企画政策部地域活力振興部の提案者事業実施制度（庁内ベンチャー）「青商ビジネスチャレンジ with 台湾事業」に取り組むこととなった。この2つの事業は、本来であれば台湾へ渡航して交流予定だったが、新型コロナウイルスの影響からオンライン協働学習が中心となった。

#### (1) 青森から世界へ向かってチャレンジするグローバル人財育成事業

##### 「青森と台湾の高校生による協働学習推進プログラム」

台北市立士林高級商業職業学校と昨年度から引き続き、オンライン協働学習を実施した。昨年度は学校紹介だけの交流であったが、今年度は「観光ビジネス」に関する学習や青森県の文化等を通して、青森県の魅力と異文化理解、主体性とチャレンジ精神、コミュニケーション能力の向上を目指すことを目的に3回のオンライン協働学習を実施した。

##### ア 第1回オンライン協働学習

(ア) 期日 令和4年10月26日(水) 16:00~17:00

(イ) 場所 本校プログラミング室

(ウ) 内容 開会宣言

両校英語による学校紹介

両校英語による地域紹介

両校英語による自己紹介

閉会宣言

進行および通訳者

外崎 真由美 氏(株式会社 Make Mii)

(エ) 対象生徒 1学年4名 2学年4名 3学年3名



【学校紹介】

##### イ 第2回オンライン協働学習

(ア) 期日 令和4年11月17日(木) 14:35~15:25 (C表7校時)

(イ) 場所 本校(2学年:第1体育館 1・3学年:各教室 YouTube 配信)

(ウ) 内容 開会宣言

両校校長あいさつ

青森県立青森商業高等学校

校長 三上 雅也

台北市立士林高級商業職業学校

校長 余 耀銘

コーディネーターあいさつ

青森市国際交流員 呉 詠心 氏

両校地域の祭り紹介

コーディネーター質疑

両校生徒代表感想

青森県立青森商業高等学校 大山 莉奈

台北市立士林高級商業職業学校 生徒代表

両校校長お礼の言葉

閉会宣言

進行者(士林高級商業にて) 外崎 真由美 氏(株式会社 Make Mii)

本校側通訳者 古川 こんゆ 氏

(エ) 対象生徒 全校



【地域の祭り紹介】

### ウ 第3回オンライン協働学習

(ア) 期日 令和4年12月21日(水) 15:30~16:30

(イ) 場所 本校プログラミング室

(ウ) 内容 開会宣言

英語による台湾名産品紹介

英語による本校開発商品紹介

商品について質疑

両校教員感想

閉会宣言

進行者 外崎 真由美 氏 (株式会社 Make Mii)

通訳者 古川 こんゆ 氏

(エ) 対象生徒 1学年4名 2学年4名 3学年3名



【商品について質疑】

## (2) 提案者事業実施制度(庁内ベンチャー)「青商ビジネスチャレンジ with 台湾事業」(新規)

グローバル社会を主体的に生き抜く人財育成事業の「青森・台湾間の高校生協働学習促進プログラム」及び一般財団法人青森商業高等学校後援会の「笹森儀助基金活用事業」で台北市立松山高級商業家事職業学校との協働学習内容を引き継ぐ形で実施した。開発商品である青森県産ホタテを使ったパスタソースペロンチーノ味の流通販売に取り組んだ。また、松山高級商業家事職業学校は台湾企業向けの盛り付け例の画像を添えた販売促進用のPOP広告に取り組んだ。

### ア パスタソース商談

令和4年5月13日のイオン東北とのオンライン商談会を皮切りに、青森市内13の小売店と商談を実施した。3学年商業科課題研究台湾班の生徒たちが実際に企業の方々と対面して商品の特徴や良さをPRすることによって、ビジネスの厳しさ、面白さを体験することができた。多くの企業から生徒たちが商談に臨む姿勢やパスタソースの完成度を高く評価していただいた。



【商談】

### イ パスタソース販売開始

株式会社 味の加久の屋の協力を得て、商品名「たんげめえ! 美味醬醬(びみじゃんじゃん)」ペペロンチーノ味が完成した。商品名の美味醬醬とは、凄く美味しいという意味である。令和4年7月8日よりイオン青森他、青森市内を中心に県内27の小売店での販売となった。多くの小売店による取り扱いが実現したのは、生徒たちが熱意ある商談を行った成果であり、商談を重ねるたびに、商品の魅力をより上手に伝えられるようになり成長が感じられた。



【パッケージ】

### ウ 販売実習

令和4年7月9日から8月下旬にかけて青森市内のパスタソース取扱小売店で、3学年商業科課題研究台湾班の生徒たちを中心に、販売実習を実施した。また、10月の本校創立120周年記念青商同窓会懇親会、全国産業教育フェア青森大会においても販売実習を実施した。新型コロナウイルスの状況下で試食が実施できない中、台湾の高校との共同開発商品ということに興味をもっていただき、大変好調な売れ行きであった。



【販売実習】

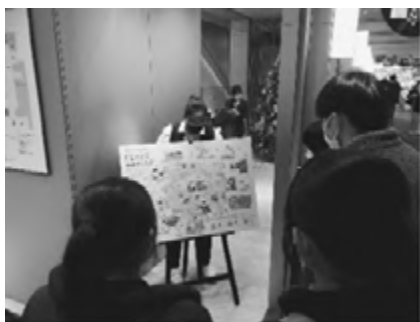
### エ 東京研修会

台湾研修会の代替として、令和4年12月14日から17日の4日間、青森商業高等学校生徒20名・教員4名、弘前実業高等学校生徒2名・教員1名、三沢商業高等学校生徒2名・教員1名の参加で、国内外でビジネスを展開するノウハウを身に付け、世界に向かってチャレンジする人財を育成するため、台湾企業との商談・視察等を行い、台湾の文化理解、主体性とチャレンジ精神、コミュニケーション能力の向上を目指す目的で実施した。研修を通し

て克服できた課題、残された課題等の様々な気づきや感銘を受けたことにより、生徒の視野が広がったと感じた。詳細につきましては、本書の東京研修会紀行を参考にさせていただきたい。

(7) 研修内容

12月14日(水) 誠品生活日本橋 台湾企業視察  
鼎泰豊東京駅八重洲口店 台湾文化視察(夕食)



【誠品生活日本橋】



【鼎泰豊東京駅八重洲口店】

12月15日(木) 東京媽祖廟 台湾文化視察  
サニーヒルズ南青山 台湾企業視察  
ワークキャピタル株式会社 講演会  
大東港運株式会社 講演会  
フージンツリーコロド室町 台湾文化視察(夕食)



【東京媽祖廟】



【大東港運株式会社】

12月16日(金) 金門湾株式会社 商談  
株式会社トモトモ 商談  
AoMoLink 赤坂 販売実習および商談



【商談】



【販売実習】

#### 4 終わりに

今年度は、第32回全国産業教育フェア青森大会、東北6県商業教育研究大会、本校創立120周年記念式典と、多くの行事があり、開催準備にあたりながら青森県立青森商業高等学校全体で取り組んできた。さらに、本校は商業科の拠点校として県内の商業高校とともにグローバルな人財育成に挑戦していきたい。

来年度は、7月下旬に「台湾フェア(仮)」と題して台湾の商品を取り扱った販売実習を計画している。この販売実習には県内の商業高校と一緒に取り組み、青森県の商業教育をアピールする機会にしたい。

がんばろう！ 青森県の商業教育!!

## 【特別寄稿】

# 青商ビジネスチャレンジ with 台湾事業 東京研修会紀行

期 間 令和4年12月14日（水）～17日（土）  
宿 泊 ヴィアインプライム赤坂  
参加者 青森商業高等学校 生徒20名 教員4名  
弘前実業高等学校 生徒 2名 教員1名  
三沢商業高等学校 生徒 2名 教員1名  
コーディネーター 外崎 真由美 氏（株式会社 Make Mii）

月 日	行 程
12月14日 (水)	はやぶさ24号 台湾企業視察 台湾文化視察（夕食） 新青森駅・・・東京駅・・・誠品生活日本橋・・・鼎泰豊東京駅八重洲口店 12:39 16:04 16:15 16:30 18:15 18:30 20:00 ・・・ホテル 20:30
12月15日 (木)	台湾文化視察 台湾企業視察 昼食 ホテル・・・東京媽祖廟・・・サニーヒルズ南青山・・・ハードロックカフェ東京 9:00 9:30 10:30 11:00 12:00 12:30 13:30 講演会(ワケキヤトル・大東港運) 台湾文化視察（夕食） 大東港運(株)・・・フージンツリーコレド室町・・・ホテル着 14:00 17:00 18:00 20:00 20:30
12月16日 (金)	商談・販売実習 夕食 ホテル・・・AoMoLink 赤坂・・・カンガンスルレ東館・・・ホテル 10:00 10:15 19:00 19:30 21:00 21:30
12月17日 (土)	はやぶさ25号 ホテル・・・赤坂駅・・・東京駅・・・新青森駅 9:30 9:40 9:58 13:20 16:43

12月14日（水）

誠品生活日本橋有隣堂

青森県立青森商業高等学校

商業科 1年 三上 亜愛

1日目の企業視察で「誠品生活日本橋有隣堂」様に行きました。ここでは、台湾と日本の商品が置いてあり、



主に台湾の商品が売られていました。2つの国の商品が売られているので比べやすかったです。台湾はパッケージが派手な商品がありました。また、有名な石鹸や有名な台湾のデザイナーのファイルやハンカチがありました。本などもあり、日本語の本だけではなく、台湾語の本もありました。その他、台湾のお菓子やお茶、レストランもあり、幅広く商品が揃っていました。1つ1つの種類が豊富だったので見るだけでもすごく楽しかったです。1番印象に残ったのはお茶と石鹸です。どちらも種類がたくさんあり、香りや効果が1つ1つ違ってすごかった

です。このお店に行ったことで台湾と日本の違いを知ることができて良かったです。実際に台湾の商品を目にし、今まで見たことのない商品も見ることができて楽しかったです。

### 鼎泰豊東京駅八重洲口店

青森県立青森商業高等学校

商業科 1年 三上 真

1日目の夕食で鼎泰豊（ディンタイフォン）という飲食店に行きました。ここは台湾の有名な小籠包屋さんで、本場の小籠包の味を楽しむことができました。日本ではあまり小籠包に生姜をのせて食べることはありませんが、台湾ではそれが当たり前だったり、様々な料理にピーナッツが入っていたりと日本ではあまり見ることのない料理を食べることができました。短い時間ではありましたが、日本と台湾の食文化の違いをたくさん発見することができました。食文化だけではなく、食事のマナーも日本と違うところがあると思うので知りたいと思いました。

また、タピオカや台湾カステラなどは日本で人気があるので、台湾に行けることになったら本場の味をしっかり噛み締めたいです。台湾にはまだまだ美味しい食べ物や知らない食べ物があると思うので、台湾に行けることを心から願っています。台湾だけではなく、他の国の料理も食べたいです。



12月15日（木）

### 東京媽祖廟

青森県立青森商業高等学校

商業科 2年 成田 侑史



東京媽祖廟（とうきょうまそびょう）という場所に行きました。台湾のお寺のような建物です。日本媽祖会が中心になって計画し、台湾人が比較的多く住む新宿区大久保に近い土地に決めて建設されたそうです。この建物は4階建てで、1階が受付と事務所、2階が關聖帝君殿、3階が媽祖殿で粉面媽祖、黒面媽祖、金面媽祖を祀り、4階が観音殿となっていました。感じたことは、日本のお寺と色々と違うところが多いということです。例えば、線香がとても太くて長いとか、見た目が派手な雰囲気などです。建物の中では特有の曲が流れていましたが、お経の様でした。

意味の分からないものがたくさんありましたが、すべてに物語があることが分かりました。お寺には全然興味はありませんでしたが、少しだけおもしろいと思いました。もっとお寺のことに詳しくなったら、もっとおもしろく見られたと思いました。台湾の空気感を味わうことができたので、この見学場所を計画してくれた方に感謝します。

### サニーヒルズ南青山

青森県立青森商業高等学校

商業科 2年 亀田 沙来

サニーヒルズ南青山様を見学して1番に思ったことは建物がすごくおしゃれということです。オリンピックの会場を手がけた隈研吾さんが「都内の中に森を作る」を目標に設計したデザインは、外装から内装まで木の温もりを全面に感じることができ、実際に建物内に入ると木漏れ日が差し込み、都内のにぎやかさとは

反対に森の静けさが感じられました。また、地獄組みという手法で釘を一切使わず複雑に角材を組み込むことで建てられていることを聞き、驚きました。特別に屋上も見学させていただきました。東京の空を近くに感じることができ、とても素敵な空間でした。隈研吾さんの建築物の虜になりました。隈研吾さんがデザインした十和田市民交流プラザも行ってみたいと思います。パイナップルケーキのパッケージやエコバックも建物に引けをとらないくらいオシャレで目を奪われました。青森リンゴを使ったリンゴケーキは、南青山店限定でしたが台湾の本店でも売られるといいなと思いました。



## ワークキャピタル株式会社

青森県立青森商業高等学校

商業科 3年 兼平 彩羽

菊岡さんの話を聞いて、20歳から会社を立ち上げたいと思い立って29歳で起業したという、目標にまっすぐ向かっていく精神を見習いたいと思いました。菊岡さんが、日本の消費者の目は厳しいと話していて、正直なところ自覚はしていませんでしたが、話を聞いて思い返すと心当たりがあり納得しました。しかし、



私は海外の消費者をよく知らないで、話の中で海外の消費者の様子を知ることができたのは一つの収穫だと思いました。また、台湾企業が日本のマーケットを選ぶ理由として、日本に認められるとブランド力がつくということだったので、日本人として少し誇らしい気持ちになりました。また、シャイニーのリンゴジュースを輸出していると聞いて、知っている青森の商品が台湾にも伝わっていると感じ、うれしく思いました。納豆の輸出は初めて聞いたので面白いなと思いました。今回の話は、私たちの次につながるものになったと思います。

## 大東港運株式会社

青森県立青森商業高等学校

商業科 3年 成田 陽南

講演を聞き、輸出入をすることは簡単なことではないということを知りました。輸出入にはそれぞれたくさんの書類が必要なこと、輸出することはできても相手国で受け取ってもらえないというリスクがあることなど、初めて知ることがたくさんありました。また、商品ごとに必要な書類が違うことや、まだまだ原発事故の影響を気にしている国があることを知り驚きました。

また、りんごの輸出については、細かく作業が分けられ、りんご1つ1つに虫がいないか確認すること、台湾では日本語で書かれている商品がよく売れるということから、日本語が書かれている箱で輸出することなどを知ることができました。

ここの講演を聞いて日本に輸入している商品のほとんどが大東港運様に関わっていることを知り、これからスーパーなどで輸入した商品を見るときに、今までとは違った見方ができ、将来の幅が広がると考えます。



## フージンツリーコレド室町

青森県立青森商業高等学校

商業科 3年 鎌田 遥大



2日目の夕食は、台湾のコース料理を食べることができる、フージンツリーコレド室町テラス店へ行きました。最初に驚いたのはサービスでノンアルコールシャンパンが出てきたことです。内装はとても台湾を感じるものでした。

一番美味しかった料理は、牡蠣と揚げパンのにんにくソースです。牡蠣はプリプリで美味しかったです。甘みが強いソースで、日本のご飯には合わないと感じました。コース料理を通して、基本的に甘みが強いイメージでした。

日本食と台湾食の違いを発見し、独特な味が多かったですが、とてもおしゃれで初めて聞いた食材があり、楽しかったです。

次は台湾の方に日本食の味を楽しんでもらえるよう、沢山交流を深めていきたいです。

12月16日（金）

商談を通して

青森県立青森商業高等学校

商業科 3年 川端 彩由

2日目、3日目に商談を行い、良かった点や改善する点が見つかりました。2日目では大東港運様と商談を行い、パスタソースの説明が少なく相手の目を見ていないことが反省点でした。そして、私たちの班は1人1人が説明する準備や要点がはっきり決まっていなく、商談内容がまとまっていませんでした。

3日目の商談では、班編成を変更して、誰が何を言うかなど、商品の一押しポイントをしっかり決めて説明をすることができました。そして、最後に相手が今見ているところや気になるところをしっかりフォローして話を続けることが大切だと感じました。今回の商談で金門湾株式会社様の葉さんから頂いたアドバイスは、青森をもっと売り出すこと、台湾の方は大量買いをすることを今回初めて知ることができ、勉強になりました。3日間で学んだことをしっかり後輩に伝えていき、さらに来年はより良い結果につながればと思います。



青森県立弘前実業高等学校

商業科 3年 小野 美羽



この研修で、商談という普通の高校生では体験できないことを何度もさせていただきました。このようにリアルな商談ができるとは思っていませんでした。初日の数回は何度も言葉に詰まり、うまく説明することができませんでした。しかし、アドバイスをもらい改善点を意識することで、2日目以降は、言葉に詰まらず、弘実生が二人だけの状況でも、助け合って商談を進めることができました。商談を通じて、相手の話をよく聞き関心の程度に合わせて最大限に自分をアピールする、相手との距離感を考え臨機応変に対応するなどの商談のコツや、助け合

いを学ぶことができました。また、私は以前、大勢の前で話したり瞬時に言葉を考えていることが苦手で

したが、商談を体験することで改善され、弱点ではなく強みになったと思いました。

この経験を忘れず、自信をもって、もっと大勢の人と話すことに自分から積極的に挑戦しようと思います。

## 販売実習を通して

青森県立青森商業高等学校

商業科 3年 高野 純怜



東京研修3日目、私たちは販売実習を行いました。1、2年生は全員販売実習が初めてだったのにも関わらず、誰1人緊張している様子は見せず楽しそうにやっていて嬉しかったです。全員で協力して完売できた時の達成感は、今まで以上に最高でした。私はお客様に「たんげめえ」という商品を深く説明をする役割を担当していて、2日目の時に聞いた商談を参考にしながら伝えることができました。しかし、言葉がまとまらずに話をしてしまい、紹介している途中で急に止まってしまったことがありました。そんな時に、隣にいた仲間がすごく上手にサポート

をしてくれて、私が午後の販売実習のリーダーを担当していましたが、私の方が学ぶことがすごく多かったと感じています。普段、話す機会があまりなかった1年生とも話すことができ、よりチームの仲が深まったのではないかと感じました。もっとたくさん販売したい気持ちはありましたが、本当に貴重で良い経験ができてよかったです。

青森県立青森商業高等学校

情報処理科 3年 三上 初花

私は今回の販売実習で初めて経験することがたくさんありました。その一つである試食の提供がうまくできず、配り切れずに冷めてしまったり、味の感想を聞きそびれたりしてしまいました。もっとお客様の様子をしっかりと伺い、声をかけることができたよかったですと思っています。また、今回は青森の商品が幅広く揃った店舗での販売でしたが、こぎんクッキーの説明の際に、こぎん刺しの売り場を生かすことができたので良かったです。パスタソースの販売時に、青森は短命県と呼ばれていて味が濃いのが好きな人が多いという話に反応していただける方が多かったです。そんな青森県民と、薄味を好む台湾の人々がおいしいと思える味を4年かけて探したので



どなたでもおいしく召し上がれる、と話す「どなたでも」に具体性が生まれるように感じました。青森を知っている方には短命県というところから話すと、共感を得られるところから始まるように感じました。

## 東京研修会を通して【生徒編】

青森県立青森商業高等学校

商業科 1年 嶋田 有紗

4日間の東京研修を終えて、台湾の魅力や日本と台湾の違いなど、台湾について沢山のことが分かりました。特に食べ物などは日本料理では使われていない食材などが使われたり、日本料理ではあまりない独特な香りがあるなど、日本と違う点をたくさん見つけることができました。また台湾の建物は鮮やかな色ばかりでとても魅力的でした。今回の東京研修を通してもっと台湾について知りたいと思いました。

また、2・3日目の先輩方による商談や、パスタソースを自分で販売する姿がとても心に残っています。先輩方の商談する姿を見て商談にとっても興味を持ちました。どのようにして商品の良さを伝え、お客様へ呼



びかけするべきなのかなど、たくさんのことを学びました。もし、また何か出来る機会があれば積極的に活動していきたいと思います。今回の研修で学んだことは忘れず、これからの学校生活に役立てたいです。

青森県立青森商業高等学校

商業科 1年 二ツ森 美乃里

今回の東京研修で私が印象に残っていることは3つあります。

1つ目は東京媽祖廟です。日本と台湾とでは、建物も全く違い、台湾の方が少し派手で、日本の方が落ち着いているなど思いました。

2つ目は大東港運(株)様で話を聞いたことです。私は空港にある税関とは何だろう?と思い、母に聞いたことがありました。母の説明だけではきちんと理解ができず、ハテナのままでした。しかし、大東港運様の高橋さんと若林さんの話を聞いて、理解することができました。

3つ目はアオモリンク赤坂で販売実習をしたことです。最初は緊張してできないかとも思っていたのですが、やってみたら意外と楽しく販売することができました。今回の東京研修では普段できないことができたので、よい経験になったと思いました。



青森県立青森商業高等学校

商業科 2年 佐藤 大冨



今回このプロジェクトへ参加していろいろな面で成長できました。コロナ禍で東京研修ができたことに感謝します。自分のどこが成長したかという、協調性が強くなったと思います。初めてやった販売実習ではグループを決めて、担当する時間にアオモリンク赤坂様の協力を得て行いました。そこでは、店の前を通りかかる方を店内に呼び込み、パスタソースを販売するというものでした。僕は店内で商品の説明をする役になりましたが、最初はよく分かりませんでした。先輩の姿を見ているとだんだん販売の仕方が分かってきて、しっかり説明でき、パスタソースや他の商品も販売することができました。

しかし、失敗もありました。朝寝坊をし、遅刻してしまったり、青森駅に集合するときにネクタイを忘れてしまったりとミスをしてしまったので、改善していきたいです。これから、オンライン交流会や発表をしていくと思うので、しっかり備えていきたいです。

青森県立青森商業高等学校

商業科 2年 大山 莉奈

私は、最初のころグローバル班から課題研究でパスタソースを作っている先輩たちの中に入ることがとても不安でした。しかし、すごく面白く心優しい先輩達の姿を見て、私も先輩達のようになりたいと思ったことや、すごく安心感を持って研修に参加することができました。初めて先輩方の商談を見て「すごい」と思

ったのですが、外崎さんから厳しいアドバイスを受けている先輩達を見て改めて簡単なことではないのだと痛感しました。来年実際に同じことをするのはとても不安ですが、商品のことや日本のマナーを勉強し準備を進めていきたいと思いました。また、今まで先輩達が築いてくれたことを壊さないように努力していきたいと思いました。

大東港運様での輸出・輸入など、めったに聞くことのできないお話を聞くことができ、とても良い経験が出来て良かったです。また、台湾の文化に触れ日本との違いを実際に感じ取れて良かったです。販売、仕入も今までにない経験をする事ができ、大きく成長することができてとても良かったです。



#### 青森県立青森商業高等学校

商業科 3年 小野寺 大貴



最初はお互い知らない人同士でしたが、日を重ねるごとに段々とチームワークが上がっていきました。それと同時にチームの雰囲気も良くなっていきました。商談で得られたことは、大人になっても生かせると思っています。ここの研修が始まる前に外崎さんとマンツーマンで商談練習をしたとき、自分は何もできず、本番では説明する順番を間違えましたが、最後まで説明できたことが成長できた部分だと思うので、自分自身を褒めてあげたいと思いました。参加した弘前実業高校、三沢商業高校の生徒も上手く活動していて、仲良くなることができました。自分はチームに迷惑をかけてしまいましたが、このチームで活動できたことが良かったと思いました。先生方は自分の時間を割いて、東京に行く計画を立ててくれてありがとうございました。

#### 青森県立青森商業高等学校

商業科 3年 南 楓華

高校生活では簡単に学べないことを学ぶことができたり、体験することができました。その中でも3つのことが印象に残っています。1つ目は商談についてです。1回目の商談はいきなりで準備もしていなくて、相手に伝えるときに戸惑ってしまい、班の全員が何も話さなくなるという場面があり全然説明することができませんでした。アドバイスとして外崎さんに相手がよく喋る人なのか、相手は資料のどこを見ているのかなどを確かめて、商談を進めるとよいとアドバイスをくださいました。2回目の商談では班の4人で役割を決めて、気楽に相手と話を楽しく終わることができました。2つ目は、台湾料理は食べ終わる頃にご飯が出てくることを知りました。また、日本とは違い同じ味付けの種類が多かったです。3つ目は、この研修会でメンバーとの距離が一気に縮まり、みんなで協力して研修会を終えることができ、よかったです。



#### 青森県立青森商業高等学校

商業科 3年 後藤 蓮河

4日間の東京研修で青森商業、弘前実業、三沢商業の3校の合同でコミュニケーションをとり協力して過ごすことができよかったです。商談のアドバイスでもあった「商談を1人でやらずにグループでやる理由は、

1人が困ったときにその周りが助け合って協力するため」と話されていたことが全体にも必要なことであり、それをみんなが自然にできていたのでもいいと思いました。また、商談をしていない販売担当の生徒もすごいと思いました。自分たちが商談をしているときに商品販売の呼び込み、お客様に対しての商品説明、そして説明で詰まったときに協力し合うということをしてくれたおかげで、アオモリンク様で販売したパスタソースは完売し、12月で一番の売上をあげることができてよかったです。



最後に、3校で協力しうまくコミュニケーションを取り合えて活動できたことがいい経験になりました。

青森県立青森商業高等学校

商業科 3年 池田 晏菜

この4日間を通してすごく成長できたと思います。

まず、悪かった点は商談の時に一生懸命になりすぎて相手のことをしっかり見ていなかったことです。相手が何を欲しいのか、どんなことに興味を持っているかなど、表情をあまり見ていなかったのが、次回は余裕をもって商談をしていきたいです。

良かった点は、自分から積極的に質問をしたり、感想を話せたことです。私は、普段学校にいるときなどは周りを気にして話せませんでした。しかし、今回の4日間ですら発信することは相手と自分の成長につながるということが分かりました。

そして、何よりもみんなと仲良くなれたのがよかったです。同じ学校で3年間話さず卒業するかもしれない友達や後輩と楽しく過ごせて、昔からの友達のようになれました。

今回の研修だけで終わるつながりではなく、今後ずっと仲良くしていきたいです。そして、私たちが先輩たちの思いを引き継いだように、また後輩へとつなげて、世界中にパスタソースを広められたらいいなと思いました。



青森県立青森商業高等学校

情報処理科 3年 田中 誠真

私は、今回主にカメラマンとして皆の活動を外から見ることが多くありました。その中で商談をした人が前日の改善点を次の日に修正し成長していった姿や、販売実習の人たちがお客様に買ってほしいという思いを大きな声で伝えたり、商品の説明を丁寧にしたりしている姿がとてもかっこよく見えました。高校関係なく一つのチームとして研修を終えることができ、達成感でいっぱいです。今回の研修で、いろいろな人と関わり活動をしてみて、これまで関わりのなかった人と話す機会があり、人とのつながりの大切さを改めて実感しました。自分は将来、起業をしてみたいという思いがあり、そのために人との関わり方やどんな起業をするのかを考える必要があると思いました。日本の中だけで仕事をするのではなく、海外とのつながりを持って仕事をするのも、とても面白そうだなと感じました。この4日間は自分にとってとても充実した時間を過ごせたと思います。このプロジェクトに関われば関わるほど、これまで先輩方がどれだけ苦労してここまで来たのか身にしみて感じています。この台湾との交流を通して、互いの文化や食の良さを尊重し合えることができれば、自分たちにとってよりよいものが得られると思いました。私はこのプロジェクトに参加し、海外とのつながりを持ってみたいと思うようになりました。これから、自分たちが作り上げてきたものを後輩へと引き継ぐ形になっていくと思います。自分たちの時よりもよりよいものにし、たくさんの成果をあげてほしいと思いました。高校を卒業しても、私はこの事業にずっと関わっていくつもりです。高校を

離れても、青森商業高校のために何かできることはないか考えて生活していきたいと思いました。これからうまくいくこともあればうまくいかないこともあると思いますが、すべて経験値に変えて、やってよかったと思えるように頑張りたいし、自分自身も頑張りたいです。

#### 青森県立青森商業高等学校

情報処理科 3年 佐々木 爽音



今回の東京研修では、自分自身の成長を大きく感じることができました。

最初は、言われたことをやるだけでした。しかし、3日目の販売では効果的なお店への呼び込み方や伝わりやすい説明の仕方を考え、実践しました。これにより青森のことを多くの人に知ってもらえたと思います。自分でも積極的に動けたことに驚きました。そして、ここで学んだ主体性はこれからの活動でも発揮していけるので、自分から行動していきたいです。また、ビジネスに対する考えが深まりました。2日目に、商談の様子と起業家や通関の仕事をしている方のお話を聞きました。貿易や企業の知識が増え、教科書だけでは学べないビジネスのことも知ることができました。

この2つ以外にも、研修に参加することで成長したことが多くあり、普通に生活していただだけでは学べないことも学ぶことができました。この事業に関わった全ての方に感謝して、自分の将来に生かしていきたいです。

#### 青森県立弘前実業高等学校

商業科 3年 花田 昂征

私はこの研修を通して、商品を輸出することの難しさを知ることができました。また、普段関わることのない青森商業高校や三沢商業高校の生徒と一緒に商談や企業のお話を聞くことができ、とてもいい経験になりました。

学校生活では経験できない企業の方との商談では、上手いかなかったことも多かったですが、私たちが取り組んでいる課題研究の検証をすることができました。

多くの企業の方とお話をし、ほとんどの方が「挑戦することが大事」と、おっしゃっていたので、これからの人生たくさんの方に挑戦していくようにしたいと思います。

最初の予定では台湾での研修だったはずが、東京に変更となり、少し残念な気持ちもありましたが、研修を実施してくださった方々に感謝しています。この研修会に参加できたことで、将来の自分の目標である起業のための勉強ができました。今後に活かし、そして、この繋がりを大切にしていきたいです。



#### 青森県立三沢商業高等学校

情報処理科 3年 江刺家 泰永

3泊4日の東京研修はとてもあっという間でした。心に残ったことが2つあります。1つ目は、貿易や税、台湾のことについて学ぶことができた点です。大東港運様や誠品生活日本橋有隣堂様のお話を聞き、資料を見ると、これから課題研究で役立つことや、将来のためになることが書いてあり、本当に勉強になりました。

2つ目は、台湾料理のおいしさです。1日目から3日目までの3日間で多様な種類の台湾料理を食べることができました。日本料理とはまた違う独特な味がして、おいしかったです。

反省点としては、2日目の途中から体調を崩してしまいました。2日目の昼以降、また3日目はホテル待機で研修に参加できず、迷惑を掛けてしまいました。本当にすみませんでした。今回の東京研修会で、青森

商業高校や弘前実業高校の皆さんとご一緒できて楽しかったです。今回学んだことをこれからに活かしていきたいです。貴重な体験をありがとうございました。

青森県立三沢商業高等学校

情報処理科 3年 風穴 理貴

私は実際に商談に参加することができず、Webを通してほかの高校の商談の様子を見ました。そこでは商品の細かいところまで作り込まれていて、よく考えられていると感じました。また、商品に関する情報や台湾の情報の量がとてもすごく熱量の違いに驚かされました。私たちも見習うべきだなと思いました。他にも商談をする際の態度や言葉遣いがとても丁寧で、参考にすべきだと思いました。商品売ることは思っているより大変でどの層に向けて売るか、輸入するときは値段が上がってしまうので何円に設定すれば買ってもらえるのか、その他にもたくさん気を付けるべきところが多々あると感じました。後輩たちには時間を掛けて台湾の良さや特徴をしっかりと理解してほしいと思いました。実際に台湾へ行って販売することは、東京で販売することよりも大変で言語の違いがあると思うので、様々なことに注意をして頑張ってきてほしいと思います。

### 東京研修会に参加して【教員編】

青森県立青森商業高等学校

教諭 飯田 奈緒子

鈴木有紀先生、高橋恭一先生、菊地礼剛先生とともに本研修会に参加しました。当初は台湾研修会の予定でしたが、残念ながら渡航できず、急遽東京に場所を変えて研修会を再編成することになりました。コーディネーターの外崎さんをはじめ、短期間でこの研修会を構築し実現してくださった関係者の方々に感謝申し上げます。

青森商業高校生と松山家商高校生による共同開発商品「パスタソースたんげめえ」を売り込むべく、生徒は事前に多くの県内企業との商談、販売実習を経てこの研修会に臨みましたが、勝手が違いました。実際に台湾企業の経営者の方と商談し、台湾のニーズや自分たちの改善点を知ることができ、次へつながる貴重な経験となりました。

大企業の方に熱く語っていただき、台湾の文化や大都会の空気に触れ、たくさんの大人と接した4日間は内容が濃く、あっという間に過ぎた印象です。毎晩のミーティングでの真剣な顔つきや発言の変化、商談や販売実習での積極的な言動など、日を追うごとに生徒の成長、可能性を感じることができました。学年、学校を越えて協力し、励まし合い、フォローし合いながら研修に臨むことができ、大変有意義な研修となりました。

次年度は、高校生が企画運営する青森で初めての台湾フェアの開催、台湾へ渡航しての青森フェアの開催など、新しいチャレンジが計画されています。次年度こそ台湾での活動ができることを願いながら、協力して準備を進めていきたいと思っています。

青森県立弘前実業高等学校

教諭 長谷川 善弘

課題研究の指導において、グローバルな視点の内容に取り組むと、どうしても机上の空論になってしまう傾向があります。今回の研修は、商談や貿易に関わる企業の講演等、研究を深めるには十分な内容でした。

課題研究で取り組んでいる商品を海外展開できないかという仮説のもと、今回の研修で検証することを目的に参加しました。事前に商談の練習をしたわけでもなく、ただ目的達成のため主体的に行動し、データを取っている2人を観察していて、成長や可能性を感じることができました。この成長を感じることができたのも、学校は違えど商業を学ぶ仲間と刺激し合えたことが要因の一つと考えています。特に夜のミーティングで、参加者全員が真剣に1日を振り返り、報告し合い、明日へのエネルギーとしている姿に私の心が動き、

楽しい時間でした。

現代社会においてグローバルな視点で物事をとらえることは、大切な要素であり必要なことだと思います。体験や経験は、やりっぱなしではもったいない、活かすことで初めて価値が生まれるものと私は考えています。価値に付加価値をつけた生徒たちの活躍を信じています。そのためにも積極的な外部人材の活用、校外での学習が不可欠だと強く感じました。今回の研修内容や行程が満足できただけに、生徒たちには海外で研修させたかったという気持ちが湧いてきた4日間でした。

道半ば水になりたい長谷川より

青森県立三沢商業高等学校

教諭 櫻田 篤

「販売実践活動を通じて、国内外でビジネスを展開するノウハウを高校段階から身に付け、世界に向かってチャレンジをする人財を育成する」ことを目的とする本事業の東京研修会に参加して、課題とともに希望が見つけられました。課題については、販売する商品の現在までの過程、そしてこれからどのような展開にし、最終的にはどういった商品とするのかのビジョンを明確に持つことが不可欠であると感じました。また、どこにポイントを置いて商談を進めるかなども重要であると思いました。希望については、参加した生徒の研修会での姿勢です。台湾の文化視察や企業視察、商談・販売実習の際に、生徒の姿勢、特に「目」に注目していました。どの生徒も全てを吸収しようとする目をしていて、台湾の文化理解、主体性とチャレンジ精神が見受けられました。次年度は、県内商業高校と連携したビジネスプロジェクトの協働実践、台湾および日本での販売実践が計画されております。今年度の事業は、確実に次年度につながるものであると感じております。今回の研修会の企画および参加された全ての皆様に感謝します。



誠品生活日本橋



東京媽祖廟



サニーヒルズ南青山

## 教科調査官講演

「商業教育の現状・課題と専門教科「商業」における学習評価の在り方」

文部科学省初等中等教育局参事官（高等学校担当）付産業教育振興室

教科調査官 田 中 圭

学習評価の在り方について、先生方にお伝えしたいことは、「学習評価はそんなに難しくない」ということである。学習評価については、もう既に各学校で取り入れて、授業の中で実施しているだろう。先生方は次のような経験をしたことがあるのではないだろうか。今日、授業をしたが、生徒の反応を見ると、何か反応が良くない。そこで、先生方は、次のように考えるだろう。このままでは、次の学習内容に進んでもなかなか理解が深まらないのではないか、今日の授業のどこが悪かったのか、もしかしたらこの問題が良くなかったのではないかと。先生方はこのように振り返りをしているはずである。そして、次の授業で他の問題を準備したり、生徒が浮かない顔をしていたところについては、授業の最初にフォローしたりするなど改善をしているだろう。これが「学習評価」ではないだろうか。つまり、自分の授業を振り返って、生徒の反応を見ながら、自分の授業を改善している。これは学習評価の考え方そのものである。先生方は意識していないだけで、学習評価をしながら授業を展開しているのである。あとは、三つの観点に、少しずつ視点を近づけていけば、学習評価はできるということをご理解いただきたい。

学習評価の課題と改善の基本方針について説明する。なぜ、先生方は学習評価を難しいと考えているのだろうか。学期末や学年末、授業での評価に終始してしまい、評価の結果が児童生徒の具体的な学習改善につながっていないとよく言われる。ここが課題だとわかっている、それで終わってしまう。それでは、その課題は改善されない。なぜ、事後の評価に終始してしまっているのだろうか。それは、皆が納得する評価規準の作成や評価を行うことを意識しすぎているからではないか。

私は教育課程調査官という立場で、学校を訪問する機会がある。そこで、先生方にうかがってみると、「皆が納得するような評価規準を作ることが難しい。」という話を耳にする。なぜ、学習評価の評価規準を作ることが難しいのだろうか。ここで一つ例を挙げる。例えば、大リーグで大活躍中の大谷翔平選手が、去年に引き続き今年もMVP候補である。ヤンキースのジャッジ選手も62本のホームランを打っている。このジャッジ選手と大谷翔平選手、どちらがMVPをとるのだろうか。今年一年間大リーグで一番活躍した資質・能力がある選手として、MVPは一人しか選ばれない。つまり、どちらが選ばれても納得しない人は一定数いる。つまり、評価規準は、必ずしも100人中、100人が納得するようなものはなかなかできないのである。そこで、学習評価の評価規準についても、同じように100人中、100人が納得するようなものはなかなかできない。そこで、学校で生徒の状況を一番理解しているのは先生方である。その先生方は、教育委員会からプロの教員として認められた人材であり、このプロの教員が作成した評価規準に照らし合わせて、評価をしていくわけである。思い切って評価規準を作り、評価をしてみると良いのではないか。その中で、できるだけ皆が納得する評価に近づけるために、学校の中で評価規準や評価について話し合い、共通認識を持つことが大切である。そして、評価規準を保護者や生徒に伝えるという努力が必要である。

繰り返しになるが、学習評価は全員が納得するような評価規準でなければならないというものではない。できるだけ皆が納得するような評価規準に近づけていけば良いのである。そこで、教育のプロとしての資質・能力を備えている先生方をお願いしたいのは、自信を持って評価規準を作り評価し、「私は、このように評価しました。」と、生徒や保護者等に説明してほしい。難しく考えず、学習評価を授業に取り入れてほしい。

そして、何よりも大切なのは、学習評価の記録に終始し、具体的な学習改善につながらない学習評価は意味がないということである。学習評価で大切なことは、評価に基づいて生徒の学習を改善する支援をする、生徒が自ら学習を改善できるよう支援することである。生徒の学習活動のどこを改善すべきかを伝えることが大切である。しかし、毎時間評価を記録することに終始し、生徒にどのように改善すれば良いのかを伝えていない先生方が非常に多い。その改善方法を教えないと学習改善にはつながらないので、学習評価を行う意味がない。アドバイスをしたり、助言をしたりしながら、学習改善につながるような活動にすることが学習評価の本当の狙いである。そこで、先生方の自分の頭の中に評価規準を設けて、それに対して生徒はどこを直していけば良いのか、概ね満足できる評価に到達しているのかなど、それを判断しながら改善策を生徒に何回か伝えていくと、生徒は自分で学習改善できるようになるのである。自分で改善できるようにならないと社会に出てから困るため、生徒の力で改善できるように支援しなければならない。したがって、先生方は毎回記録して集計しなくても良いのである。内容のまとまりごとで、その内容がどのような評価だったかが分かれば良いのである。授業中に生徒にアドバイスし、学習改善につながるような授業を展開していただきたい。

授業態度を重視する先生やテストだけで評価する先生方がおり、どう努力していけば良いのか本当に分りにくいという生徒の声があがっている。これは当然の意見である。では、何が問題なのだろうか。先生方は授業をしなければならない、クラス運営をしなければならない、部活動をしなければならないなど忙しいため、周囲の先生方と協議をする時間が取れない。そのため、学校全体で共通理解することが難しいのである。先生方をお願いしたいのは組織を作って協議しなくても、雑談で話すだけでも良いのである。休み時間に同じ科目を担当する先生のところに行って、お茶でも飲みながら「先生、あの単元の内容をどのように評価した？私はこのように評価したのですがどうですか。」などと聞いてみるだけでも良いのである。他クラスの先生と評価方法を共有することで、良い評価方法が見つかり、共通理解が深まるのである。このような雑談の中で、先生方の考えを積極的に出して共通理解を深めていけば、徐々に生徒から信頼される評価になっていくのである。そのためにも、協議することについて、もう少し気楽に考えてほしい。

学習評価の基本的な考え方は、生徒の学習改善につながるようにしていくというのが一番大切である。また、これまで慣行として行ってきたことであっても、必要性が認められないものについては見直していくことが必要である。例えば、簿記の授業で、一人の先生がそれぞれのプリントを作れば当然時間がかかるため、5クラスあったら五つ印刷してそれぞれのクラスに渡せば、4人の先生方の教材作成や印刷する時間を節約することができる。そして、その先生方は学習評価の研究に時間をあてることができる。今まで慣行として行われてきた当たり前のことでも少し視点を変えれば、効率的に行うことができる。

学習評価の改善点について説明する。これまで4観点だったものが3観点になり「知識・技術」が4分の2、つまり半分だったものが3分の1になっている。ここが一番大きな変更点である。なぜだろうか。それは時代が変わったからである。IT技術の進歩により、自分が知っておかなければいけない知識や身に付けておかなければならない技術は10年前に比べると少なくなってきたのではないのだろうか。それよりも「思考・判断・表現」や「主体的に学習に取り組む態度」の方が重要視される時代になってきているのである。だから、「知識・技術」を中心に評価をされている学校においては、生徒がこれから生きる10年後や20年後を見据えた時に、どちらを重視した方が生きる力を身に付けることができるのか、今一度考えてほしい。時代に合わせて評価を変えていく必要がある。

調査書における観点別学習状況の評価の取り扱いで、「高等学校においては新学習指導要領の下で観点別学習状況の評価を更に充実し、その質を高めるための取組が開始されたばかりであることや、また大学においては、大学入学者選抜における観点別学習状況の活用手法が確立されていない状況にあること等を総合的に勘案し、新しい調査書の様式には、各教科・科目の観点別状況の項目は直ちには設けず、今後の早期の導入に向けて、引き続き高等学校・大学関係者で検討する」ということが、「大学入学者選抜における多面的

な評価の在り方に関する協力者会議」審議のまとめとして示されている。これはあくまでも移行期間であり、数年後には導入されることになるため、それまでに先生方にはきちんと評価ができるよう努めなければならない。

学習評価の進め方について説明する。特に、「主体的に学習に取り組む態度」の評価について説明していきたい。学習指導要領には、「学びに向かう力、人間性等」が目標として掲げられている。人が感性や思いやり等、「人間性」を評価することは難しい。そのため、観点別学習状況の評価にはなじまない。そこで、個人内評価として評価することが大切である。「学びに向かう力」は見取ることができるため、知識及び技術を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組の中で、自らの学習を調整しようとしているかどうかを含めて「主体的に学習に取り組む態度」として評価する。

ビジネス社会で活躍するためには、人間性はとても大切である。そこで、個人内評価をし、その評価を生徒に伝える必要がある。一つの例として、アドバイス欄に記載することなどが考えられる。そのため、先生方は、ビジネス社会で通用する「人間性等」について理解しているので、先生方が積極的に評価し伝える必要がある。評価をアドバイス欄に記載することが難しいなら、授業終了後に呼んで伝えたり、清掃時間等にアドバイスをしたりするだけでも良い。それでも個人内評価として伝えたことになる。

では、「主体的に学習に取り組む態度」の評価をどのようにするべきであろうか。粘り強い取組の中で、自らの学習を調整しようとしているかどうかを含めて評価すると示されているため、「粘り強く取り組んでいる様子」と「学習を調整しようとしている様子」の二面から見取るべきである。では、商業科ではどのように見取るべきか説明していきたい。一つの例として、ビジネス基礎の「主体的に学習に取り組む態度」の評価を取り上げる。

まず、グループワークを通したワークシートの記述から「自らの学習を調整しようとする側面」を見取る方法を紹介したい。

### 〔態α〕自らの学習を調整しようとする側面

【参考資料】(1)観察、(2)ワークシートの評価の進め方(評価資料2の評価例)

#### 1. グループワーク・ワークシートへの記述

質問1	回転寿司で、あなたが1番好きな寿司ネタを教えてください。		
質問2	あなたがその寿司を食べるまでに、どのようなビジネスが関わっていると思いますか？		
	主に生産に関わるビジネス ▶	主に流通に関わるビジネス ▶	消費者
	(例)米を生産する農家さん お皿を製造する工場	(例)調理する従業員 資金を提供する銀行	
<b>グループワーク</b>			
質問3	グループで発表し合い、それぞれの発表内容について記述してください。		
	生徒氏名	生産に関わると思うもの	流通に関わると思うもの
質問4	発表内容について話し合い、生産、流通、どちらかよく分からないものに整理してください。		
	生産に関わると思うもの	流通に関わると思うもの	どちらかよく分からないもの
質問5	どちらかよく分からないと思うものは、なぜそう思うのか理由を書いてください。		
<b>グループワークを終えて</b>			
質問6	寿司を食べるまでに、どのようなビジネスが関わっているかあらためて整理してください。		
	主に生産に関わるビジネス ▶	主に流通に関わるビジネス ▶	消費者
質問7	もし、流通に関わるビジネスがなかったら、あなたの普段の生活はどうなりますか。		
質問8	この学習で学んだことを整理して、これから流通で学びたいことを書いてください。		
			【態α】 評価
	【態α】【読み取りのポイント(例)】		
	1 質問2と質問6・7の記録内容を比較して、流通に対する理解の要素やより根拠のある説明が見られる。		
	2 質問3・4・5における記録内容から、学習を振り返り、整理しようとする姿勢が見られる。		
	3 質問8の記録内容から、学習全体を整理して、これからの学習に向かおうとする姿勢が見られる。		
	【評価方法(例)】LV3:3項目 LV2:2項目 LV1:1項目以下		

上記の質問2の「あなたがその寿司を食べるまでに、どのようなビジネスが関わっていると思いますか？」の問いに対して、グループワークが始まる前に自分の意見を書かせる。そして、その後、グループワークを終えてから、再度質問6の「寿司を食べるまでに、どのようなビジネスが関わっているかあらためて整理し

てください。」の記述を通して、どのように調整したかを見取ることができる。そして、質問7の「もし、流通に関わるビジネスがなかったら、あなたの普段の生活がどうなりますか」の解答を通して、流通に関する理解の変容やより根拠のある説明ができるようになっていくかどうかを見取ることができる。また、質問3・4・5の記述から、グループワークの話し合いの際に学習を振り返り、整理しようとしている姿勢が見られるかどうかを見取ることができる。さらに、質問8の「この学習で学んだことを整理して、これから流通で学びたいことを書いてください。」の記述を通して、これからの学習に向かおうとする姿勢を見取るのである。

次に、「粘り強い取組を行おうとする側面」を見取る方法を紹介したい。

### 〔態β〕 粘り強い取組を行おうとする側面

#### 2. 観察

観察シート（座席表形式）						
生徒		生徒		生徒		生徒
生徒		生徒		生徒		生徒

○担当教員が次の点に注意しながら観察し、+（特に良い）・-（改善が必要）を記録する。

- ① グループワークへの参加の様子が積極的かつ、集中して取り組もうとしている。
- ② プレゼンテーションを理解して、周りの意見を批判せず、さらに発展させようとしている。
- ③ グループワークにおいて、担当教員の指示をしっかりと聞き取り、協力的に取り組もうとしている。

<p>〔態β〕【読み取りのポイント・評価方法（例）】</p> <p>LV3 積極的な行動やグループを活かそうとする行動が目立っており十分満足できる。</p> <p>LV2 おおむね適正な行動で、グループワークの目的が達成できている。</p> <p>LV1 グループワークには参加しているが改善を要する行動が目立つため、努力を要する。</p>	<p>〔態β〕</p> <p>評価</p> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; margin: 0 auto;"></div>
--	---

上記の「読み取りのポイント・評価方法（例）」にあるように、LV1は「グループワークには参加しているが改善を要する行動が目立つため、努力を要する。」となっている。次のLV2は「おおむね適正な行動で、グループワークの目的が達成できている。」となっている。LV3は「積極的な行動やグループを活かそうとする行動が目立っており十分満足できる。」となっており、これらのレベルに応じて評価を行う。

一人の生徒について二つの側面から見取る場合は、80通りの評価をしなければならない。それが難しい。そのため授業中は観察で評価し、授業終了後、ワークシートの記述から見取れば、授業中、半分の負担で評価ができる。このような工夫をすることが大切である。そして、「自らの学習を調整しようとしている側面」をLV1～3、「粘り強い取組を行おうとする側面」をLV1～3で、それぞれ評価を行うことになる。

このように考えると評価は難しく思われがちだが、結局は経験である。何回か経験することで評価ができるようになる。「主体的に学習に取り組む態度の評価は、どのようにすれば良いですか」との質問が多いが、この二つの側面から見取ることができれば「主体的に学習に取り組む態度」について評価をすることができる。ワークシートや観察の例を紹介したが、これらの内容（評価規準）は、生徒の学習のレベルによって変わる。例えば、野球の送りバントでも、甲子園に毎年出場するようなチームの選手や県大会に出場するようなチームの選手、部員が足りなくて、他の部活動から招集したチームの選手ではレベルが変わってくる。つまり、どのようなワークシートや評価規準が良いのかは、それぞれの地域や学校の実態によって変わってくるのである。だから、その学校を良く知っている先生方が作成した評価規準が一番適切である。そこで、先生方へお願いしたいのは、自信がないから学習評価をしないのではなく、先生方は教育のプロであるから、自信を持って実施してほしい。学習評価を1年間継続すれば、翌年から自信を持ってできるようになるはずである。また、点数の魔力には騙されないでほしい。点数であると皆が納得しているように思えるが、それは騙されている。例えば、簿記の内容で貸借対照表しか学習しなかった生徒と、貸借対照表や損益計算書、精算表など、全て学習した生徒が、テストで両者とも80点だったとする。これは、たまたま同じ点数ではあるが、本当に同じ資質・能力といえるのだろうか。全て学習した生徒の方が資質・能力が高いのではないか。また、そ

のほかに、例えば、先生に熱心に教えていただいた生徒と、あまり熱心に教えてもらわなかった生徒が同じ点数なら、あまり教えてもらわなかった生徒の方が高評価となるはずである。つまり、点数というのは本当の意味での適切な評価ではない。学習評価も同じである。だから、思い切って学習評価を実施してほしい。先生方が一生懸命に学習評価に取り組む姿が伝われば、生徒も保護者も納得してくれると思う。目先の評価ではなく、生徒たちが卒業後に活躍できる資質・能力の育成を踏まえた授業展開をお願いしたい。点数で評価をするだけでなく、例えば10年後、同窓会で先生方を招待してくれた卒業生の中に、自分で会社を経営している方がどのくらいいるか(ビジネス社会で活躍しているか)で評価していただきたい。そうすることで、商業教育が更に充実・発展するのではないだろうかと考えている。

# 研究委員会報告

## 令和4年度 マーケティング・ビジネス経済分野研究委員会報告

事務局当番校 青森県立三沢商業高等学校

### 1 第1回マーケティング・マネジメント分野専門委員会

日時 令和4年4月28日(木) 13:30~15:30

場所 青森県総合学校教育センター(第2多目的研修室)

参加者 中村 至(三沢商業教頭)

谷村 学・山崎 豊(青森商業)、長谷川善弘(弘前実業)

秋田健二・天羽英紀(八戸商業)、木田貴道(青森中央)

浅水伸之(十和田西)、野宮大嗣(五所川原商業)、小出健太郎(大湊)

鍋倉哲章(七戸)、志田直樹・太田菜穂子(三沢商業)

計13名

- 内容 (1) 年間計画について  
(2) 教員対象研修会について  
(3) 令和5年度の発表について  
(4) その他

### 2 第2回マーケティング・マネジメント分野専門委員会

日時 令和4年6月28日(火) 13:00~16:00

場所 青森県総合社会教育センター(第6研修室)

参加者 高橋恭一・山崎 豊(青森商業)、長谷川善弘(弘前実業)

秋田健二・天羽英紀(八戸商業)、木田貴道(青森中央)

小出健太郎・向谷地史拓(大湊)

鍋倉哲章(七戸)、志田直樹・太田菜穂子(三沢商業)

計11名

- 内容 (1) 実践授業について  
(2) 令和5年度の発表について  
(3) その他

### 3 第3回マーケティング・マネジメント分野専門委員会

日時 令和4年11月30日(水) 10:00~12:00

場所 青森県総合社会教育センター(第6研修室)

参加者 中村 至(三沢商業教頭)

高橋恭一・長谷川 誠(青森商業)、野宮大嗣(五所川原商業)

長谷川善弘・西館大輔(弘前実業)、秋田健二・天羽英紀(八戸商業)

浅水伸之(十和田西)、小出健太郎・向谷地史拓(大湊)

鍋倉哲章・四木 徹(七戸)、木田貴道(青森中央)

志田直樹・太田菜穂子(三沢商業)

計16名

- 内容 (1) 県高教研大会の分科会発表について  
(2) 令和4年度の総括について  
(3) 令和5年度の活動計画について  
(4) 令和5年度の教員研修会について  
(5) 令和5年度の発表資料について  
(6) その他

4 令和4年度 教員対象研修会「起業家による講演会及び座談会」

日時 令和4年11月30日(水) 13:00~15:00

場所 青森県総合社会教育センター(第6研修室)

参加者 16名(うち専門委員14名)

中村 至(三沢商業教頭)

長谷川 誠・榊 晃太(青森商業)、長谷川善弘・西舘大輔(弘前実業)

秋田健二・天羽英紀(八戸商業)、浅水伸之(十和田西)

小出 健太郎・向谷地史拓(大湊)、鍋倉哲章・四木 徹(七戸)

木田貴道(青森中央)、三浦 真・志田直樹・太田菜穂子(三沢商業)

計16名

内容 起業家による会社経営における活用事例について

講師 株式会社アグリーンハート

代表取締役 佐藤 拓郎 氏

【総括】

計3回の専門委員会開催となった。今年度は東北六県商研大会が青森県で開催され、分科会の記録を事務局で担当した。また次年度の県高等学校商業教育研究大会及び東北六県商業教育研究大会での発表に向けて準備を進めることができた。科目「観光ビジネス」は令和6年度実施に合わせて教科書が完成する。発表者である長谷川先生(弘前実業高校)は、自身が教育機関や研修で学んだ資料等を活用して授業を展開してきた。次年度から「観光ビジネス」を開講する学校への情報提供の一つとして、この授業における導入について委員で体験し、共有を図ることができた。

さらに今年度も「起業家による講演会及び座談会」を専門委員会と合わせて実施し、講師の佐藤氏から農業を通じて地域を盛り上げたいという熱い講話をしていただいた。佐藤氏は、農業を通して「人づくり」に取り組んでおり、この「人づくり」は商業教育と結びつくものがある。目標設定力がキャリアアップに直結すること、夢の持ち方を変える、ビジョンを持つこと、そして小さくても良いので、毎日の中に「達成」を習慣付けることなど、これからの指導にもつながられる大変興味深い内容であった。ギターの弾き語りによる歌の披露もあり、胸に響く貴重な講演会であった。

マーケティング・マネジメント分野には、ビジネスを行う上で非常に重要となる科目があり、会計分野やビジネス情報分野の学習で身に付けた知識・技術と関連させて指導することが重要となる。今後も専門委員を中心として、マーケティング・マネジメント分野の指導に興味・関心を持ってもらえるような調査・研究活動を行っていきたいと考えている。

# 令和4年度 会計分野研究委員会報告

事務局当番校 青森県立八戸商業高等学校

## 1 第1回会計分野専門委員会

日時 令和4年4月26日(火) 13:00~15:30

場所 青森県総合社会教育センター(第2多目的研修室)

参加者 吉岡香織・小野公太郎・佐藤雅哉(青森商業)、平山 学・小中喜貴(弘前実業)  
棟方明日香(三沢商業)、清水舞子(六ヶ所)、藤田匡寿(大湊)

山下恭平(五所川原商業)、田中純恵・岩間由香子・根城寿(八戸商業)

計12名

- 内容 (1) 令和4年度年間計画について  
(2) 令和4年度の研修会について  
(3) 令和6年度東北商研大会の発表等について  
(4) その他

## 2 第2回会計分野専門委員会

日時 令和4年7月13日(水) 13:00~15:30

場所 青森県総合社会教育センター(第2多目的研修室)

参加者 吉岡香織・小野公太郎、佐藤雅哉(青森商業)、小中喜貴(弘前実業)

村上啓子(三沢商業)、藤田匡寿(大湊)、山下恭平(五所川原商業)

田中純恵・岩間由香子・根城 寿(八戸商業)

計10名

- 内容 (1) 令和4年度の研修会について  
① 内容 日商簿記指導力強化セミナー  
② 日時 令和4年8月10日(水)  
③ 場所 各校(Zoomによるオンライン開催)  
④ 講師 日商検定推進アドバイザー 公認会計士 小島 一富士 氏  
(2) 令和6年度東北商研大会の発表等について  
(3) その他

## 3 令和4年度 教員対象研修会「日商簿記指導力強化セミナー」

日時 令和4年8月10日(水) 13:00~15:30

場所 各校(Zoomによるオンライン開催)

参加者 飯田奈緒子・佐藤雅哉(青森商業)

長谷川善弘・平山 学(弘前実業)

櫻田 篤・村上啓子・秋田文陽子・鈴木 佑・山田真菜(三沢商業)

工藤勝平(田名部)、上野雄太(八戸中央)

佐々木郁子・田中純恵・岩間由香子・根城 寿(八戸商業)

計15

名

- 内容 日商簿記検定指導力強化のために  
① 収益認識基準改正の概要及び実務に即した指導法について  
② 日商簿記検定の動向について  
講師 日商検定推進アドバイザー 公認会計士 小島 一富士 氏

## 4 第3回会計分野専門委員会

日時 令和4年11月24日(木) 13:00~16:00

場 所 青森県総合社会教育センター（第6研修室）

参加者 中村 至（三沢商業教頭）

飯田奈緒子・吉岡香織・小野公太郎・佐藤雅哉（青森商業）

小中喜貴（弘前実業）、鈴木 佑・棟方明日香（三沢商業）、

清水舞子（六ヶ所）、藤田匡寿（大湊）、山下恭平（五所川原商業）

田中純恵・岩間由香子・根城 寿（八戸商業）

計14名

内 容（1）主体的・対話的で深い学びの実現に向けた会計分野の指導について

講師：青森県総合学校教育センター 産業教育課

指導主事 新堂 満香 氏

（2）令和6年度東北商研大会の発表等について

（3）令和4年度の活動について（総括）

①日商簿記指導力強化セミナー

②専門委員会（3回）

（4）令和5年度の活動について（計画）

①専門委員会

②高教研分科会

（5）令和5年度研修会について（計画）

（6）その他

#### 【総 括】

計3回の専門委員会と教員研修会を1回実施した。各専門委員会では主に令和6年度の東北商研大会の発表を見据え、研究内容について検討を行った。検討していく中で、学習評価の方法について苦慮している先生方が多い状況が明らかとなり、第3回の専門委員会では、県総合学校教育センターの新堂指導主事を招聘して講義をしていただいた。今後は、各専門委員が研究する内容について検討し、専門委員会で協議の上、発表する内容等の詳細について決定していく予定である。

また、商業科教員を対象とした研修会は、10月に産業教育フェア青森大会が開催されることから、時期を例年の9月下旬から8月上旬に移し、今年度も昨今の情勢を鑑みてリモート開催とした。例年参加している先生方からは引き続き「収益認識に関する会計基準」に関する内容の要望が多く、今年度も収益認識基準の実務に即した指導法について説明していただいた。参加者からは生徒へのアプローチの仕方を学ぶことができ、非常に有意義な研修であったとの声が多く聞かれた。

次年度の研修会の内容についてもすでに要望が出ているので、次の事務局校にしっかりと引き継いでいきたい。

## 令和4年度 ビジネス情報分野研究委員会報告

事務局当番校 青森県立青森商業高等学校

### 1 第1回ビジネス情報分野専門委員会

日時 令和4年4月26日(火) 13:00~15:30

場所 青森県立青森商業高等学校 会議室

参加者 阿部靖彦(百石教頭)

小田桐正巳(弘前実業)、藤ヶ森誠司・三橋壮大(八戸商業)

平川正晃・山田真菜(三沢商業)、須藤慎二(七戸)、奈良靖宏(鱒ヶ沢)

伊藤陽子・須藤貴則・菊地礼剛・伊藤大貴・山内宗尊(青森商業)

計13名

- 内容 (1) 令和4年度年間活動計画について  
(2) 教職員対象研修会について  
(3) 地区別情報処理技術者試験対策講座について  
(4) 令和6年度全国商研、東北商研発表について  
(5) その他

### 2 第2回ビジネス情報分野専門委員会

日時 令和4年8月1日(月) 9:30~12:00

場所 青森県立青森商業高等学校 商業実習室

参加者 阿部靖彦(百石教頭)

都谷森宗一(弘前実業)、三橋壮大(八戸商業)

榊祥吾・山田真菜(三沢商業)、須藤慎二(七戸)、奈良靖宏(鱒ヶ沢)

菊地礼剛・山内宗尊(青森商業)

計9名

- 内容 (1) 教職員対象研修会の研修内容について  
(2) 地区別情報処理技術者試験対策講座の講義内容について  
(3) 令和6年度全国商研、東北商研発表について  
(4) その他

### 3 令和4年度ビジネス情報分野科目指導法研修会

日時 令和4年8月17日(水) 10:00~15:50

場所 青森県立青森商業高等学校 B棟3階 情報処理実習室3

内容 新学習指導要領における科目「ソフトウェア活用」で示されている表計算ソフトウェアの活用や情報システムの開発、アルゴリズムの基礎的・基本的な知識や技術の習得

講師 青森県立弘前実業高等学校 教諭 西館 大輔

参加者 阿部靖彦(百石教頭)

都谷森宗一(弘前実業)、平川正晃・榊祥吾・山田真菜(三沢商業)

岩藤充宏・藤ヶ森誠司・三橋壮大(八戸商業)、須藤慎二・笹倉正子(七戸)

小館宏(鱒ヶ沢)、布施正太郎(大間)、村井喜代子・上野雄太(八戸中央)

須藤貴則・菊地礼剛・伊藤大貴・榊 晃太・山内宗尊(青森商業)

計19名

### 4 第3回ビジネス情報分野専門委員会

日時 令和4年11月15日(火) 13:00~15:30

場所 青森県立青森商業高等学校 会議室

参加者 阿部靖彦(百石教頭)

小田桐正巳・西館大輔・柴崎健太郎（弘前実業）  
藤ヶ森誠司・三橋壮大（八戸商業）、平川正晃・榊 祥吾（三沢商業）  
須藤慎二（七戸）、奈良靖宏（鱒ヶ沢）  
伊藤陽子、須藤貴則、菊地礼剛、伊藤大貴、山内宗尊（青森商業）

計 15 名

- 内 容（１）令和４年度の活動について（総括）  
（２）令和５年度の活動内容について  
（３）その他
- ・令和４年度全国商研大会の報告について
  - ・富士通ラーニングメディアの研修の報告について

### 【総 括】

本県は令和６年度全国商研大会において発表が割り当たっており、３回開催された専門員委員会では発表内容の検討に多くの時間を割いた。発表内容は、新学習指導要領「ネットワーク活用」「ネットワーク管理」の内容について研究に取り組んでいくこととなり、昨年度末に各校へ導入された情報セキュリティ実習装置の活用状況について情報共有を行った。来年度からは具体的な発表内容について議論を深め、研究を進めていきたい。

今年度の教職員対象研修会は、これまでの「プログラミング指導法研修会」から「ビジネス情報分野科目指導法研修会」に名称変更して実施した。商業科目を履修させている学校において、新学習指導要領「ソフトウェア活用」を指導する場面を想定した研修で、多くの先生方が気軽に参加できるように、青森商業高校を会場に１日の日程で実施した。普通高校に勤務する商業科教員も多数参加し、有意義な研修会となった。来年度のソフトウェア活用の教科書を参考に、マクロを使った手続きの自動化、プログラミング、アルゴリズムの基礎的・基本的な知識や技術について研修が行われた。指導上の留意点や生徒がつまづきやすい部分について、講師からの確かなアドバイスがあり、参加された先生方からも好評であった。また、３観点の評価に関する情報交換会が行われ、活発な討論が行われた。開催後のアンケートでは、「プログラミングの基礎的な内容」「ネットワーク管理の内容」「ECにおけるHTMLやCMSを取り扱ってほしい」などの意見があったため、今後検討していきたい。課題としては、情報処理教育に携わる教員が不足していることがあげられる。これからも多くの教員が興味・関心を持てるような魅力のある研修を企画し、ビジネス情報分野の科目を指導できる教員の裾野を広げていきたい。

また、高度資格取得に対する生徒のニーズに対応するため、情報処理技術者試験対策講座を今年度も津軽地区と県南地区で開催した。講義内容は情報セキュリティマネジメントの午後問題対策である。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、８月は弘前実業高校で対面授業、２月は三沢商業高校で対面授業を行い、その授業内容を会場校から参加校にオンライン配信を行った。次年度以降も多くの生徒が高度資格取得に向けて学習できる機会を設けていきたい。



## 令和4年度 教育課程等研究委員会報告

事務局当番校 青森県立弘前実業高等学校

### 1 第1回教育課程等研究委員会

日時 令和4年6月23日(木) 13:30~15:30

場所 青森県総合社会教育センター(第5研修室)

参加者 須藤貴則・谷村 学(青森商業高校)、志田直樹・鈴木 佑(三沢商業高校)

岩間由香子・藤ヶ森誠司・岩藤充宏(八戸商業高校)

小出健太郎(大湊高校)、都谷森宗一・長谷川善弘(弘前実業高校)

計10名

内容 (1) 年間計画について

(2) 講義

演題 「学習指導要領と学習評価 - 専門教科 商業 -」

講師 青森県総合学校教育センター

産業教育課 指導主事 新堂 満香 氏

(3) 学習評価についての情報交換

(4) その他

### 2 第2回教育課程等研究委員会

日時 令和4年11月17日(木) 10:00~12:00

場所 青森県総合社会教育センター(第3修室)

参加者 委員長 阿部靖彦(百石高校教頭)

菊地礼剛(青森商業高校)、平川正晃・櫻田 篤(三沢商業高校)

岩藤充宏・岩間由香子(八戸商業高校)、長谷川善弘(弘前実業高校)

計7名

内容 (1) 情報交換

・ワークシートについて

・評価に関する校内規定について

・各校における課題について

(2) 令和4年度活動内容について(総括)

(3) 令和5年度活動計画について

(4) その他

### 【総括】

3年ぶりの研究委員会開催となり、研究テーマを「指導と評価の一体化のための学習評価」とし、計画通り2回実施することができた。

第1回目は、指導主事を講師として招聘し、学習指導要領改訂の確認や評価のポイントに関する講義をしていただいた。その後、各校の評価規準や評価シートをもとに情報交換を行い、疑問点等を講師に質問し解決することができた。各校の実態に即した年間指導計画、評価規準、評価シートの作成に向けて有意義な研究委員会となった。

また、第2回目は、評価のもととなるワークシートや校内規定変更の話題、そして現在抱えている課題に関する情報交換を行った。活発な情報交換はできたものの課題解決に至らなかった点が、事務局の反省点である。そのため、次年度は助言等が可能となるように指導主事の招聘を2回計画している。

講義や情報交換等を通して、各校の実態に即した「指導と評価の一体化のための学習評価」の改善につながる研究活動ができたものと考えている。

## 令和4年度 総合科目研究委員会報告

事務局当番校 青森県立弘前実業高等学校

### 1 第1回総合的科目研究委員会

日時 令和4年4月20日(水) 13:00~15:30

場所 青森県総合社会教育センター(第3研修室)

参加者 委員長 土岐一行(三戸高等学校教頭)

須藤貴則・小野公太郎(青森商業高校)、櫻田 篤・太田菜穂子(三沢商業高校)

藤ヶ森誠司・岩藤充宏(八戸商業高校)、長谷川善弘(弘前実業高校)

計8名

内容 (1) 年間計画について

(2) 昨年度の確認について

(3) 令和4年度研究内容について

(4) 令和5年度県高教研及び東北六県商研大会分科会における発表について

(5) その他

### 2 第2回総合的科目研究委員会

日時 令和4年6月23日(木) 10:00~12:00

場所 青森県総合社会教育センター(第5研修室)

参加者 委員長 土岐一行(三戸高等学校教頭)

高橋 恭一・小野公太郎(青森商業高校)、志田直樹・鈴木 佑(三沢商業高校)

藤ヶ森誠司・岩藤充宏(八戸商業高校)、長谷川善弘(弘前実業高校)

計8名

内容 (1) 県生徒商業研究発表大会について

(2) 令和4年度研究内容について(各校進捗状況確認)

(3) 令和5年度県及び東北高教研分科会発表について

(4) その他

### 3 第3回総合的科目研究委員会

日時 令和4年11月17日(木) 13:30~16:00

場所 青森県総合社会教育センター(第3研修室)

参加者 委員長 土岐一行(三戸高等学校教頭)

谷村 学・小野公太郎(青森商業高校)、櫻田 篤・平川正晃(三沢商業高校)

岩藤充宏・岩間由香子(八戸商業高校)、長谷川善弘(弘前実業高校)

計8名

内容 (1) 令和4年度研究進捗状況について

青商ビジネスチャレンジ with 台湾事業「商業高校ビジネスプロジェクト」研修について

(2) 令和4年度活動内容について(総括)

(3) 令和5年度活動計画について

(4) その他

### 【総括】

研究委員会は計画通り3回実施することができた。研究テーマを「総合的科目の学びをとおしたビジネスを展開する力の育成」とし、青森商業高校の庁内ベンチャー事業「青商ビジネスチャレンジ with 台湾事業」の中で、県内各商業高校が連携しながら、グローバルな感覚を有した人材を育成することを目的に活動した。研究委員会では、県内各商業高校が連携して取り組むために、青森商業高校で実施した講演会の内容などを記録媒体で連携する各校に伝え、それぞれの編成組織や課題研究における進捗状況、商業高校ビジネスプロ

ジェクト研修等の情報の共有を行い、計画を推し進めた。

来年度も「青商ビジネスチャレンジ with 台湾事業」の中で、県内各商業高校が連携をしながら研究協議を進め、その内容を取りまとめて県高等学校商業教育研究大会と東北六県商業教育研究大会で発表する予定である。

今年度の実践活動を生かし、各校の特色を活かしながら引き続き研究活動に取り組んでいきたい。

## 令和4年度 研究誌編纂委員会

事務局当番校 青森県立青森商業高等学校

### 1 第1回研究誌編纂委員会

日時 令和4年6月13日(月) 13:30~15:30

場所 青森商業高等学校 会議室

参加者 柴崎健太郎(弘前実業)、山口 舞(八戸商業)、山田真菜(三沢商業)  
長嶺 良(板柳)、向谷地史拓(大湊)、山田博規(千葉学園)  
榊 晃太・高橋恭一(青森商業)

計8名

内容 (1) 令和4年度研究誌の編集方針について  
(2) 「青森商研NEWS」の発行について  
(3) 中学校向けパンフレットについて  
(4) その他

### 2 第2回研究誌編纂委員会

日時 令和4年11月14日(月) 13:30~15:30

場所 青森商業高等学校 会議室

参加者 山口 舞(八戸商業) 山田真菜(三沢商業) 山田博規(千葉学園)  
長嶺 良(板柳) 向谷地史拓(大湊) 榊 晃太(青森商業)  
高橋恭一(青森商業)

計7名

内容 (1) 中学校向けパンフレットについて  
(2) 商研ニュースについて  
(3) 研究誌MERCURYについて  
(4) その他

### 3 発行物について

- (1) 「君の未来をひらく商業教育」 令和4年7月21日発行
- (2) 「青森商研NEWS」
  - ア 夏号 令和4年7月22日発行
  - イ 秋号 令和4年11月1日発行
  - ウ 冬号 令和5年1月31日発行
- (3) 「2022 青森商業教育 MERCURY」 令和5年3月末 発行予定

#### 【総括】

多くの先生方のご協力のお陰で、県内の商業教育に関する情報、生徒・教職員から貴重な原稿を快く提供いただいたことに心から感謝申し上げます。

中学生向けのパンフレット「君の未来をひらく商業教育」については、本来であれば昨年度の時点で変更が必要であった内容に今年度変更した。また、卒業生からのメッセージの欄を追加する予定であったが、掲載スペースを確保することが難しいため見送ることとした。

商研NEWSについては、年3回の発行となった。秋号の内容であるインターンシップの感想について、弘前実業高校のみの掲載となっていたので、来年度は実施した全ての学校を掲載したいと考えている。冬号の内容である全国産業教育フェア青森大会における開発商品紹介は、既存のスタイルにとらわれることなく、ポップなレイアウトで掲載することができ、生徒にとっても親しみやすい仕上がりになったと考えている。編纂委員会では、既存のスタイル、新しい表現方法を織り交ぜながら情報発信を続けていきたいと考えている。また、新しい情報はできるだけタイムリーに提供できるように対応していきたい。今後も多くの先生方からのアイデアや必要に応じて生徒の意見も取り入れながら、より一層商業教育のPRに努めていきたいと考えている。

# 令和4年度 高大連携推進事業の取り組み

## 令和4年度 高大連携推進事業報告書

学 校 名	青森県立青森商業高等学校
事 業 担 当 者 名	教諭 菊地 礼剛
事 業 ( 連 携 ) 名 称	情報処理科3年生「課題研究」における青森大学との連携事業

### 事業報告

#### 1 目 的

- ・大学の講義を通じて、生徒の身の周りの課題をより質の高いレベルで解決する。
- ・台湾の市場調査と Web マーケティングを通じて、本校商業科が商品開発している商品の販路拡大に繋げる。

#### 2 実施日時・内容 (Zoom によるリモート授業にて実施)

##### ○実施日時

5月18日(水) 13:35~14:25 オリエンテーション (企画内容の確認)

6月1日(水) 13:35~14:25 講義: デジタルマーケティングと市場分析の手法

青森大学ソフトウェア情報学部4年 倉内 黎 氏

##### ○実施内容

- ・青森大学ソフトウェア情報学部の協力を得ながら、市場分析や Web マーケティングの手法について学ぶ。
- ・HTML や CMS を活用して情報発信の手法を学び、本校商業科が商品開発している商品の Web サイトを制作する。

本校商業科では『青商ビジネスチャレンジ With 台湾』事業 (令和4年・5年の継続事業) の一環として、台湾の松山高級商業家事職業高校と協働学習を行い、県産ホタテを使ったパスタソース『たんげめえ美味醬醬』を共同開発し、今年度販売するまでに至った。

そこで今年度は、青森大学ソフトウェア情報学部の協力を得て、市場分析や Web マーケティングおよび情報発信の手法を学び、パスタソースの販路拡大を目指すこととした。



画像1 Zoomを使った授業の様子 (プログラミング室)

#### 3 成果 (生徒の反応や効果・課題など)

今年度は商業科の課題研究と一部連携して活動を行ったため、これまでのような高大連携活動とはならなかった。市場分析や Web マーケティングについての研究は少なかったものの、2回の高大連携活動を通じて、生徒の研究のモチベーションの維持に繋がったように思う。

CMS 制作が始まると生徒はあっという間に慣れ、ページの大半を少ない時間で制作した。当初、パスタソースの販路拡大のためのサイトを予定していたが、本校の課題研究の授業全体まで範囲を広め、商業高校の PR に繋がるサイトになったように思う。

今後、海外にも発信できるようサイトの多言語化にも取り組んでいきたいと思っている。このサイトを継続して活用し情報発信することで、本校の取り組み内容をより広く PR し、商業高校に対する理解を深めてもらいたいと考えている。

一連の活動を通じて、生徒自身の職業スキルを高め、課題解決の手法をより高いレベルで学ぶことができたと思う。次年度に向けて今後の取り組みを再検討し、より質の高い高大連携を目指して活動を継続させていきたいと考えている。



画像2 課題研究の紹介サイト  
『青商「課題研究」』  
<http://seisho-kaken.com/>

## 令和4年度 高大連携推進事業報告書

学 校 名	青森県立弘前実業高等学校
事 業 担 当 者 名	小田桐 正巳、柴崎 健太郎
事 業 ( 連 携 ) 名 称	青森大学との高大連携推進事業 (出前講座)

### 事業報告

#### 1 目 的

専門科目「ビジネス情報」の学習の一分野として、ネットワーク社会における先進的なデータの収集・解析技法や理論について学ぶことで、データをビジネスに生かすための知識と技術を習得させる。また、高度情報化社会において情報セキュリティが果たす役割を学ぶことで、最新の知識を習得させる。

#### 2 実施日時・内容

令和4年10月12日(水) 8:50~10:40 情報処理科2年(40名)

青森大学ソフトウェア情報学部 教授 角田 均 氏

##### ①検索エンジンとSEO

Google のページランクの仕組み、Google のアルゴリズム (ページの採点方法)、ブラックハットSEO、パンダアップデート、ペンギンアップデート

##### ②リスティング広告

リスティングとディスプレイ、Google の広告の仕組み、

##### ③リターゲティング広告

行動追跡の仕組み、広告のパーソナライゼーション

##### ④レコメンド…強調フィルタリング、ビッグデータの活用

##### ⑤リサーチツール…Google Trends、 Google Analytics、 Similar Web

##### ⑥マーケティング進化論

### 《 講 座 の 様 子 》



#### 3 成果 (生徒の反応や効果・課題など)

次年度、『電子商取引』を履修する生徒を対象に授業を実施した。情報処理科はマーケティングを履修しないため、デジタルマーケティングの重要性を知り、ネットワークを活用したビジネスにおいて、データ分析に基づいた販売戦略の大切さや手法について学ぶことができた。また、学生の *instagram* を使ったマーケティングの研究活動についての発表を聞き、身近に使用しているツールを使用しており、より具体的にイメージすることができた。

今回の講座を経て、ビジネス情報の学習の深化や次年度実施する電子商取引の学習への意欲を高めることができた。

## 令和4年度 高大連携推進事業報告書

学 校 名	青森県立青森商業高等学校
事業担当者名	高山 純
事業（連携）名称	商業科3年生「課題研究」における青森中央学院大学との連携事業

### 事業報告

#### 1 目 的

高大連携協定を締結している青森中央学院大学の教育資源を活用し、日常的な高校の授業では経験できないことを積み重ね、多くの気づきを得ることで、主体性と学習意欲の向上を図り、より深い学びへとつなげる。青森県にいながら世界とつながるグローバルな視点を持ち、将来の地域産業の発展に貢献できる人財を育成する。

#### 2 実施日時・内容

- 6月17日(金) 16:00～17:00 青森中央学院大学の留学生との事前打ち合わせ
- 6月27日(月) 16:00～17:00 第1回オンライン交流会  
「日本の食文化を伝える」
- 9月5日(月) 16:00～17:00 第2回オンライン交流会  
「タイの食文化を伝える」
- 10月25日(火) 15:00～16:00 第3回オンライン交流会  
「開発商品について」



留学生との事前打ち合わせの様子  
青森商業高校（商業実習室）

青森中央学院大学の教育資源を活用し、タイと日本の食文化を中心として交流を深め、開発商品の考案を目的としてスタートした。今年度は青森中央学院大学高大連携委員会副委員長の木田氏の協力で、タイ・チェンマイのレジーナ・シェリー・カレッジとのオンライン交流会を3回実施できた。また、交流会の際にはタイからの留学生に通訳を依頼し、事前にアドバイスをいただいたことでスムーズに交流会を進めることができた。考案した商品の作成や、販売までは実現できなかった。

#### 3 成果（生徒の反応や効果・課題など）

タイについて調べることで、生徒がタイへ興味を持ち、外国に目を向けるきっかけとなった。実際にタイの高校生と交流したことで、国際交流の楽しさやコミュニケーションの難しさを体感したようである。さらに、自分たちで商品を考案することに関しては積極的に班員と話し合い、より良いものにできるよう工夫を凝らしていた。



オンライン交流会の様子  
青森中央学院大学（2号館）

コロナ禍の状況により、実際にタイに行き対面での交流会は実施できなかったものの、一連の活動を通して生徒自身の主体性、学習意欲の向上に繋がったと思う。次年度もレジーナ・シェリー・カレッジとの交流を継続しながら、今年度実施できなかった青森中央学院大学准教授の楠奥氏の講義の受講、考案商品の商品化などさらに一歩進んだ活動にしていきたい。そのために今後は今年度のプログラムを振り返り、より質の高い高大連携を目指して計画的に活動を進めていきたい。

## 令和4年度 高大連携推進事業報告書

学 校 名	青森県立弘前実業高等学校
事 業 担 当 者 名	小田桐 正巳
事 業 ( 連 携 ) 名 称	弘前大学 (りんご/さくら和紙研究会) 紙漉体験

### 事業報告

#### 1 目 的

りんご剪定枝を使用した和紙を作成する紙漉体験をとおして、地域資源について学び、紙製品を活用したビジネスについてイメージすることができる。また、全国産業教育フェアで使用する名刺の用紙を作成する。

#### 2 実施日時・内容

令和4年8月17日(水)～18日(木) 情報処理科3年(6名)

国立大学法人弘前大学教育学部技術教育講座 木材加工研究室 准教授 廣瀬 孝 氏  
国立大学法人弘前大学 研究・イノベーション推進機構 URA 室 特任講師 山科則之 氏

- ①パルプ浸水/ピーター&打開/ネリ準備&説明
- ②りんご剪定枝パルプの攪拌、ネリ材準備、準備完了後、試し漉き開始、乾燥
- ③紙漉～脱水～乾燥

#### 《 紙漉及び名刺体験コーナーの様子 》



#### 3 成果 (生徒の反応や効果・課題など)

今回の学習では、地域の歴史から紙製品の可能性についてと非常に多岐にわたる内容について学ぶことができた。まず、弘前藩と和紙の歴史や長慶天皇の潜幸伝説と和紙について知る貴重な機会となった。次にりんご/さくら和紙研究会の活動を知り、りんご剪定枝から和紙を作成する取組やその紙製品の商品開発に向けた取組について知り、紙製品の魅力を知ることができた。また、名刺体験コーナーでは名刺に県内の各地域の魅力を紹介することで、携わった生徒が青森県の魅力について広く知ることができた。次年度以降も、課題研究の授業の取組において和紙を使用した商品について調査・研究を継続していきたい。

## 令和4年度 高大連携推進事業報告書

学 校 名	青森県立三沢商業高等学校
事業担当者名	平川正晃 榊 祥吾 秋田文陽子
事業（連携）名称	課題研究における八戸工業大学との連携

### 1 目的

情報処理科の「課題研究」において、学習した情報処理やプログラミング、データベースやネットワークの知識を活用して、情報処理科としての地域活性化を目標とした研究活動に取り組ませている。この研究活動では、ICTイベント企画運営、Webサイト製作、動画コンテンツ作成、商品企画、広報活動等に関係する課題を設定して活動を行っている。そこで、生徒の課題研究活動の支援のために、八戸工業大学の教授より指導・助言をいただくことで、研究活動の改善を図ることを目的とする。また、研究発表でのコミュニケーション力も養う。

### 2 実施日時・内容

#### (1) 課題研究指導1【研究活動報告指導】

日時 令和4年10月27日（木） 13:20～15:10

対象 情報処理科3年 40名

講師 八戸工業大学 教授 藤岡 与周 氏

内容

新型コロナウイルス感染症対策のため、八戸工業大学に出向かずに、藤岡教授を派遣していただき、校内で6つの班による研究活動報告を実施した。6つの班に対して、説明された研究内容や提示した資料について、個別に指導助言をいただくことともに、最後にすべての班に対して、研究報告の姿勢や資料提示方法、研究活動の進め方についてポイントについても指導いただいた。



#### (2) 課題研究指導2【校内課題研究発表会審査】

日時 令和4年12月15日（木） 10:00～14:00 予定

対象 校内研究発表6班

講師 八戸工業大学 教授 藤岡 与周 氏

内容

これから実施する校内の課題研究発表会となる。6つ研究発表に対して、学校代表となる2つの研究発表を選出する審査をお願いしている。

### (3) 課題研究指導3【課題研究事前指導】

日時 令和4年10月4日(火) 13:20~15:10

対象 情報処理科2年 32名

講師 八戸工業大学 教授 藤岡 与周 氏

内容

情報処理科2年生に対して、ICTを活用して地域活性化のための課題研究に取り組ませるための事前指導として特別講義を実施した。特に、課題研究の進め方や課題設定、仮説立案、検証方法などを解説いただくとともに、大学の研究を紹介していただいた。



### 3 成果 (生徒の反応や効果・課題など)

昨年度に課題研究の事前指導を受けた生徒が3年生となった。事前指導で約半数以上が販売促進のためのインターネットを活用した実践活動に取り組んでみたいと希望していたとおりに、アプリ開発やWebサイトおよびSNSを利用した販売促進活動で地域活性化を図る研究活動に6つの班が取り組んだ。今年度の活動内容のプレゼンテーションに対して、発表姿勢や資料の見せ方などについての指導により、12月の校内発表会では、2つの班が代表として研究発表することとなった。

また、情報処理科2年生の特別講義の前のアンケートでは、生徒が課題研究で取り組んでみたいことや興味のあることでは、アプリ開発やWebサイト構築、CGデザインに多くの生徒が希望していた。この生徒の状況に対応した特別講義で、ICT技術を目的とせず、手段とすることや仮説設定の重要性、加えて、大学での研究されていること、デジタルトランスフォーメーションについて解説いただいた。ICTを活用して地域活性化を目指した課題研究に取り組む2年生には、内容の濃い情報であり、来年取り組む課題研究について、活動のヒントを掴んだ生徒もいた。

このように、2年間の課題研究の連携は、生徒が研究活動を展開するうえで、とても有効であった。ICTを手段として研究活動すること、地域活性化に与えた影響を検証することをしっかりと生徒は理解していた。

最後に、高大連携に加えて、地域企業にIT人材育成でも協力をいただいているので、生徒に大学と地域企業が協力して研究活動を支えていく関係をこれからも継続していきたい。

## 令和4年度 高大連携推進事業報告書

学 校 名	青森県立八戸商業高等学校
事業担当者名	教諭 山口 舞 教諭 佐々木 郁子 教諭 岩間 由香子
事業（連携）名称	財務会計Ⅱ選択者（26名）の財務会計論の学習

### 事業報告

#### 1 目的

未来のスペシャリスト育成のため、大学と連携を図ることでより高度な専門知識を学ぶとともに、地域産業に貢献できる人材育成を図る。

#### 2 実施日時・内容

対象：財務会計Ⅱ選択者（26名）

内容：

8月 3日（水）

9：00～12：00

連結財務諸表の作成

講師 八戸学院大学

教授

田中

哲氏

8月 4日（木）

9：00～12：00

キャッシュ・フロー計算書

講師 八戸学院大学

准教授

幸田

威久矢氏

#### 3 成果（生徒の反応や効果・課題など）

1日目は連結財務諸表について学習した。講義の冒頭では、連結財務諸表の必要性について身近な企業を例に用いて説明していただいた。連結財務諸表を作成するための会計処理は生徒が苦手と捉えがちな分野だが、支配獲得日、1年後、2年後と段階的に説明をしていただいたことで、理解を深めることができた。

2日目はキャッシュ・フロー計算書について学習した。貸借対照表や損益計算書などの数値からキャッシュ・フロー計算書を作成する演習では、それぞれの財務諸表がどのような役割を果たしているのかについて把握することができた。講義の中でも生徒が特に関心を持っていたのが、実際の企業のキャッシュ・フロー計算書6つを用いた比較分析である。キャッシュ・フロー計算書を見るだけでその企業がどのような戦略を行っているのかを判断できることを知り、大変驚いていた。

2日間という短い期間であったが、それぞれの財務諸表が果たす役割や作成の方法、数値の分析と基礎から応用までを学ぶことができ、有意義な講義であった。

#### 《活動の様子》



## 令和4年度 高大連携推進事業報告書

学 校 名	青森県立八戸商業高等学校
事業担当者名	教諭 根城 寿 教諭 岩間 由香子
事業（連携）名称	商業科「広告と販売促進」における八戸学院大学との連携事業

### 事業報告

#### 1 目 的

各班の開発商品を販売するにあたり、顧客に対して販売商品の特性を効果的に伝え、理解してもらう。更に商品と顧客のミスマッチを防ぐためにどのような準備をするべきかを習得するため八戸学院大学の教授を招聘する。

#### 2 実施日時・内容

対 象 : 3学年商業科 広告と販売促進 受講生徒(71名)

内 容 : 講師 八戸学院大学 教授 堤 静子 氏

第1回 令和4年10月 6日(木) 5、6校時

「4Pステートメントとポジショニングマップについて」

第2回 令和4年10月13日(木) 5、6校時

「商品販売までの具体的準備計画の策定について」

#### 3 成 果 (生徒の反応や効果・課題など)

昨年に引き続き、八戸学院大学の地域経営学部の堤教授によるマーケティング関連の特別授業を実施した。昨年度の講座を踏まえ販売段階に向けた準備や、顧客に対する効果的なアプローチを題材として講義を依頼した。

1回目の講義では商品販売に向けたマーケティング理論について学んだ。特に、開発商品の特性を4つのステートメント(観点)から評価し、類似商品との比較によって商品の位置づけをポジショニングマップというグラフ上に表示する。これにより開発商品の位置づけと商品の強みは何かを明確に認識できた。この考え方は実際の対面販売で商品説明のポイントを明確に絞るために非常に有効であると生徒は実感していた。

2回目の講義では、前回の4Pステートメントによる商品評価の結果を踏まえ、商品販売に向けた準備計画について指導をいただいた。

特に、今回は販売顧客(ターゲット)の絞り方、商品特性を引き立たせる販売手段、ターゲットへのアプローチのためのキャッチフレーズの作り方を説明していただいた。これまでは漠然と商品の特性だけを意識して売ることが多かったが、顧客の絞り込みによって、チラシやPOP広告の作成や、対面販売での呼びかけの意識も徹底され商品の効果的な販売を行うきっかけとなったようである。今年も効果的な販売促進や、以後の研究活動にむけた意識改革につながり有意義な講座となった。

#### 《 活動の状況 》



令和4年度 高大連携推進事業報告書

学 校 名	青森県立八戸商業高等学校
事業担当者名	教諭 藤ヶ森 誠司
事業（連携）名称	情報処理科講義「IT業界の職業と今後の動向」

事業報告

1 目的

未来のスペシャリスト育成のため、大学と連携を図ることで、IT業界における職業理解を深め、情報化社会において必要な知識と技術について学ぶとともに、地域産業に貢献できる人材育成を図る。

2 実施日時・内容

対象：情報処理科 2年（35名）、1年（39名）

内容：11月30日（水）11：00～12：30 ※リモートで実施

講義「IT業界の職業と今後の動向」

講師 八戸工業大学 教授 小久保 温 氏

- |                  |                    |
|------------------|--------------------|
| (1) ITのトレンドと自己紹介 | (4) 数理・データサイエンス・AI |
| (2) IT業界とは       | (5) 進路             |
| (3) ソフトウェア開発の仕事  |                    |

3 成果（生徒の反応や効果・課題など）

本校の情報処理科の進路において、情報系の進路を選択する生徒が少ないという課題があることから、情報系の進路を選択する生徒を増加させたいと考え、情報処理科の2年生及び1年生に対して、「IT業界の職業と今後の動向」と題した講義を依頼した。


講義の内容は、IT業界の現在に至るまでの歴史、IT業界のトレンド、AIのできる未来とAIの負の部分など、IT分野の多岐にわたる内容をご紹介いただいた。本校では、2年生から課題研究を履修し、Androidアプリ開発などにも取り組んでいることから、ソフトウェア開発現場での仕事内容については、特に興味を持って聞き込む生徒の様子が見られた。

講義後の生徒へのアンケートでは、IT業界に興味を持つことができた生徒が96%と狙い通りに高い結果を得ることができた。一方、将来IT関係の職業に就きたいと答えた生徒は55%とまだ少ない状況にある。生徒の感想から、「初めて聞く言葉も多く、IT業界のことを理解していないことに気づいた。IT業界に進学・就職できるよう、将来自分がIT業界に求められる人物になれるように頑張っていきたい」という回答もあった。以上の結果を踏まえ、今後も大学や企業との連携をより一層深め、IT業界等について生徒が知る機会を設けられるよう努めていきたい。

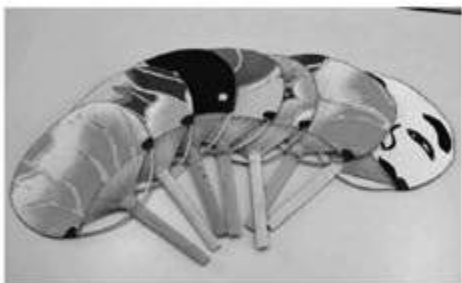

《講義の様子》



## 令和4年度 高大連携推進事業報告書

学 校 名	五所川原商業高等学校
事 業 担 当 者 名	教諭 野宮 大嗣
事 業 ( 連 携 ) 名 称	「課題研究」における出張講座 (観光事業の動向)
<p>事業報告</p> <p>1 目 的</p> <p>課題研究で地域資源を活用した観光活性化に向けた活動に取り組むにあたり、出張講座を実施。観光業界の現状、コロナ発生前と現在の比較、また、地方の観光業界について理解を深めたと同時に、現状および課題点の把握を深め、生徒の活動の一助とするため。</p> <p>2 実施日時・内容</p> <p>日 時：令和4年6月13日 (月) 13:30～14:20</p> <p>テーマ：地域観光×インバウンド×SDGs (11住み続けられるまちづくり)</p> <p>対 象：商業科3年 7名</p> <p>内 容：青森中央学院大学経営法学部の竹内紀人教授による「地域観光×インバウンド×SDGs」ーインバウンドの振興とこれからの青森県観光ーのテーマで講義を受講。青森県における観光事情やアジア地域からの観光客推移や消費傾向などについて理解を深めた。</p>	
	
<p>3 成果 (生徒の反応や効果・課題など)</p> <p>コロナウイルスが発生する前と後の観光における現状については、ニュース等でも報道が多かった関係で、生徒たちも状況のアウトラインは理解していた。そして、今回の出張講座を学ぶことで、アジア地域での東北の認知度が上昇していること、また、その中でも青森県は福島県に次いで2番目に認知度が高いことから、生徒たちの中でも観光を通して地域の活性化につながる方法を模索することに意欲的になった。</p> <p>課題研究でインバウンド (および本県への留学生) に向けた観光プランを考案。観光客が青森県 (五所川原市) を訪れて見る・聞く・買う・泊まるなどを「消費」してまでも体験したい「価値」の提案・提供をどのようにすればよいかを課題点としてプラン考案に主体的な姿勢で取り組むことができた。</p> <p>実際にモニターツアーまで実行してみたかったが、プラン計画段階で時間を要したりや、その他諸々事情があり、今年度の実施は見送りとなった。来年度は実現に向けて細部に渡り確認を行い、実現したいと思う。</p>	

## 令和4年度 高大連携推進事業報告書

学 校 名	下山学園五所川原商業高等学校
事 業 担 当 者 名	横田 祐美
事 業 ( 連 携 ) 名 称	課題研究における青森大学との連携事業
<p>事業報告</p> <p>1 目 的</p> <p>商業科進学コース3学年の科目「課題研究」において、これまで学習してきた商業科目の知識を用いて、普段の授業では体験できない実践的な学びへと繋げられる機会としたい。また、社会問題に目を向け、地域の課題を解決できるグローバルな人材育成を図る。</p> <p>2 実施日時・内容</p> <p>日 時 令和4年7月5日(火)5時間目          令和4年7月12日(火)1.2時間目          令和4年7月21日(木)5時間目          令和4年9月13日(火)5時間目</p> <p>テーマ 立佞武多の廃材を利用した商品開発</p> <p>対 象 商業科3学年 27名</p> <p>内 容 本校の課題研究において、ウクライナの復興支援となる取り組みをしたいという生徒の想いをもとに活動が行われた。そこで、青森大学観光研究センター喜来大智氏の協力を得て、五所川原市の立佞武多の廃材を利用した商品開発が行われた。商品開発するにあたり、五所川原市役所から実際の立佞武多の廃材の和紙を頂いた。立佞武多の和紙を使用し、うちわやポチ袋を製作した。製作したものは、マーケティングの知識を用いて、価格設定を行い、全国1億円プロジェクト2022という場で販売実習を行った。販売実習での利益は、全てウクライナへの支援金として寄付にあてる。</p> <p>3 成果(生徒の反応や効果・課題など)</p> <p>五所川原市の伝統的なお祭りである「立佞武多」の廃材を使用した商品開発に取り組むことで、地域に興味や愛着を持つ生徒が増えた。</p> <p>廃材を使用することで、SDGsの「8.働きがいも経済成長も」「12.つくる責任つかう責任」「17.パートナーシップで目標を達成しよう」という3つのゴールを実践することができた。</p> <p>販売実習により、販売までの一連の流れを学習できた。利益の計算を生徒自身で求め、支援金として寄付先を考えた。高大連携を通して、世の中の社会情勢に目を向け、地域の伝統芸能に触れ合い、商業を学べる素晴らしい機会となった。</p> <p>青森ねぶたの解体作業の現場を体験できる機会を喜来氏から頂いたものの、授業時間の制約があったため、残念ながら足を運ぶことができなかった。今後、より豊富な体験ができるように時間を作っていきたい。</p>	
	
	

# 県商研主催事業報告

## 令和4年度 第14回全国商業教育指導者研修会

青森県立黒石高等学校 教諭 鎌田 吉雄

- 1 期 日 令和4年8月8日（月）～8月10日（水）3日間
- 2 会 場 全商会館（東京都）
- 3 研修概要

	午 前			午 後	
8日 (月)	開講式	理事長 講話	各県 情報交換	文部科学省講話	ワークショップ
9日 (火)	ワークショップ	文部科学省講話		講演	ワークショップ
10日 (水)	講演	ワークショップ		ワークショップ 結果発表	閉講式

### 4 研修日程

#### 1日目 8月8日（月）

- 9:30～9:40 開講式
- 9:40～10:40 理事長講話 東京都立芝商業高等学校長 大林 誠
- 10:40～11:00 写真撮影
- 11:10～12:10 ワークショップ「各県情報交換」（グループ別）
- 13:10～14:10 文部科学省講話 「商業教育の現状と課題」  
文部科学省初等中等教育局参事官付 教科調査官 田中 圭
- 14:20～17:00 ワークショップ「商業教育の課題」（グループ別）

#### 2日目 8月9日（火）

- 9:00～10:30 ワークショップ「商業教育の魅力」（グループ別）
- 10:40～12:40 文部科学省講話「教育関係法規」  
文部科学省初等中等教育局初等中等教育企画課 専門官 水島 淳
- 13:10～14:40 講演「DXに向けての人材育成を考える」  
中央学院大学 商学部教授 浅井 宗海
- 14:50～15:50 ワークショップ「商業教育の魅力」（グループ別）
- 16:00～17:00 ワークショップ発表「商業教育の課題×商業教育の魅力」（全体会）

#### 3日目 8月10日（水）

- 9:00～10:30 講演「生徒たちが働く未来～急速に変容するワークスタイル」  
日本経済新聞総合解説センター 編集委員 石塚 由紀夫
- 10:40～12:10 ワークショップ（グループ別）  
「商業教育の良さを伸ばすため明日から商業高校は何をすべきか」
- 13:10～13:50 ワークショップまとめ（グループ別）  
「商業教育の良さを伸ばすため明日から商業高校は何をすべきか」
- 14:00～15:30 ワークショップ発表（全体会）  
「商業教育の良さを伸ばすため明日から商業高校は何をすべきか」
- 15:40～16:00 閉講式

## 5 成 果

### 【理事長講話】「全商協会の役割とこれからの商業教育について」

新型コロナの影響で2年間開催できず、3年ぶりの研修である。

全商は、元々は全国商業高等学校校長協会が始まりで創立74周年となる。具体的活動に高大接続連絡協議会（大学特別推薦）があり、大きな活動である。公益財団法人全国商業高等学校協会の具体的活動は、全商に入る検定料の半分を商業教育振興助成事業として、各県に300万～1,000万円支給されていることが他教科にはない特色となっている。生徒のスモールステップとして上手に検定を使ってほしい。

全商協会これから取り組むべき課題の1つとして、令和6年度より全商Webシステムが新しくなること。2つ目の課題として、必修修「情報」を「情報処理」で代替している現状で、教科情報の内容をきちんと教えているのかということがある。今のままであれば、「情報処理」の内容を変えるしかない。また、「課題研究」と「総合的な探究の時間」も、検定のための授業になっていないかといった内容であった。

この先、商業高校の役割は終わるのか。日本の労働人口の49%が人口知能やロボット等で代替可能に（平成27年12月 野村総合研究所）の資料にある。しかし、商業高校の教育課程は、以前とあまり変わっていないように思える。将来、夢を学べる魅力のある学科なら、もっと商業科の生徒は増えるはずであり、どれくらい目標を持って入学している生徒がいるのか。今後は、高大連携や高専連携を生かし、実際のビジネスを学ばせることが重要である。これからの商業高校は「商業は人づくり」だけではダメだ。なぜなら他の学校でも人づくりはやっているからだ。商業高校には、商業を学ぶ価値（value）を高める必要があり、価値（value）とは、将来メシが食える、いい生活ができるための知識・技術・技能の習得である。これからの経済社会で必要不可欠な学習とは、読み書き計算を含む基礎的な学力（中卒程度）、課題解決能力（論理的思考とデザイン思考）、英語力を含むコミュニケーション能力、情報スキル（ネットワーク技術と情報セキュリティ）のことで、これら専門教育の習得は商業高校の3年間だけでは難しく、専門高校と連携した教育課程の開発が必要である。全国的にも統廃合により商業高校は減少し、青森県でも商業を学ぶ生徒は減少してきている。改めて商業の魅力は何なのかを考え、教育課程を工夫し中学生にPRしていかなければならないと考えた。

### 【文部科学省講話】「商業教育の現状と課題」

商業科を学ぶ生徒数は、全国で171,088人（2,998,930人中）の5.7%（100%中）で、学校数は599校（昭和45年は1,201校、平成7年は1,030校）と減少している。それほど、事務の求人数は減っていないのに、昔と比べ商業高校生の事務職に就く割合が減った。以前の商業科は、正確に入力し、計算する授業が中心であった。今の社会で求められる資質・能力を身に付けさせる授業を行う必要があるが、先生方の教え方は変わったか、同じ事をしていないか。2030年に167万人の事務職が不足するというデータもある。探究学習や課題を見つけ、解決する力を身に付ける授業が必要であり、きめ細やかな就職指導が必要である。ビジネスコミュニケーションの科目設定が少ないし、ネットワーク活用などeビジネスにはマーケティングの知識が必要である。ネットワーク管理は組織のマネジメントの知識が必要で、ビジネスマネジメントの設定も少ない。学校事情もあるが、視点を変えて教育課程を考えて組んでほしい。データで読み取る力、ビジネス社会から求められる資質・能力を学校で教える。「主体的・対話的で深い学び」の実現は、地域、商品開発、観光を生かせばよい。実教出版の事前探究ワークブック（ビジネス編、観光編、地域活性化編）は授業で活用できる。調べ学習をさせ、ペア学習から発表させる流れを作ることができる。今の時代に必要な資質、能力を身に付けさせるために、まずは教師が変わろうと意識しなければならない。社会が変われば、ビジネスの仕方も変わり、それに対応した商業教育も変わらなければならない。

### 【文部科学省講話】「法令の基礎知識と教育公務員制度の概況」

ブラック企業をさける、育児もできる、働き方改革が勧められている。文部科学省では、改訂版全国の学校における働き方改革事例集として、ICTを活用した校務効率化と教員業務支援員の有効活用に焦点を当

てた特集を公開している。今後、2年に1歳ずつ定年が伸びる。ただし、管理職は60歳で役職定年になり、その後は、メンターアドバイザーになったり、通常の教諭として勤務する。メンタルヘルスで5,180人が病気休職で、最近ずっと5,000人を超えている。女性の管理職は14,457人で21.1%と過去最高となっている。事例や演習問題を交えての解説により、具体的に学校現場を考える機会となった。今後も教育公務員として幅広い法律を勉強しなければならない。

#### 【講演】「DXに向けての人材育成を考える」

DXとはデジタルトランスフォーメーションの略である。Society 5.0は、仮想空間と現実空間を融合した社会であり、拡張現実空間、クラウドコンピューティングにカネの情報、ものの情報、仮想空間をデザインする必要がある。仮想空間やAIはビジネスに不可欠になり、IBMワトソンによれば、将来人口知能が人類の知性を超えるそうだ。今後、10～20年間で約49%の仕事がAI(人工知能)で自動化されると予想されている。学校教育も、今まで通りなら、社会のニーズと離れる一方のような気がする。教授学習パラダイム転換とは、教えるから学ぶへ転換することであり、知識の転移とは、理解していることをどう使うかが大事である。対話を通じた創造的な活動には、他者との協働や協調が必要不可欠であり、授業の中にも取り入れる必要がある。

顧客視点で魅力を引き出し、デザインする。失敗してもよい方向に変えていこうというアジャイル的な考え方が必須だ。教師は「教える」ことに重点を置きがちになるが、生徒が「学ぶ」ことが大事であり、どのようにして、「主体的・対話的で深い学び」の実現ができるかを考えるべきである。

#### 【講演】「生徒たちが働く未来～急速に変容するワークスタイル」

新聞のニュースから、KDDIの大卒初任給が月50万円で、入社時から給与に格差があり、勤務時間外は副業しても構わないという副業解禁の記事が紹介され驚いた。

また、パナソニックや日立は週4日働いて、週3日休む、転勤はなしで、住む場所は個人の自由という働き方改革の記事も紹介された。以前から民間企業では、働き方改革が始まっていたが、新型コロナによって、一気に進んだようだ。

昭和の時は、経済成長ができた時代だったので、正社員の働き方は合っていた。効率よく、早く、安く作るといった生産効率に合っていた。(金太郎あめのように、どこでも同じでよかった)しかし、これからはVUCA(変動性、不確実性、複雑性、曖昧性)の時代と言われている。特に、創造性と革新力が鍵となり、個性の発揮が成長の源泉になる。また、ダイバーシティ(多様性)の必要性もよく言われている。

日本では、労働者が2030年に644万人足りず、シニアと外国人を補充しても298万人足りなくなり、人手不足がますます顕著になってくるようだ。これからは、メタバース(バーチャルオフィス)仮想空間に出勤して意見を出し合うことやコロナ禍で人との接触を減らす、テレワークも普及したので、ますますAIや働き方に変化が出てくるのではないか。ダイバーシティ経営とは、女性活躍や多様な人材を生かして集合知が高まるという内容である。

また、公認会計士もAIに変わる可能性が高い。企業は、専門性や強みのある人すなわち、即戦力のある人材を求めるようになった。あなたは何かできるのですかと言われた時、教員としての専門性を考えさせられた。雇われる能力を意識しておくことが大事であり、どういう能力を持っていけばいいのか、常に持ち続けるスキルを身に付けておく必要がある。

世の中の流れが速く、大学で学んだものがずっと使えるわけでないのはわかっているが、やはり常にリスキング(学び直し)が重要だ。work in life(仕事は人生の一部でしかない)という考え方もあるようで、どういう人生設計をするのか、幸せに生きるために、どんな働き方をすればいいのかといったキャリア設計を考えて充実した人生を送れるように、仕事と生活のバランスを考えて努力を続けるしかないと思った。

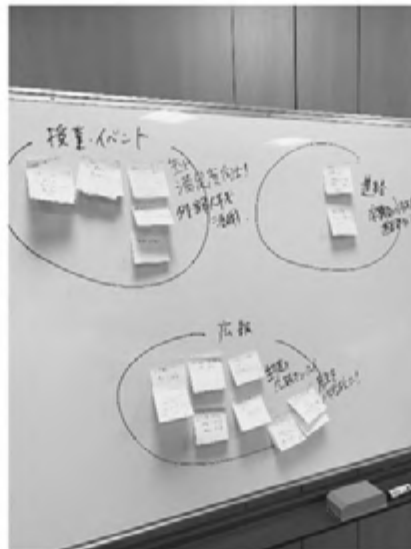
昔、商業の就職先で人気だった一般事務や経理事務も、2030年にはAIに代替される可能性のある職

種になっている。勤務先は終身雇用を保障しない、できない時代になってきており、能力を生涯学び直す（リスキニング）覚悟が必要だ。教師も定年退職が延びることから、スキルを高めるためにはリスキニングが必要なのである。

## 6 おわりに

商業高校の課題と魅力をグループになって考え、まとめ、発表する3日間だった。グループごとの発表を聞き、改めて商業高校には魅力があり、それを各県で発信する工夫が必要だと感じた。

今回の研修では、他県の先生方と情報交換をすることができ、他県の動向を知る良い機会となった。また、47都道府県の代表の先生方との意見交換と講演会は、大変貴重な機会であり、緊張感を持って研修を受けることができた。今後も、さらに自己研鑽に励み、研修の成果を本県の商業高校と、本校に還元していきたい。大変有意義な研修の機会を与えていただき、ありがとうございました。



## 令和4年度 商業教育講習会「会計実務に関する講義と実習」

青森県立田名部高等学校 臨時講師 工藤 勝平

- 1 期 間 令和4年7月27日（水）～ 7月29日（金）
- 2 場 所 全商会館（東京都）
- 3 講 師 [財務会計・管理会計] ネットスクール株式会社 代表取締役社長 桑原 知之 氏  
[財務諸表分析] 横浜国立大学大学院国際社会科学研究院 准教授 木村 晃久 氏

### 4 日 程

7月27日（水） 9：00～16：00	[財務会計] 連結会計（初年度資本連結、2年度目以降の資本連結、成果連結、アップ ストリーム期末商品に含まれる未実現利益の消去）
7月28日（木） 9：00～16：00	[財務諸表分析] 財務諸表の見方の概観と財務諸表分析の目的、収益性・安全性・分析の各 種手法と企業評価、証券市場と財務処方分析
7月29日（金） 9：00～16：00	[管理会計] CVP 分析、直接原価計算、最適セールミックス、意思決定会計（業務的意 思決定、設備投資の経済性計算）

### 5 成 果

まず、昨今のコロナ禍においてこのような研修の機会を頂いたことに感謝申し上げます。

1日目の講義の冒頭では、桑原氏に会計に関わる社会の実情と会計の検定試験についてお話いただき、指導する立場として簿記への理解を深めるとともに、生徒への指導の重要性を確認することができた。財務会計の講義では、はじめに損益計算書の区分がもつそれぞれの性質について具体例をあげながらご教授いただき、生徒の理解を深めるヒントを多く得ることができた。他にもキャッシュフロー計算や連結会計についての講義も理解するためのポイントや具体例を多くあげており、直接指導に役立つ内容が豊富な講義であった。

2日目の財務諸表分析の講義は木村氏にご教授いただき、財務諸表で最も重要な諸表である貸借対照表の理解からはじめた。貸借対照表の分類については教科書には載っていないような解釈や生徒の理解を深めるための伝え方を学ぶことができた。講義の中盤からはメインの収益性・安全性分析について、分析手法はもちろんだが、その指標がどのような数値から導き出され、どのような意味をもつのか詳細に解説いただき、分析の奥深さを知ることができた。

3日目の講義では管理会計について1日目と同様に桑原氏にご教授いただいた。管理会計の論理は行動の意思決定に関わるため、簿記を直接使うような経理の仕事以外の多くの社会人にも役立つ知識であることもお話されており、社会で簿記の知識が評価される理由を改めて感じることができた。このような簿記の需要を生徒の学習意欲に繋げられるよう現場で伝えていきたいと考える。

私自身、民間企業で務めていた期間が長く、簿記を学んだのは10年以上も前のことだったので、指導内容以外にも、現代の指導に必要な資質を改めて確認できたことは大きな収穫であった。今後も指導する立場として、学ぶ姿勢は常に持ち続けていきたいと考える。そして、今回の講義で学んだことは現場で生かし、体験的で実践的な指導を通じて社会で活躍する人材の育成を目指していきたい。

各種大会報告

第69回全国高等学校ビジネス計算競技大会県予選会

令和4年6月4日(土)会場:青森商業高校

【珠算の部】

●団体  
**優勝** 三沢商業高校  
**準優勝** 八戸商業高校




●個人

第1位	三沢商業高等学校	細田 菜生
第2位	三沢商業高等学校	新館 倅幸和
第3位	三沢商業高等学校	松田 友瑠
第4位	三沢商業高等学校	木村 祥桜
第5位	八戸商業高等学校	佐藤 美香
第6位	三沢商業高等学校	佐藤 瑞香

【電卓の部】

●団体  
**優勝** 三沢商業高校  
**準優勝** 八戸商業高校  
**第3位** 青森商業高校



●個人

第1位	三沢商業高等学校	磯沼 莉瑚
第2位	八戸商業高等学校	浜道 真穂
第3位	三沢商業高等学校	山内 優香
第4位	青森商業高等学校	高坂 美結
第5位	八戸商業高等学校	木南 湖杏
第6位	三沢商業高等学校	中野 望愛

第34回全国高等学校情報処理競技大会  
県予選会

令和4年6月11日(土)会場:弘前実業高校

●団体  
**優勝** 八戸商業高校  
**準優勝** 三沢商業高校  
**第3位** 弘前実業高校

●個人

第1位	八戸商業高等学校	北川 綾乃
第2位	八戸商業高等学校	山日 凛
第3位	八戸商業高等学校	大久保 玲菜
第4位	八戸商業高等学校	阿部 友侑
第5位	三沢商業高等学校	小笠原 明音
第6位	三沢商業高等学校	及川 竜矢



八戸商業

第59回青森県高等学校ワープロ競技大会兼  
第69回全国高等学校ワープロ競技大会県予選会

令和4年6月11日(土)会場:三沢商業高校

●団体  
**優勝** 三沢商業高校  
**準優勝** 八戸商業高校  
**第3位** 青森商業高校

●個人

第1位	三沢商業高等学校	松田 綾乃
第2位	三沢商業高等学校	近藤 鈴夏
第3位	青森商業高等学校	野呂 奏人
第4位	青森商業高等学校	番地 遥大
第5位	三沢商業高等学校	佐々木 紗羅
第6位	千葉学園高等学校	高橋 侑良



青森商業



三沢商業

第39回全国商業高校英語スピーチコンテスト県予選会  
令和4年7月4日(月)会場:青森県総合社会教育センター

●歌唱部門

第1位	三沢商業高等学校	メンバー舞 愛
第2位	青森商業高等学校	高橋 真緒
第3位	三沢商業高等学校	蛇名 圭梨

●スピーチ部門

第1位	八戸商業高等学校	白坂 佳乃子
第2位	三沢商業高等学校	蛇沢 佳乃子
第3位	青森商業高等学校	亀田 沙来



三沢商業  
歌唱部門  
優勝



八戸商業  
スピーチ部門  
優勝

第38回全国高等学校簿記競技大会県予選会  
令和4年6月18日(土)会場:青森商業高校

●団体  
**優勝** 三沢商業高校  
**準優勝** 弘前実業高校  
**第3位** 八戸商業高校

●個人

第1位	三沢商業高等学校	古泊 可衣
第2位	三沢商業高等学校	山田 隼大
第3位	弘前実業高等学校	葛西 聡
第4位	弘前実業高等学校	中村 彩衣星
第5位	弘前実業高等学校	下道 実桜
第6位	八戸商業高等学校	清水 怜奈



弘前実業

今年度も商業教育に関する部活動の大会が各地で開催されました。今年は県南地方の高校の活躍がめざましかったです。日頃の練習の成果を発揮し、青森県代表として、全国大会へ挑む選手の方々の活躍を祈っています！

青森商研

NEWS

令和4年度 夏号  
R4.7.22 発

青森県高等学校商業教育研究会  
 研究誌編集委員会 発行  
 編集者 板柳高等学校 長嶋 良  
 大湊高等学校 向谷 史拓  
 青森商業高等学校 梶 晃太

## 三沢商業高校 公認会計士講話

5月24日(火)、1学年120名を対象に、現役公認会計士であり、本校のSAH事業で生徒の学習指導をいただいている小島一富士(こじま かずふじ)先生よりご講話いただきました。

今回の講演では、日商簿記3級の試験問題をもとに簿記の仕訳について熱く語っていただきました。仕訳(3級レベル)とは私たちが普段扱う「ひらがな」のようなものであり、ひらがなを当たり前に使いこなせるように、仕訳(3級レベル)も当たり前に使いこなせるようになることが、この先の簿記学習において重要になることを学びました。

簿記を学び初めて二ヶ月程の生徒ですが、これまで学習した内容を振り返りながら、仕訳の大切さを感じることが出来ました。将来、社会に貢献できる人財となれるよう、これからも簿記学習により一層励んでいきます。

## 各校での取組



## 青森商業高校 5月26日(木)

### 青商ビジネスチャレンジ with 台湾事業

今年度より庁内ベンチャー事業「青商ビジネスチャレンジ with 台湾事業」がスタートしました。この事業は、台湾の高校生との交流を通して、グローバルな視点を持った生徒が県内に定着し、本県の資源を活用した新たなビジネスモデルを構築し、地域経済の発展に寄与する人財を育成することを目的としています。事業の一環として、輸出の基礎と海外市場について、日本貿易振興機構(ジェトロ)青森貿易情報センターの中川翼氏による講演会を実施しました。生徒は、各国それぞれの習慣、物価等を考えて取引することが大切であることを学びました。



## 八戸商業高校 5月23日(月)

### Androidアプリ講座

八戸市でスマートフォンアプリ開発やWebコンサルティングを行っている(株)アイティワークの方からご協力をいただき、情報処理科2、3年生を対象にAndroidアプリ開発講座を実施しました。情報処理科の課題研究の授業では多くの生徒が、地域が抱える課題を解決するためにアプリケーションソフトの開発をしています。本講座を通じて、生徒はアプリケーションソフト制作でつまづいていることなどを相談し、ご助言をいただきました。



## 弘前実業高校 弘南鉄道沿線の地域活性化

私たちは、弘南鉄道沿線の地域活性化を目的として、課題研究に取り組んでいます。最近では、弘南鉄道を利用し大鰐町での現地調査をしました。1時間ほどガイドの方の案内で大鰐駅周辺の街歩きをしました。歴史や名物など、今回学んだことを地域活性化につなげられるように、アイデアを出したいと思います。



青森県高等学校商業教育研究会  
研究誌編集委員会 発行  
編集者 弘前実業高等学校 柴崎 健太郎  
三沢商業高等学校 山田 真菜  
青森商業高等学校 榊 晃太

## 栄光を称える！！

今年度も全国大会において、商業高校生の活躍がありました。日頃の練習の成果を発揮し、目覚ましい活躍をしてくれた生徒の皆さんお疲れ様でした。

今回の商研ニュースでは、全国大会で活躍された部活動の代表生徒に、全国大会の報告をしていただきました。

### 第六十九回全国高等学校 ワープロ競技大会

七月二十七日 東京

#### 同体の部 第九位

三沢商業高等学校  
ワープロ部 三年 松田 綾乃

今回の全国大会では、団体9位に入賞することができました。全国大会は初体験という部員がほとんどでしたが、会場に着いてからは、今までの大会の経験を生かして素早く準備し、練習を始めることができました。さらに他の高校の様子も見ることができ、今後の練習への良い経験となりました。普段の大会とは違う、強豪が周りにいる環境でしたが、全員ができることをやり全力を出したからこそ、脱行することなく練習の成果を発揮することができました。反省点も多々ある大会でしたが、今回の大会で得た経験や反省点を生かし、これからの大会へ向け役立ててほしいです。



三沢商業高等学校 ワープロ部

#### 個人の部 優良賞

三沢商業高等学校

ワープロ部 三年 松田 綾乃

今回の全国大会は、個人9位で優良賞という結果でした。開催場所が東京となり、

会場が去年とは違う環境での競技となりました。しかし、去年の全国大会で得た経験を生かし、移動や会場での準備を素早く行うことができました。また今年は部長という立場に責任を持ち、他のメンバーが不安を見ながら指示を出すことを意識して行動しました。大会当日は、極度な緊張で手が震えて、いつもよりスムーズに指を動かすことができませんでした。しかし、今までの練習の全てを生かし、大きなミスもなく十分間打ち切ることができました。今回の大会で私は引退してしまいましたが、まだまだ反省点や直せる点がたくさんあると感じた大会でした。今後、この部活での経験をこれからの生活に生かしていきたいです。

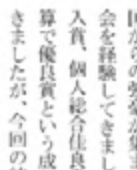
#### 第六十九回全国高等学校 ビジネス計算競技大会

七月二十九日 東京

#### 珠算競技 団体総合 第八位

三沢商業高等学校  
珠算部 三年 松田 友瑛

珠算部の目標を、珠算・電卓ともに全国優勝とし日々の練習に取り組んできました。本番では緊張のあま



三沢商業高等学校 珠算部

#### 珠算競技 個人総合 優良賞

三沢商業高等学校

珠算部 二年 新部 偉幸和

私は、初めて全国大会に出場し、全国からの強豪が集まるハイレベルな大会を経験してきました。珠算団体8位入賞、個人総合優良賞、種目別応用計算で優良賞という成績を残すことができましたが、今回の結果は納得のいくものではありませんでした。

後輩には、支えてくれる方への感謝の気持ちを忘れず、常に本番のつもりで練習することを心がけ、大会では納得できる結果を残せるよう頑張ってください。

#### 珠算競技 個人総合 優良賞

三沢商業高等学校

珠算部 二年 新部 偉幸和



三沢商業高等学校 珠算部

私の中で自分の実力を出し切ることがどなたか難しいかを実感するともに、普段の生活態度を見直す良い機会となりました。今後は新人チームで挑む

東北大会では練習は本番のように、本番は練習のようにというを意識して練習に励みたいと思います。そして、東北大会では珠算・電卓ともに団体優勝を果たし、来年の全国大会に繋げていきたいです。

#### 珠算競技 個人 応用計算競技 優良賞

三沢商業高等学校

珠算部 三年 松田 友瑛

今回の全国大会では、去年の成績を超える結果を残すことを目標としていました。しかし、本番では緊張してしまい、去年の成績を超すことができませんでした。悔いの残る大会となりました。種目別競技では優良賞をとることができましたが、大事なところでミスをしてしまいました。大会会場での他の学校の選手を見て、特に優勝した学校の選手は堂々としており、自信を持って大会に臨んでいました。後輩には、常に緊張感を持ちながら練習に取り組んでほしいです。そして、大会では緊張せずに納得のできる結果を残せるように頑張ってください。

#### 電卓競技 個人総合 優良賞

三沢商業高等学校

電卓部 三年 洪道 真穂

私は全国大会で入賞することを目標に日々練習に取り組んできました。今までの大会での反省点であった、普通計算のミスが多いという弱みを克服することができず、全国大会という場でも満足いく成績を残すことができませんでした。しかし、応用計算では自分の最大限の力を出し切ることができ

ありました。悔いながらも悔いながらも最後まで努力してきたと今胸を張って言うことができます。と思います。



三沢商業高等学校 電卓部

#### 第三十八回全国高等学校 簿記競技大会

七月二十五日 東京

#### 同体の部 全国出場

三沢商業高等学校

簿記部 三年 古治 可衣

三沢商業高校簿記部は、全国高等学校簿記競技大会に出場してきました。今年も昨年に引き続き団体の部での出場となりました。今年も昨年に引き続き団体からの全国大会を見据えて、昨年は対応できなかった問題に慣れるように部員一丸となつて練習に取り組みました。

全国大会当日は、会場の雰囲気にもなれました。これまで培ってきた実力を出し切ることができず、入賞することではできませんでしたが、顧問の先生や部員など様々な人に支えられ、全国大会出場まで多くの経験ができたことに本当に感謝をしています。後輩たちも日々の練習に感謝の気持ちをもち、真摯に取り組み、全国大会での入賞を目指して頑張ってください。



三沢商業高等学校 簿記部

第三十四回全国高等学校

情報処理競技大会

七月三十一日 千葉

個体の部 全国出場

八戸商業高等学校

コンピュータ部 三年 大久保 玲菜

私たちコンピュータ部は、情報処理競技大会の全国大会に出場しました。六月の県予選が終わり、全国大会まで一ヶ月。この短い期間で私たちは少しでも高得点を取るために学習に取り組みました。全国大会の問題は、表計算の関数や流れ図が出題される第二部の問題が難しく、なかなか点数を取ることができない状況でした。それでも、少しでも良い結果を出せるよう勉強に励みました。そして迎えた大会では、入賞は逃しましたが団体二十位という結果となり、ベストを尽くすことができたと思います。何事も結果を残すためには、毎日の積み重ねが大事であることを大会を通じて知ることができました。この経験を今後の生活にも生かしていきたいです。



八戸商業高等学校 コンピュータ部

第二十六回東北六県高等学校

生徒商業研究発表大会

八月二十七日 岩手

東北大会 優秀賞

青森商業高等学校

情報処理科 三年 澤田 紅葉

私たちはネット通販で販路を拡大させることを目標に、雑穀等を取り扱っている地元企業のネット通販サイトの制作・運用に関する研究に取り組みました。活動の中でターゲットの行動を予測したカスタマージャーニーを作成しました。班のメンバーで協力し情報収集したり考えたりすることで一人では思いつかない多くのアイデアや意見が出ました。また、メンバーと話し合い、スライドの文字の色や配置、発表

する時の話し方や声の大きさなど東北大会に向けて工夫や改善をしました。これらを通して仲間と協力することの大切さを学び、改めて実感しました。これまでの活動から得た経験を今後を生かし、更に販路を拡大させられるよう活動していきます。



青森商業高等学校のみなさん

東北大会 優良賞

三沢商業高等学校

商業科 三年 種市 理美奈

三沢商業高校進路部会は、東北六県高等学校生徒商業研究発表大会に出場してきました。私たちはこの大会に向けて毎日練習し挑みました。大会直前には、コロナの影響で参加できなくなるメンバーもあり、不安な気持ちでいっぱいでした。しかし、本番ではチーム一人ひとりが自分の役割を果たし、今まで一番良い発表をすることができ、優良賞をいただくことができました。また、他県の高校の発表も参考に、更に地域社会の課題を見出し、地域の方や企業、行政と協働して課題解決に取り組んでいきたいと思っています。



三沢商業高等学校のみなさん

インターシップを終えて

弘前実業高等学校

情報処理科 二年 須藤 咲希

私は、田舎館村役場でインターシップを行いました。学んだことが二つあります。一つ目は、役場での基本的な仕事内容です。初めは郵便物の整理、各課への郵便物の送り届け、タイムカードを作成したりと、比較的簡単な作業をさせていただきました。作業の中で特に印象に残っているのは、エクセルを使った簿記です。エクセルや簿記は、学校で学んでいたもので、スムーズに仕事を進めることができました。エクセルや簿記を学んできたという人は少

なく、田舎館村役場でも、パソコンを使える人を求めているとおっしゃっていたので、これは私にとっても有利なことだと思いました。情報処理科で学習することができて、とてもよかったです。

また、役場内だけでなく、田舎館公民館でも、仕事をさせていただきました。公民館では、講習会に必要な資料を配ったり、会場の片付けをしたりしました。公民館では、お客様と触れ合う機会が多く、このような講習会を開催したり、コロナウイルスのワクチン接種の会場となったりすることが多いとおっしゃっていました。会場設営や片付けの素早さが大切になってくると思います。役場では、たくさんの方の仕事内容があり、一つのことを専門的に仕事するわけではなく、それを分担して仕事をしていることを知ることができたのでよかったです。

二つ目は、積極性です。役場では、五分に一回は電話がかかってくるなど、仕事量が多く、とても忙しい職場です。その仕事量についていくには、積極的に行動し、集中力を保つことが必要だと思いました。私は学校ではあまり積極性があるように見えませんが、勉強でも集中力が足りないことがありません。このままでは、役場で仕事する資格がなく、さらに公務員試験も合格できずに終わってしまうので、今からでも変われるように努力していきたいです。公民館での仕事では、テーブルの片付けを頼まれ、片付け終わった後に率先して他の作業にとりかかるといったようにしました。学校でも、このように小さいことから積極的に手伝いなどをしていこうと思いました。役場での仕事体験は、とても貴重なことなので、学んだことを無駄にせず、これからの生活に生かしていきたいように頑張りたいです。

特集 商業生インターハイ制覇

弘前実業高等学校

商業科 二年 榎方 聖蓮

「やった！勝ったんだ！優勝だ！...」何度、何度、何度も跳ね返された私の夢が叶った。今夏、高知県で開催されたインターハイ相撲競技体

重別100kg級の決勝戦、勝負が決まった瞬間に湧き上がった喜びと溢れた涙が忘れられません。

私は元々ジュニア野球チームに所属していましたが、小学五年生の時に日本テレビ「ぐるナイ金星相撲部」への参加がきっかけで相撲を始めました。以来、週五日の練習をする中で、「相撲で日本一になりたい」と思うようになり、幸いなことに、小中学校時代は全国大会に出場する機会は何度かあったのですが、「ベスト16」という壁が立ちました。しかし、「なして勝てなんだ」と諦めがつかない私は、夢の実現のために弘前実業高校へ進学して相撲部に入部しました。日々の練習を淡々とこなす毎日、目標を失いかけたこともありませんが、自分自身を見つめて、弱いところや足りないところなどが多分にあることに気づきました。ある時、「このままではいけない、何かを変えなきゃ成長しない」と考え、一念発起し、本気で練習に励みました。もちろん、弘前実業は文武両道を旨とする学校です。商業科に在籍しているため、眠い目をこすりながらも資格取得にも真剣に取り組みました。インターハイでの相撲内容を振り返ると、自分の良さが多く出た試合だったので、「やればできるんだ」と自信を持ち、今後につなげることができそうです。思い起こせば練習がキツくてきつくて、辛かったことは多々ありましたが、いつも熱心にそして前向きに指導してくださる高橋道雄監督と古川勝一コーチ、楽しい仲間が存在、陰で見守ってくれた両親の大きな支えがあったからこそ頑張ることができたんだと思います。

楽しく充実した高校生活は残り一年ちよつとですが、これからも、決して着らず、自分を律しながら毎日、過ごしたいと思えます。そして、何よりも感謝することを忘れず、何事も頑張る私でありたいです。



全国制覇した榎方聖蓮さんと監督の高橋先生

# 各校の活躍

青森商研

# NEWS

令和4年度冬号  
R5.1.31



青森県高等学校商業教育研究会  
研究誌編集委員会 発行

編集 八戸商業高等学校

三沢商業高等学校  
千葉学園高等学校

山口 舞  
山田 真菜  
山田 博規

今年度は二年ぶりに東北六県高等学校ワープロ競技大会及びビジネス計算競技大会が開催されました。参加生徒の皆さん、お疲れ様でした。  
今回の商研NEWSでは、東北大会で活躍した各校の代表生徒に、大会の報告をしていただきました。初めての東北大会で、緊張しながらもハイレベルな戦いに奮闘したようです。

令和4年度

東北六県高等学校ワープロ競技大会

十月二十二日

八戸商業高等学校

二年 一本松 愛莉



私は初めて東北大会に出場し、東北地区各校の強豪が集まるハイレベルな大会を経験してきました。普段の部活動では大会本番を想定した練習を取り入れながら活動してきましたが、本番では自分たちの本来の力を発揮することができず、残念な結果に終わってしまいました。大会を通して、普段通りの実力を発揮することの難しさを知るとともに、私たちの実力不足を実感しました。

次の大きな大会は来年度六月に行われる全国高等学校ワープロ競技大会青森県予選会です。東北大会を通して見つかった課題を見つめ直し、高校生活最後の大会で悔いが残らないように、日々の練習を積み重ねていきたいです。



令和4年度  
東北六県高等学校ビジネス計算競技大会  
十月二十九日

珠算競技の部 団体 第二位  
電卓競技の部 団体 第二位

三沢商業高等学校

二年 新館 倅幸和

私たちは十月二十九日に秋田市立秋田商業高校で行われた第四十九回東北六県高等学校ビジネス計算競技大会に出場してきました。

珠算、電卓ともに団体総合優勝をすることを目標としていましたが、惜しくも目標には届かず結果は両競技ともに団体二位でした。この大会を通じて学んだことは、本番一回の中で自分の実力を充分に出し切ることの大切さです。練習でどれだけ高得点をとれていても、その実力を本番で出せなければ意味がないので、大会で安定した点数を取るために、日々本番さながらの緊張感をもって練習することを意識していきたいです。七月の全国大会では、上位入賞に向けて部員全員で取り組んでいきたいです。



## ★フォトギャラリー

(八戸商業高校 ワープロ部)



(三沢商業高校 ワープロ部)



競技の様子...



# 令和4年度 各種大会結果報告 (後半)

### 第54回青森県高等学校ワープロ新人競技大会 R4.9.03

《ワープロの部》

◎団体


- 🏆 第1位 三沢商業高等学校
- 🏆 第2位 八戸商業高等学校
- 🏆 第3位 青森商業高等学校

◎個人

- 🏆 第1位 三沢商業高等学校 中村 聖 玖
- 🏆 第2位 三沢商業高等学校 根岸 ななか
- 🏆 第3位 三沢商業高等学校 小笠原 幸
- 第4位 青森商業高等学校 佐藤 登 美
- 第5位 三沢商業高等学校 遊澤 悠 仁
- 第6位 三沢商業高等学校 山 上 いち花

◎1年生の部・個人

- 🏆 第1位 三沢商業高等学校 根岸 ななか
- 🏆 第2位 青森商業高等学校 佐藤 登 美
- 🏆 第3位 三沢商業高等学校 遊澤 悠 仁
- 第4位 三沢商業高等学校 山 上 いち花
- 第5位 八戸商業高等学校 西村 美 宇
- 第6位 青森商業高等学校 長谷川 惺 奈



### 第54回青森県高等学校ビジネス計算新人競技大会 R4.9.17

《珠算競技の部》

◎団体競技

- 🏆 第1位 三沢商業高等学校

◎個人総合競技

- 🏆 第1位 三沢商業高等学校 新 館 倅 幸和
- 🏆 第2位 三沢商業高等学校 野 崎 ひらり
- 🏆 第3位 三沢商業高等学校 松 林 結 音


《電卓競技の部》

◎団体競技

- 🏆 第1位 三沢商業高等学校
- 🏆 第2位 三戸高等学校

◎個人総合競技

- 🏆 第1位 三沢商業高等学校 新 山 奈々美
- 🏆 第2位 三沢商業高等学校 明 戸 樹 紀奈
- 🏆 第3位 三沢商業高等学校 中野 渡 望 愛
- 第4位 三戸高等学校 小 野 雅 登
- 第5位 青森商業高等学校 佐々木 美 羽
- 第6位 三沢商業高等学校 橋 山 実 菜



### 第60回東北六県高等学校ワープロ競技大会 R4.10.22

◎団体

- 🏆 第2位 三沢商業高等学校

◎個人

- 🏆 第3位 三沢商業高等学校 長谷川 陽 大
- 第4位 三沢商業高等学校 中村 聖 玖

### 第49回東北六県高等学校ビジネス計算競技大会 R4.10.29

《珠算競技の部》

◎団体競技

- 🏆 第2位 三沢商業高等学校

◎個人総合競技

- 🏆 第1位 三沢商業高等学校 新 館 倅 幸和

◎読上暗算 競技

- 🏆 第2位 三沢商業高等学校 新 館 倅 幸和

◎読上算 競技

- 🏆 第3位 三沢商業高等学校 新 館 倅 幸和

《電卓競技の部》

◎団体競技

- 🏆 第2位 三沢商業高等学校

◎個人総合競技


- 🏆 第3位 三沢商業高等学校 中野 渡 望 愛

◎応用計算 競技

- 🏆 第1位 三沢商業高等学校 新 山 奈々美

◎応用計算 競技

- 🏆 第1位 三沢商業高等学校 新 山 奈々美



### 第27回青森県高等学校簿記競技大会 R4.11.12

《応用部門》

◎団体の部

- 🏆 優勝 青森商業高等学校
- 第2位 三沢商業高等学校
- 第3位 弘前実業高等学校

◎個人の部

- 🏆 第1位 青森商業高等学校 近 藤 佑 紀
- 🏆 第2位 弘前実業高等学校 下 山 瑞 姫
- 🏆 第3位 弘前実業高等学校 葛 西 聡
- 第4位 青森商業高等学校 今 晴 希
- 第5位 三沢商業高等学校 金 濱 優 成
- 第6位 三沢商業高等学校 和 田 愛 結 菜


《基礎部門》

◎団体の部

- 🏆 第1位 八戸商業高等学校
- 🏆 第2位 三沢商業高等学校

◎個人の部

- 🏆 第1位 八戸商業高等学校 小 橋 温 和
- 🏆 第2位 八戸商業高等学校 高 橋 ひより
- 🏆 第3位 三沢商業高等学校 米内山 愛 芽
- 第4位 弘前実業高等学校 木 村 聡
- 第5位 弘前実業高等学校 山 田 優
- 第6位 八戸商業高等学校 関 口 まい



さんフェア青森2022  
 <<<<<<<< 響かせよう産業の音色 ~縄文の風吹く青森で~ >>>>>>>>

# 商品紹介

下の5つの商品は  
 さんフェア青森2022で  
 限定販売されたものです！



**青商**

たくあん入りマヨネーズ  
 チーズ入かまぼこのベーコン巻き  
 ツナマヨ入り3色セットの3種類！  
**青商かまぼこ**

**弘実**

えっ！食べられるの？  
 白神山地で育った熊の内臓を  
 使用した犬用のおやつ  
**わんこのうんこ**

**三商**

**烏ごぼうふりかけ**  
 三沢市の特産品のごぼうを使用  
 鶏肉の食感とごぼうの風味が  
 ベストマッチしてご飯がすすむ！

**三商**

**ペットボトルライス  
 まっしぐら**  
 「飽きない」コメと  
 商業の「高い」をかけたネーミング  
 ラベルは三沢商業生オリジナル！

**八商**

**せんべい汁三昧**  
 八戸せんべい汁を手軽に味わうことが  
 できるレトルト食品  
 定番のしょうゆ味、野菜味のほか、  
 斬新なフイヤベース味の3種類！

## 青森商業



津軽びいどろ×青商120周年  
**箸置き (リンゴの花) 髪ゴム (青商制服)**  
 箸置き(リンゴの花)はリンゴの花びらをイメージ、  
 髪ゴム(青商制服)はさわやかなブルーを基調とした  
 青森商業の制服をイメージした商品

**こぎんクッキー**  
 こぎん刺しをプリントした、津軽味噌を使用したクッキー

**ヒトナツノコイ**  
 青森産カシスと北海道産プロセスチーズの  
 やわらか大福

有限会社 松栄堂で販売中！

## たんげめえ！

**美味醤醤 (ビミジャンジャン)**

台湾の高校生と共同開発した  
 パスタソース  
 青森県産ホタテを使用し、辛みを  
 抑えたベベロンチーノ風味で  
 老若男女問わず食べやすい味  
 アヒージョや炊き込みご飯にも！

アスパム物産、青森空港、浅虫温泉館、浅虫水族館  
 A-FACTORY、AoMoLink 赤坂、立役武多の館  
 道の駅なみおかアップルヒル、道の駅ゆーさ浅虫、ホタテ広場  
 スクールショップ プラザA(サンロード青森2階)、虹のマーケット  
 マックスバリュ 浜田店、イトーヨーカドー青森店  
 県内イオン各店舗 青森市内ローソン一部店舗、  
 スクール各店舗他で販売中！

## 弘前実業



### とんとんず最中 (ノーマル・南国バージョン)

弘南鉄道キャラクター「ラッセル君」のお尻の丸みを活かしたデザイン  
いなみや菓子店名物「バナナ最中」の餡をぎゅっと詰め込んだ商品  
ノーマルと南国(ココア)の2種類!

いなみや菓子店、道の駅ひろさきサンフェスタいしかわ、  
直売所 野市里(弘前市)、ファミリーマート(弘前駅前・黒石駅前)で販売中!

## 弘南鉄道チャレンジパン(激辛・激甘)



弘前駅から黒石駅に向かってだんだん辛くなる激辛と、  
弘前駅から大鰐駅に向かってだんだん甘くなる激甘の2種類  
5両編成で段階ごとに辛く(甘く)なっていきます!

道の駅ひろさきサンフェスタいしかわ、直売所 野市里(弘前市)で  
販売中!

## 三沢商業



おつまみごぼう  
空飛ぶごぼう PROJECT さんが作った商品  
三沢市のごぼうを使用し、  
旨辛きんぴら味、はちみつりんご、  
ピリ辛トマトの3種類を販売

星野リゾート青森屋、スカイプラザ三沢などで販売中!

**大葉** 株式会社貞和さんが土や栽培  
方法にこだわって作った大葉  
ユニバース、カブ、マエダ、コープ青森など  
県内スーパーマーケットで販売中!



## 味乙女(卵)・あじプリン



水、飼料、温度にこだわった安心・安全な卵と、  
東北ファームの卵を使った(卵黄、全卵)プリン

味乙女ショップ(三沢市)、カフセンター各店舗はじめ  
県内のスーパーマーケットで販売中!

## 八戸商業



### つるこまんじゅう ブルーベリー味

八戸の伝統的な和菓子「つるこまんじゅう」を現代風にアレンジ!  
外側にはブルーベリーパウダーをまぶし、ブルーベリージャム  
入りの餡を小判型のまんじゅうで包んだ和菓子

しんぼり八食センター店、マックスバリュ上組町店ほか、  
八戸市内のスーパーマーケットで販売中!

## はちのへ郷土かるた【令和版】



平成の子どもたちに親しまれてきた「はちのへ郷土かるた」が  
令和版になって31年ぶりにリニューアル!

かるたで楽しく遊びながら、八戸の魅力を知ろう!

八戸市教育委員会教育指導課窓口、カネイリー一番町店、  
ユートリー1階、Annyのお気に入り、8base(イトベース)  
八戸市内ファミリーマート(一部店舗)で販売中!

## 十和田西



青森限定ポテトチップス ネギ塩  
十和田西高等学校観光科と道の駅とわたが  
連携して開発!十和田産のネギの味がしっかりと  
感じられる、パンチが効いた癖になる一品



道の駅とわた、道の駅奥入瀬ろまんパーク、十和田市観光物産センターで販売中!

## 五所川原商業



Re んごのストロー  
県産りんご「栄紅」の果肉を薄い  
シート状にして形成  
環境に優しい食べられるストロー!



市内イベント開催時等に販売!



「中堅教諭等資質向上前期研修を終えて」

青森県立青森商業高等学校  
教諭 長谷川 誠

今年度で採用から5年目を迎え、中堅教諭等資質向上前期研修を受講する機会をいただきました。まだまだ新型コロナウイルス感染症が落ち着いた現状で実施していただきありがとうございました。臨時講師として赴任して、そのまま翌年に新採用として青森商業高校にお世話になり、早いもので6年が経過しました。新校舎移転1年目で目に入るもの全てが輝いて見えたのを今でも覚えています。それから、元号が平成から令和に変わり、新型コロナウイルス感染症というパンデミックの影響を甚大に受けながらも、多くの先生方にご指導とご助言をいただきながら、無事に卒業生を出すことができました。担任業務を担うにはものすごいエネルギーを要するものだと感じましたが、それと同じくらい皆さんの幸福と学びがあり私自身も大きく成長することができました。また、新型コロナウイルス感染症の影響で教育現場の状況も大きく変わり、今までの対面授業からICT機器を駆使してのリモート授業・講演の配信・会議資料のペーパーレス化・タブレット端末の活用などさまざまなことに挑戦していかなくてはならず、新時代に取り残されないようにしていきたいと感じました。

中堅教諭等資質向上前期研修では、共通講座Ⅰ・Ⅱの講座を受講しました。共通講座Ⅰでは地域との連携・協働を生かしたキャリア教育と、いじめ・不登校のない学校づくりや保護者との連携について学びました。キャリア教育の目標を理解し、効果的に展開するためには、地域と密接につながりを持ち、学校と地域が同じ課題を共通の目的と位置づけて連携・協力していかなければならず、これからの未来にどんな人材の育成が大切なのかを講義・演習をとおして参加者同士共有させていただきました。いじめ・不登校のない学校づくりのためには、いままでの経験からの視点だけでなく物事を考えるのではなく、常に今なにが問題になっているのかを考えながら全校生徒のために教育活動を行い、同僚や管理職だけでなく保護者とも連携して未然防止に努めていきたいと強く感じました。共通講座Ⅱでは、これからの学校教育を考えるうえで生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けて様々な視点から学びました。多くの先生方と演習・協議を通じて取組や考え方に触れ、学ぶことばかりで本当に刺激を受けました。私自身も普段から授業をデザインしていますが、どうしても改善の視点が学習者側ではなく授業者側に偏った改善が多かったですが、今回の研修で他教科の先生方の簡易指導案を共有し、自分では思いつかないような視点で授業をデザインしており、研修後は自分が担当する教科にも活用してみました。実際に授業でも取り入れてみたところ、生徒が主体的に生き生きと学ぶ様子が多く見られ、徐々に会心の授業ができたと手応えを感じることができました。私自身は授業をデザインする際には、問いかけや準備・支援といった環境づくりを重点的に行っていましたが、今回の他教科の先生方と協議させていただき、授業の本質や身につけさせたい力は何か、それをどのように評価するのかをしっかりと意識してこれからの授業に臨みたいと思います。生徒自身や生徒を取り巻く環境はものすごいスピードで変化している現在、私たちの指導方法も今までどおりではなく、常にアップグレードしていかなければならないと感じました。

今回の中堅教諭等資質向上前期研修を終えて、様々なことについて考える機会をいただきました。私が初任から現在までの教員生活の中で本当に多くの先生方に支えられて今日があると思っております。これからは一人でも多くの先生方の支えになれるようより一層努力していきます。初めての卒業生にも送った言葉ですが、私自身も常に「感謝」という気持ちを忘れずにこれからの教員生活を送っていきたいと思います。今後ともこれまでと変わらず、ご指導とご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いいたします。



## 「中堅教諭等資質向上前期研修を終えて」

青森県立八戸商業高等学校

教諭 秋田 健二

家族や地域の環境により、いつとは言えない頃からやっていた野球が高校進学の大きな理由となり、親元を離れ下宿生活で過ごした高校3年間。勝者のみが辿り着く聖地でプレーすることを目標に、県内各地から集まった人たちが、尋常ではない練習を重ねる日々がそこにはありました。人数の少ない小・中の併設学校から進学した私にとって、入学当初は驚くことばかりでしたが、野球部の練習や部内のルールが順応性を高めてくれました。挨拶や敬語、話し方をはじめ、驚異の成長を遂げさせていただきました。実に刺激的な高校生活のスタートだったと、昨日のことにように思い出すことができます。

この高校3年間、部活動を指導してくださったのが、今年度、定年を迎えられた浪岡鋭治先生（現：青森県立青森商業高等学校御勤務）でした。当時の野球部では上級生から様々な指導を受ける機会が多く、上級生が先生で監督・部長先生はそれ以上、特に監督は神様のような存在でした。浪岡先生の話される言葉は神様の言葉で、部員全員が一語一句を意識して取り組んでいました。浪岡先生の指導は、とても細やかかつ丁寧で、私たちに必要なことを明確に教えてくださいました。2年秋からはほぼ毎日、練習内容の打ち合わせのため先生の所に行くことが日課でしたが、そこでも様々なことを教えていただき、浪岡先生のご指導が礎となり、成長させていただきました。目標達成とはなりませんでしたが、浪岡先生のご指導を仰げたことや目標達成のため、ある種の緊張感の中、様々な葛藤により自分自身と向き合いながらやり抜いた高校3年間は、成長とともに自信をもたせてくれました。また、初めて商業教育に触れたのもこの高校3年間で、商業科の教員を目指す大きなターニングポイントになりました。

進学し、教員免許を取得するに至る訳ですが、この期間も母校の硬式野球部のコーチとして、浪岡先生の元で多くのことを学び、体験させていただきました。当初は、教員を目指してはいましたが、商業科ではなく、社会科（公民）の教員というのが頭にあり、教育実習では公民で実習させていただきました。そんな中で、商業科の教員を目指すことに変わり、採用試験を受け、大学卒業後すぐに青森商業高校と平内高校の掛け持ちでの非常勤講師として教員生活が始まりました。商業科の生徒として商業教育に触れてはいましたが、そこまでの興味・関心を持っていた訳でもなく、知識も曖昧で教師として生徒の前に立つにあたり、多くの準備が必要でした。多くの先生方からご指導をいただき、分からないことは質問しながらの毎日でした。また、商業科の先生方の資格取得に向けての熱量の高さを知りました。多くの生徒が資格を取得できるための教科指導力が必要だと実感し、その責任を自覚しました。

非常勤・常勤講師の勤務を通して多くのことを学び、経験させていただきました。平成30年4月に採用され、1年目の初任者研修、2年目のフォローアップ研修、3年目は令和2年度初任者研修生徒理解基礎講座Ⅱの発表者として参加、5年目となる今年度は中堅教諭等資質向上前期研修を受講させていただきました。中堅教諭としての自覚をもつことができました。また、青森県高等学校教育研究会商業部会では、マーケティング・マネジメント分野研究委員会の専門委員として会議に出席させていただきました。今後の動向や他校での取り組み、また、起業家の方の講話等により新たな知識を得ることができました。

昨今では、変化の激しい社会情勢や多様化する生徒（家庭環境）を踏まえた指導が教員に求められます。コロナ禍も踏まえ、新しい時代に必要となる人材育成のために「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」のカリキュラムマネジメントを実現する授業の展開に努めます。

採用から5年間、八戸商業で勤務させていただき、日頃の教育活動に加え、校内外の研修の受講や会議の出席に際し、校長先生をはじめ教職員の方々からのご指導・ご協力をいただきました。感謝の気持ちを忘れることなく、この5年間の教員としての基盤とし、今後の教員生活に挑んで参ります。



## 「中堅教諭等資質向上前期研修を終えて」

青森県立八戸商業高等学校

教諭 山口 舞

平成29年度4月に採用していただき、早いものでもう6年の月日が経過しました。初任者研修から始まり、校内外でたくさんの方の事を学ばせていただき、慌ただしくしているうちにあっという間に過ぎていた6年間だったように感じます。

今年度は中堅教諭等資質向上前期研修を受講する機会を設けていただきました。県総合学校教育センターで実施した共通講座Ⅰでは、久しぶりに同期の先生方にお会いしお話できたことで、とても励みになりました。研修のなかで最も印象に残っているのは、キャリア教育についてのグループワークです。4人1組になって話し合いをし、各校の取り組みや生徒の現状を情報共有することで、良い刺激を受けることができました。また、他のグループから出た意見を聞き、キャリア教育はとても幅が広く、方法も様々であることに気づきました。他にも情報モラルや保護者との連携についての講義を受け、先生方の体験談から多くのことを学びました。

7月には、商業教育指導者講座に2日間の日程で参加しました。1日目は串原氏によるビジネスモデルのデザインに関することを学びました。近年急成長しているサブスクリプション契約の商品などのビジネスモデルについて考える演習では、グループワークをすることで他の先生方と意見を交換しながら、楽しく演習を行うことができました。2日目はファイナンシャルプランナーである石澤氏から、ビジネスにおける資産形成に関する基礎知識を教えてくださいました。民法上の成人年齢が18歳に引き下げになったことに伴い、高校生にお金に関する知識を身につけさせるべきだと感じてはいましたが、どのようなことを伝えたらいいのか悩んでいました。しかし講演を通じて、難しそうに感じるお金の話を分かりやすく伝えるコツを学ぶことができました。

共通講座Ⅱについては、体調不良により受講することができませんでした。来年度に再び参加させていただくことになったため、その際は他の先生方の授業から多くのことを学ばせていただきたいです。

初任者研修やフォローアップ研修で何度か学習指導案を作成したり、研究授業を行ったりと経験を積んできたつもりでしたが、6年目の今改めてやってみると困難の連続でした。学習指導案では生徒観や観点、手だての書き方に苦戦し、いざ研究授業をやってみると時間配分がうまくいかず、後悔ばかりが残る結果となってしまいました。しかし研究授業後の合評会ではたくさんの先生方から授業改善のためのアドバイスをいただき、本当に感謝しています。初任者研修からお世話になっている八戸商業高校で中堅研までさせていただけたことは、とてもありがたいことなのだと改めて感じました。

初任者研修に参加した6年前と今では学習指導要領も改訂され、評価の観点も変更になったため、「以前はこうやっていた」が通用しなくなってきています。また、目まぐるしいICT化により、入学してくる生徒たちの情報スキルもどんどん向上しています。それらに対応していくためには、常に学び続けていかなければならないのだと改めて痛感しました。「商業科」や「高等学校」、「青森県」などといった狭いカテゴリだけではなく、他の教科、校種、地域に視野を広げることで、より生徒にとって効果的な教育ができるのではないかと考えています。そのために、今後も校内外での研修の機会を活かし、よりよい教科指導・生徒指導ができるよう努めて参ります。今後とも引き続き、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



## 「中堅教諭等資質向上前期研修を終えて」

青森県立大湊高等学校

教諭 小出 健太郎

お陰さまで採用から5年目を迎え、標記研修を受講させていただきました。長年の講師経験を生かし即戦力として職務に向かうことと、改めて初心にかえり基本を重んじ教師としての本質を顧みながら、両面の心持で初任を臨んできました。5年前に大湊高校に赴任を命じられ、2度目の下北での勤務となり、教員人生のうち通算7年を送ることとなりました。初任としての赴任1年目は進路指導部に配属され、2年次の副担任としてホームルームと進路指導に重点を置いた校内研修と校外初任者研修に臨みました。2年目からは1年次のホームルーム担任を担当することになり、3年間各年次の担任業務を通し、教科や分掌の多岐に渡る業務に触れ、経験を積みながら組織人としての心構えをわずかなりにでも磨けたように感じています。特に本校は単位制の総合学科ということで、これまで勤務させていただいた学校とは違う制度や環境の中で、新しい知識を得ながら挑戦をさせていただける職場でした。生徒個々の進路を見据え、専門教科を通し学習指導にあたることは勿論ですが、専門性を伸ばす基軸となる校内の系列選択から指導にあたるゆえの研修や勉強会にも多く参加させていただきました。総合学科校として主体性を持つ生徒の育成に励み、個々の生徒の特性を大事にしながら文武両道を重んじ指導にあたることの大切さを学ばせていただきました。この5年の学びは今後、普通高校、専門高校での勤務となっても、学校の教育目標を重んじた生徒の指導に役立つものと考えています。

本研修では初任教員から中堅教員へのステップアップを迎える者として後輩教員への指導やアドバイスを含め、ミドルリーダーとしての心構えを学ぶことから始まりました。採用から4年の間に教科や分掌、年次の中で主任や副主任といった役割も仰せつかり、ときとして分掌間の連絡調整や情報の橋渡し、または学校間や外部組織とのコンタクト役として、学校全体の業務の一員を勤めなくてはならない場面も年々多くなりました。これまで以上に多くの責任を請け負いつつ、より視野を広げ学校組織、地域に貢献できる教員とならなければならないと痛感しました。そして、生徒たちには教師として教科と生活両面の指導力の向上が求められます。特に今年度から学習指導要領の改訂により評価方法も見直され、評価と授業計画を一元化し、取得させたい力の整理と指導過程の改善がより図られるようになりました。研修を機に指導主事、先輩教員、同期の先生方と指導案やその評価方法について検討し合え、教われたことは大きな成長のきっかけとなりました。さらに、本研修中でタブレット等のICT機器やGoogleWorkSpaceの活用方法についても触れられ、より効果的で継続的な学習について考える機会をいただきました。自分なりに研究授業を中心に様々なコンテンツに触れ、試行錯誤の授業ではありましたが新たな学びのチャンスとすることができました。

今後の抱負としては、勤務校は変われど生徒第一の精神を忘れることなく、指導力向上に向けた研鑽に励み、組織人として地域とともに特色を生かした学校づくりに貢献していこうと考えています。まだまだ力不足をぬぐい切れない部分もありますが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。



## 「中堅教諭等資質向上前期研修を終えて」

青森県立北斗高等学校

教諭 山本 政志

採用から6年目を迎え、前任の大湊高校には4年間勤務し、クラス担任も持ち卒業生を送り出すことができました。生徒や先生方に恵まれ、支えられご指導いただき感謝しております。また日々の業務と研修等で充実した教員生活を送ることができることを心より感謝しております。現在、勤務している北斗高校でクラス担任として2年目を迎え、今年度、中堅教諭等資質向上前期研修を受講しました。

共通講座Ⅰでは、さまざまな講義を受講しました。「前期中堅教諭に期待すること ～本県教育の現状と課題をふまえて～」では青森県の教育の現状と課題を知ることができました。また、「いじめ・不登校のない学校づくり」、「保護者との連携について」では、これからどのように生徒や保護者と関わっていけばよいかということを変えて考えることができました。そして今まで以上に研修や他教科の指導法などを学び自己研鑽に励みたいと思います。

共通講座Ⅱでは、「これからの学校教育を考える ～生徒の主体的・対話的で深い学びのために～」の講義を受講しました。主体的・対話的で深い学びの視点で授業を考えることや授業をデザインする際に意識する視点についてわかりやすく講義していただきました。学習指導要領改訂の方向性では「何を学ぶか」、「どのように学ぶか」、「何ができるようになるか」が大切であることを学びました。「主体的・対話的で深い学び」の視点で行う授業改善では、指導案を元に「主体的・対話的で深い学び」の部分はどこか、それらの学びに結びつくように工夫している点などを発表しました。展開や評価についても改めて考える機会になりました。そして他教科の先生方の発表も聞くことができ大変勉強になりました。目標は生徒の資質・能力を育むことであり、主体的・対話的で深い学びはその手段であるということを変えて考えることができました。さまざまな手段のなかから生徒にあったものを考え、生徒の資質・能力を育むことができるよう授業を組み立てていきたいと思います。すべては生徒のためという思いで、これからも頑張っていきます。

この研修は自分の中に新しい知識、考え方を多く取り入れ自分のものにしていくという心構えで臨みました。毎回の講義・演習・協議等をとおして、多くの先生方の貴重な意見やアドバイスを聞くことができました。また新たな考えやものの見方を得ることができました。教員としてこの研修で学んだことを、生徒へ還元できるよう今後も努力し続けていきたいと思います。

最後になりましたが、各研修でご指導いただきました先生方、支えてくださった先生方にこの紙面をお借りして感謝の意を表し、青森県の商業教育の発展に微力ではありますが、努力していきたいと思います。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



## 「中堅教諭等資質向上後期研修を終えて」

青森県立弘前実業高等学校

教諭 平山 学

この12年間で時代は平成から令和に代わり、教育を取り巻く環境も時代とともに変化してきました。この間、私も採用から担任として日々成長する生徒と接する中で多くのことを吸収できるように努力をしてきました。現在も担任としてその魅力や苦勞、やりがいをととても感じております。また、教科指導においても指導する上で教材研究はもちろん、必要な知識や技術を多くの先生方の授業を参観することで参考にし、研究授業やセンターでの研修、高教研での情報交換等で授業改善に努めてまいりました。多くの仲間や先輩方、時には後輩からも学ぶ機会があり、充実した期間を過ごせたと思います。本当にありがとうございます。

今年度、中堅教諭等資質向上後期研修を受講させていただきました。最新の学習指導要領が2018年に公布され、思考力・判断力・表現力をバランス良く身につける教育を実践することがテーマになりました。そのためにアクティブラーニングや対話的な授業の工夫、手段としてのICTの活用がより重視されることになり、このタイミングでの研修は私にとっても大変有意義な研修となりました。

研修ではミドルリーダーとして、初任者等への助言や組織の一員として貢献できる人間力、学校組織や運営を行う教育活動に必要なマネジメント力、商業教員として高い専門性と多様な教育資源を活用し生徒の思考の展開に応じた指導力の3つの観点で実践できる資質や能力について、さまざまな講義や演習、意見交換を通して学ぶことができました。

人間関係作りでは、生徒だけでなく同僚や保護者、地域の人材活用においても助言や演習があり、今、悩んでいることや状況に応じた対応方法においてもヒントになることがたくさんありました。

学校経営においては目標設定と評価の一体化は重要であり、その手法を講義や演習を通して学ぶことができました。最新の研究をされている講師の先生方からの実践報告や情報提供は、私自身が変化していこうという気持ちを後押しし、学校や生徒のために実践したいと考える内容でした。

専門教科では、生徒が商業教育で身に付けた知識や能力が、連続する人生の選択肢の中で重要であり、その時の判断は生涯の中で様々な役割を果たし、学習が将来につながることを意識した授業を展開することの大切さを実感しました。同期との意見交換や演習を通して改めて考えることができました。同時に、学習指導要領においてもネーミングの違いや重点を置く部分の微妙な違いがあっても、自ら考える力や創造性、そしてそれらの土台となる基礎的な学力が大事であり、社会の変化に柔軟に対応できる生徒を育てたいという理念など「教員としてやるべきことは変わらない」ということを再確認できました。

生徒が生きる未来は、AIやロボットの力を借りて、我々人間がより快適に活力に満ちた生活を送ることができる社会であり、これまでの現実世界に加えて、仮想空間との融合で豊かな社会の実現を目指す社会になっていきます。また、私たちの時代では当たり前だった常識が非常識と捉えられるケースもあります。今回の研修を通じて、私も常にアンテナを張り巡らせ、最新の情報にアップデートできる柔軟性を持ちながら、「教員としてやるべきこと」を実践できる教員になれるよう努力していきます。今後とも、多くの先生方にご指導をいただき成長していきたいと思っておりますのでよろしく申し上げます。



## 「中堅教諭等資質向上後期研修を終えて」

青森県立弘前実業高等学校

教諭 小田桐 正 巳

7年間勤務した株式会社青工を退社し、教職に転職して14年。ちょうど民間企業の勤務年数の倍となった。ビジネスの現場からビジネスを教える現場に転職し、教科の内容を実際のビジネスの現場に落とし込み、身に付けさせたい力、必要な力は何か？を常に考え授業に取り組んできた。しかし、先日授業アンケートをとったところ「先生のギャグがつまらない」という記述があり、評価も最低だった。私は今年度の中堅教諭等資質向上後期研修で学んだことを生かし、新 加勢大周ならぬ、新 小田桐正巳として生まれ変わり、授業内容や指導方法をアップデートしていきたい。

今年度は中堅研修をはじめ、様々な研修を受講する機会を頂いた。その中で、東京都立神代高等学校 稲垣俊介 先生の授業実践や情報教育について講話を拝聴し、強く印象に残った授業は、「30歳のわたし」を自己紹介して下さい という内容だ。これだけだとこれまでの授業と変わらないが、授業で注意する点は「ICTが進化している10年後の未来で自分がどうなっているかイメージさせ、学習内容を自分事としてとらえさせること」ということだ。なるほど！この点の意識が私は足りないと感じた。10年後は society 5.0 の未来が待っている。その中で生きるために必要な力はなにか？身に付けさせるためにはどういった指導が必要か？など、考えるきっかけを頂いた。

新型コロナウイルス感染症の影響でオンラインによるコンテンツが充実し、デジタル技術の普及が10年進んだと言われている。この速度で10年後はどうなっているか。10年後の超スマート社会を生き抜くためには、情報技術の活用が不可欠である。つまり、今、学んでいる情報技術を活用するための学習内容が、将来の自分にとって必要な知識・技能として認識し、「自分事」としてとらえることで学習にむかう姿勢や態度が必然的に高められる。

このことを踏まえて、商業科目においても10年後を見据えることと、学習内容を「自分事」としてとらえさせることができる授業内容にアップデートする必要がある。1994年に発売された、戦う日本人（聖飢魔II）の楽曲の歌詞に、「ケンカは駄目だが、金持ち、賢い日本人」とある。時代はかわり、円安、賃金の上がらない日本、世界の中の日本の立ち位置が大きく変わった。これからのビジネスは国内だけでは厳しい状況があり、授業内容もグローバルな視点が求められる。

タイバ重視という言葉が生まれ、教科書以外の内容や考査、検定に出題されない授業内容は無駄話ととらえる生徒が発生している状況の中で、商業科目を学ぶことで生まれる、考え方や発想が未来の自分を助け、予測困難な社会を生き抜くための力の核となると思える授業をつくっていきたい。そのためには、学習した内容を活用・実践できるところまで、指導し、実務ではどのようにリンクされ、実際のビジネスシーンと関連付けて授業を展開する。これにより、企業のイメージする、商業を学んだからこれができるだろう、ここまでできるだろう、という声に対応できるのではないか。私自身、入社した日に上司から、貸借対照表と損益計算書を提示され、この会社に販売するのだが、簿記の資格持っているようだから、経営状況について意見が欲しいと言われ、答えることができず、資格を持っていても生かせなかったら意味がないと言われた苦い経験がある。

新型コロナウイルス感染症の影響により、ライフスタイルや働く環境などが大きく変化した。民間企業の変化のスピードは非常に速い。このスピードに追いついていかなければならないと思っている。去年はこうやっていた、例年はこうやっていたという考えを一度フラットにして考え、授業・業務を見直し、不要なもの思い切ってやめることも考えたい。新しい風を呼び込むためには必要だ。また、オンラインの環境、ツールなどICT環境もフル活用していきたい。大きな変化(winds of change)を追い風にして、このbig waveを乗りこなせる教員を目指して、今後も前だけを向き、教科指導をはじめすべての業務に日々、邁進していきたい。



## 「中堅教諭等資質向上後期研修を終えて」

青森県立七戸高等学校

教諭 四木 徹

平成23年度の採用から12年が経ち、令和4年度の今年度に中堅教諭等資質向上研修（旧10年研）を受講しました。採用からの12年間では、初任校として八戸商業高校に4年間、次に大湊高校に3年間、そして、現在の七戸高校での勤務は5年目を迎えています。

12年前の採用から現在までを振り返り感じることは、あっという間に年月が過ぎたこと。そして忘れもしない東日本大震災の年の新採用でした（震災の新採）。自身21世紀卒での奇跡的な採用に、どこに赴任するのだろうと悩んでいる時の大震災（結局現地採用でした）、4月にも大きな余震があり、入学式前の生徒に安否確認等をするための電話連絡をしたことが始まりでした。そこから本当に多くの先生方と生徒に助けられながら現在まで、学びや経験を積むことができました。

今は社会情勢も大きく変わり、日々対応することに精一杯な毎日です。特に商業教育に関しては、内容も大きく変わりICTやインターネット、IoTなどといったこれからの社会に必要な不可欠な知識・能力を身に付けさせる指導力が必要となり、自身も研修に精進しなければならないと強く感じています。また、時間とともに少しずつ自分の置かれる立場も変化し、そのときの感情だけで生徒と向き合っていた12年前と比較すると、正に中堅教員としての責任が増してきていることを感じており、教員としての経験年数に相応しい学習指導や勤務校における役割を全うできているだろうか考える場面も多くなってきています。

今年度参加した研修講座の中では、ミドルリーダーという言葉が様々な場面で耳にすることが多くありました。新学習指導要領でも、社会に開かれた教育課程を実現するためのカリキュラム・マネジメント、主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善などがキーワードとして挙げられ、これらについて、ミドルリーダーとして学校の中心的な役割を担っていくことが期待されていることと同時に、教育の新しい変化に順応していく必要性にも気づかされました。また、多角的な視点からものごとを捉え、「鳥の目（広く全体をみる）、虫の目（細部に注目してみる）、魚の目（ものごとの流れをみる）」を持ちながら、現在の自分の立場や役割を理解して、地域の将来を見据えた人材育成に取り組むことが重要だと学ぶことができました。

またその他の研修では、ミドルリーダーとして資質を向上させるべく、そして、生徒指導提要が改訂されることから、それらの内容に沿った研修を受講しました。安心できる学校づくり研修では、いじめや自殺予防教育、不登校について、高等学校における特別支援教育講座では、現状を知り個別の指導や支援、手立ての必要性とその方法を学びました。これらはどれも初任研や5年研でも受講しましたが、対応方法等が当時と変わっていてとても驚きました。まさしく変化に対応するというのはいかようなことなのかと実感しました。

今回このような機会を頂き、改めて研修と変化の重要性を学びました。また、教員の資質の向上に関する指標では、現在、向上・発展期に属しています。採用時の形成期から現在まで「大丈夫かこいつ!？」とご心配とご迷惑をかけてきました。これからの充実期にむけてしっかりと自己研鑽に励み「こいつは大丈夫だ!!」と信頼されるように頑張りたいと思います。今後もこれまでとかわらず、先生方のご指導とご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いいたします。



### 「現状維持はマイナスである」からの始まり」

青森県立木造高等学校  
校長 大瀬 雅生

「誰かがつくった実績（ルール）の上で、取り組むのであれば、現状を維持することは、新しい取り組みに比べ難しくはないのだから、現状をいかに伸ばしていくかが、私たち教員の務めである。」

これは、かつて私が新採用で木造高校へ赴任したとき、先輩方に言われた言葉である。「商業科の簿記の授業を受け持つということは、検定1級までの指導ができなければならない。普通科卒業の先生には無理だ」とも言われた。私が大学を卒業し、五戸高校や八戸工業大学第二高校で、臨時講師として勤務し、簿記の授業を受け持つにはいたが、新任者の打合せ時に、この先輩方の言葉は本当にきつく感じた。

私が大学を卒業してから教員生活38年間のうち、新採用から16年間、そして最後の3年間と合わせて、教員生活の半分である19年間木造高校に勤務できたことは、私自身とても幸せだと感じている。

当時、木造高校は、普通科と商業科があり、商業科の生徒にとっては普通科の生徒にかなりコンプレックスを持っていたことを覚えている。何かあると、「普通科だから」という言葉をよく聞くことから、当時の商業科の先生方はどうやったら商業科の生徒のコンプレックスをなくさせていくかが大きな課題であった。その中での1つの選択肢が、「授業をとおしての資格取得」に取り組むことであった。卒業の時点で胸を張って卒業してもらうために、平成元年度には全商検定3種目以上1級に挑戦させ、19名という県内で最高の合格者を輩出した。その後、平成8年度には8種目1級を含む80名中54名の生徒が3種目以上1級に合格し、全国の中で検定取得人数が第1位となった。その後、単独商業高校で力を入れはじめ、総数では及ばなかったが、総合学科になる前の商業科最後の年は、80名中76名が3種目以上1級を取るなど、検定取得率では全国で1位を取り、有終の美を飾った。

当時の木造高校の先生方は、時間があれば補習を行っていた。部活動がある生徒には昼休みに補習を行うなど、時間を有効に使いながら指導をし、中でも日商簿記検定2級取得に向けて合宿を実施しながら取り組ませたことも、とても懐かしい思い出となっている。

その頃は常に、前進あるのみの商業科であったので、20代で若かった私は何度も失敗したが、その都度、先輩の先生方がフォローをしてくれた。若いのが頑張っているのをフォローするのが先輩の仕事であると、授業への指導とともに、授業の最後のフォローをしていただくなど、本当に良き先輩に恵まれた。職員会議で指摘を受けた際も、商業科の先輩が何度も助けてくれたことを今でも忘れることはない。

県教育委員会や県庁知事部局への出向になり、合わせて12年間、私は学校を外側から俯瞰する機会ができ、大変良い勉強となった。中でも、文章の書き方から、根拠、ポンチ絵など、本当に大変であったが、これらの経験が、学校において地域との関わりを持つ「地域に開かれた教育課程」の実践に大いに役立っている。

商業教育は、入学時から卒業までの生徒の意欲の変化が特に分かる教科であると考えている。自身の教え子の卒業生たちも数名ではあるが、商業の教員として活躍しており、その教え子たちが生徒へ指導をし、その生徒がまた教員となり、生徒を教えるという、無限の構図が頼もしく、本当に幸せな気分である。

また、商業教育は時代の変化を敏感に感じ取り、常に先を見て行動していくことが重要な教科である。商業科教員一人ひとりが、アンテナを張り、情報を収集し、取捨選択し、生徒へ伝えていく。机上の学習のみならず、商業科教員が自ら考え行動していく中にこそ、これからの商業教育の明るさが見えてくるのではないだろうか。



## 「定年に想う（お世話になりました。）」

青森県立十和田西高等学校  
校長 山口 吉彦

教職生活最後の締めくくりとして、十和田西高等学校に教頭として2年間、校長として3年間お世話になりました。そのご縁で「青森県商業教育マーキュリー」への原稿執筆の機会をいただきました。

三上部会長をはじめ、県内の商業教育に携わっていらっしゃる先生方には、様々なご教示をいただき大変勉強になりました。まずは皆様のご厚情に深く感謝申し上げます。

私は地理歴史・公民科の教員ですので、商業教育に関しては全くの門外漢ですが、改めて自分の教員生活を振り返ってみると商業科の多くの先輩や同僚教師に貴重な示唆や助言をいただきました。お世話になった先生方にご了解を得ていませんので、抽象的になりますが、自分の教職生活をふり返りながら申し述べさせていただきます。

私の教員スタートは大湊高校の臨時講師でした。進路指導部就職担当・3学年副担任として右も左もわからないまま、ただひたすら猛進していたような気がします。その時、同じ立場で仕事をしたのが商業科の先輩の先生でした。主任の先生が途中から体調を壊され、臨時講師二人で業務をこなす場面も多くあり、先輩には本当に指導いただきました。自動車免許取り立ての私は大湊の厳冬の坂道の運転方法も教わりました。先般青森商業高校教頭でご勇退されましたが、大変お世話になりました。

私の教員生活は「出戻り」が多く、新採用の五戸高校に2回赴任し計18年、八戸高校に2回計11年、十和田西高校にも2回計5年お世話になりました。中でも教員生活の半分を過ごした五戸高校は私にとって重要な場所です。新採用で3年担任になり、同学年の商業の先生にはそれ以後、公私ともに大変お世話になりました。先生からは「生徒と真正面から向き合う大切さ」や人間性、酔人の適正な介抱の仕方？など多くのことを学びました。昨年度の本誌にも「愛してるぜ♡」が口癖として紹介されていましたが、先生には家族一同でお世話になりました。三回卒業生をだし、次に進路指導部となりました。その時に仕えた主任も商業科の先生でした。専門商業校でのご経験が長く、就職指導での資格取得の意義や生徒の適性の見極め方など、厳しい中にも人間味あふれる指導は本当に勉強になりました。企業開拓で東京出張に行った時、企業の採用担当になっていた先生の教え子の方々が「先生の言うことなら間違いありません。」と私に語っていたことが今も強く思い出されます。三沢商業からプロ野球選手になられた方も教え子だそうです。その頃進学では国公立大学への合格を目指して教師と生徒が頑張っていたのですが、大いに後押しをいただき思う存分やることができました。五戸高校ではこのほかにも二回の赴任の中で、「簿記検定が近いから、修学旅行中も講習お願いしますと生徒に言われたよ。」と困ったような、うれしいような顔で話す先輩や、私と学年を組み、生徒のために全力で共にやりきり、サポートしてくれた〇間先生には、本当にお世話になりました。

十和田西高校での5年間は学校経営の観点から商業教育を勉強する機会となりました。商業教育は実学教育です。簿記や情報処理などの資格取得が大きな学びの柱であることは勿論ですが、生徒ひとり一人が将来の生き方あり方を学びの中で考え、社会を主体的に生き抜く人財の育成こそが実学教育＝商業教育の大きな要素であることを学びました。本校は教育目標の大きな柱として「高い志と主体性を持って社会に貢献し、本県や十和田の未来を担う人財の育成」を掲げ、観光科においては課題研究や学校設定科目で地域との協働や貢献・ボランティア活動をおこなう中で、地域や社会の課題を発見し、生徒が主体的に生きる力を引き出すように教育活動を実践してきました。本校観光科の設置に大きな役割を果たされた旧十和田湖町町長 故 渡部 毅 氏は「観光とは、その地域の光を観ること」と述べられています。本校観光科は観光産業のみならず、まさに「地域の光」は何かを学ぶ学科だったと思っています。

結びに36年の教員生活の最後に生徒とともに「地域の光」とは何かを学ばせていただいたことに感謝し、また本県商業教育のますますのご発展を心よりお祈りいたします。



## 「定年を迎えて」

青森県立黒石高等学校  
教諭 菊谷 哲

今回、商業部会会員でもない私にこのような場を与えていただき、事務局のご配慮に深く感謝いたします。自己紹介を簡単にさせていただきます。私は現任校が黒石高校で、当該校情報デザイン科勤務が3年になります。前任校が昨年度閉校した黒石商業高校で、平成12年度から通算17年の勤務でした。教員免許自体は美術なのですが、勤務校の関係から商業部会とは多少のご縁があり、これまで商業部会の先生諸氏にお世話になりながらの教員人生でした。手元に本誌バックナンバーがあります。表紙には発刊当時の黒商高情報デザイン科1年生徒の爽やかな平面構成作品が掲載されています。マーキュリー表紙には毎年黒商高情報デザイン科の生徒の作品を提供してまいりました。本誌にふさわしいかどうかいつも迷うところではありますが、商業高校に属する特徴ある学科としてお手伝いできる範囲で作品を選出してきました。また、懐かしいものを見つけました。商業高校生の活躍を伝える「青森商研NEWS」の題字デザインです。随分昔になりますが、手がけた覚えがあります。その他にも全国産フェアや生徒商業研究生徒発表大会等々にも顔を出させていただきました。何かとお世話になったこと、重ねて御礼申し上げます。

さて、令和2年、黒石商業高校と黒石高校が統合され、中南地区統合校としての「黒石高校」がスタートしました。それまで黒石商業高校に開設されていた情報デザイン科は統合校に移行することとなり、黒石高校は従来の普通科・看護科に加え、商業部会に属する情報デザイン科を有する黒石市内唯一の高等学校となりました。黒商高での勤務時、「もっとビジネス寄りの学科運営を」とはよく言われたものですが、主に美術教師で構成される本科にはなかなか難しい要望であり、今でもそう感じています。「デザインはビジネスである」。開設にあたっては同じく情報デザイン科を有する富山県立富山北部高校のワンフレーズを念頭に置きながら、学科の方向性をイメージしました。それに加えて教育課程、施設設備等々、黒商高情報デザイン科をベースに形にいただきました。必ずしも「理想的な」とまでいかないにしても、令和2年4月、無事に第1期生を迎え入れ、新たな歴史を刻み始めることとなりました。

開校当時、世界を直撃したのは新型コロナウイルス感染症の流行でした。日本社会では自粛が叫ばれ、学校教育活動も大きく制限されたことは記憶に新しいところです。その制限の一方で、これまでの慣習や諸事の再評価がなされ、時代に即した未来創出の機運が醸成されてきました。当時、私は統合校での教育活動は黒商高情報デザイン科の「学びの引き継ぎ」として捉えていました。しかし、黒商高と黒石高ではその学校風土が全く違います。つまり、異なる土壌で同じ花を咲かせようとしても無理がある、もはや黒石高校情報デザイン科として、新たな学校風土を創造していかなければならないのだと痛感しました。そこで2年目より力を入れたのが「外部機関との連携事業」でした。タイミングよく中南地域県民局様より「中南地域ビジネス創出事業」のお話があり、商品開発と販促ツールの制作に携わることができました。また、一般社団法人未来の大人応援プロジェクト様主催の「全国高校生1億円プロジェクト」においてデザイン全般担当という立場で事業に参加させていただきました。デザインの社会的役割を明確にし、より課題解決を意識した授業構成とすることとし、組織的なグループとしてのデザイン活動を取り入れていきました。そのこともあり、開校から3年目の令和4年度、さらに活動の場を広げながら、生きたデザイン活動を展開していくことができた実感しております。

それらの成果を令和5年1月14日（土）、15日（日）さくら野百貨店弘前店で開催した「第1回黒石高等学校情報デザイン科展」で披露させていただきました。二日間合わせて600名のご来場をいただき、大盛況のうちに終えることができました。アンケートに綴られた来場者の好意的な意見の数々に、後日生徒の一人が「誇らしい展覧会でした」と感想を述べていたのが印象的でした。

これからは現在在籍の生徒に加え、これから入学する生徒を含めた全員で、新たな情報デザイン科を創り上げていくこととなります。皆様には商業部会の一学科としてその活動を注視していただくとともに、一層の関わりとご指導をいただければ幸いです。

併せて定年という節目、これまでお世話になりました全ての皆様、本当にありがとうございました。



## 「定年を迎えて」

青森県立青森商業高等学校  
実習教諭 浪岡 鋭 治

令和5年3月で定年となり、人生の大きな節目を迎えることとなりました。

昭和60年3月大学を卒業し、4月から青森山田高校に教諭として1年間勤務し、翌年9月から母校である青森商業高校で臨時実習助手、臨時講師として勤務、その後、青森中央高校臨時講師を経て昭和63年4月から八戸工業大学第二高校教諭として3年間勤務しました。

大学卒業後の3年間はわからないことばかりで、教育現場での行動、心得など様々なことを多くの先生方からご指導、助言等をいただきました。また、八戸工業大学第二高校では当時、同年代の若い先生方が熱心で意欲的に指導する先生方が多くおられ、大変ながらも楽しく過ごさせていただき、良い思い出となっております。

そして、平成3年4月、青森商業高校に実習助手として勤務することになりました。

分掌は商業教育研究部となり、商業教育研究室（商研室）で商業部会、県商研、全商県本部の事務局として青森県の商業教育に関連した業務をすることになりました。当時、特に大変だったのは、各種検定の事務局業務で、夜遅くまで学校で作業をしていたことが思い出されます。

その検定業務の内容を紹介すると、全商（東京）から検定の「要項・ポスター・受験票等」の関係書類が県内の全商加盟校分がまとめて発送されてきます。それを学校ごとに仕分けし、各校に発送します。受験希望校から「申込人数」の報告（郵送）と、試験場校経費を差し引いた分の受験料が事務局の口座に振り込まれてきます。「申込人数」、「必要問題数」、「受験料」等の集計を行い、全商へ報告（郵送）、受験料から県本部校経費を差し引いた分を全商へ振り込みます。その後、全商から受験校分の「検定問題」が発送されてきて、その問題を受験校ごとに仕分けし、梱包作業を行い各受験校へ発送します。検定試験終了後、試験結果が受験校から報告（郵送）があり、それを集計し、全商へ報告（郵送）すると合格証書が送られてきて学校ごとに仕分け、発送して一連の業務が終了となります。

以上のような手順で作業を行うのですが、当時は、青商がすべての検定本部校だったので、検定試験が重なり同時進行で作業を調整しながら行っていました。また、受験校も多く、特にワープロ検定などは60校前後の受験校があり、「検定問題」の梱包作業などが非常に大変でした。

現在は「検定要項」が一冊にまとめられ、全商Webからの「申し込み」・「結果報告」になり、「検定問題」・「合格証書」は全商から各校へ直接発送され、検定本部校も「四商」が分担して行い、受験料の処理方法も変わるなどシステムが変更されて検定業務の負担が軽減され、ICT社会の発達による時代の移り変わりを感じています。



※現在は吹奏楽部の楽譜入れとして使用中

平成20年4月、浪岡高校に転勤となり、「浪岡高校の浪岡」となりました。浪岡高校では22年から学校の事情により、渉外主任を5年間努め、PTA・同窓会・後援会等の活動を補佐しました。

活動の中で、様々な体験、人との出会いがあり、青商とは違った経験をさせていただき、貴重な時間だったと思っています。

平成28年4月、再び青商に勤務となり、高校時代・勤務年数の半分以上を通った造道校舎から戸山校舎に移転し、今年、定年を迎えることになりました。

これまでよき先輩と同僚に支えていただきました。特に部活動（硬式野球）では、多くの指導者、多くの生徒と係わることができ、貴重な経験を積ませていただきました。生徒と一緒に笑って泣いた時間は一生の良き思い出となりました。

皆様のおかげで「定年退職」という節目を迎えることができ、厚く感謝申し上げます。再任用を希望しており、これからもお世話になることと思いますが、よろしく願いいたします。本当に有難うございました。

最後に、「青森県高等学校教育研究会商業部会」ならびに「青森県高等学校商業教育研究会」の更なるご発展を祈念いたします。

## 令和4年度末で定年を迎える先生方

青森県立青森商業高等学校 校長 三上 雅也

青森県立木造高等学校 校長 大瀬 雅生

青森県立十和田西高等学校 校長 山口 吉彦

青森県立鯨ヶ沢高等学校 教諭 小館 宏

青森県立六戸高等学校 教諭 奥寺 久

青森県立尾上総合高等学校 教諭 鎌田 孫秀

青森県立黒石高等学校 教諭 菊谷 哲

青森県立青森商業高等学校 実習教諭 浪岡 鋭治

青森県立北斗高等学校 実習教諭 手塚 直孝



### 「新採用となって」

青森県立大間高等学校

教諭 布施 正太郎

まず、歴史ある青森商業教育 Mercury にページをいただけるということを大変光栄に思います。遂に自分自身もこれを書くときが来たのかと思うと感慨深いものがあります。

教員採用試験 9 回目にして採用をいただくことが出来ました。これも、これまでたくさんの形でご指導を賜りました多くの先生方のおかげであります。この場をお借りして感謝申し上げます。これまで大湊高校で 4 年、大湊高校川内校舎で 3 年、田名部高校で 1 年臨時講師を経験させていただき、今年度より大間高校にて勤務しております。

臨時講師 2 年目のとき、ひょんなことからシステム管理を担当することとなり、それ以来これまでシステム管理を任されることが多くなりました。システムのシの字もわからない状態でしたが、何も知識がない私を校務や研修の際に数多くの先生方が助けてくださいました。そのおかげで今の私があると言っても過言ではありません。知らない世界があることを知ることができましたし、もっと多くのことを学ばなければならぬとも感じました。

ここ数年未知のウイルスによって数多くのことが翻弄されてきました。その中で、GIGA スクール構想により ICT 端末が学校教育においても身近になりました。立場上、設定方法や運用方法、管理方法など数多くのことを学ぶ機会がありました。あくまで ICT 端末は教育を行うための手段であり、ICT 端末を使うことが目的になってはいけなくて幾度となく耳にしてきました。不易と流行という言葉が表すように時代の中で教育の方法は変わっていくのかもしれませんが、教育の本質は変わらないのだと思いました。

初任者研修もまとめ研修を終え、一年間を振り返る時期となりました。今年度受講した初任者研修はどれも身になるものであり、日々勉強であると感じています。また、この初任者研修を受講するにあたって多くの方々の協力のもと終えることができていると思っています。多くのことをインプットする一年でありましたが、これらを生徒や校務に還元できて初めて研修に参加した意義が生まれると思います。いかに学んだことに自分の色を加えていけるかが今後の課題であると思います。

初任者研修の中での、協力校研修では三沢商業高校にお世話になりました。普段ビジネス情報分野の科目しか授業参観ができない状況であった私にとって、大変有意義で実りある時間でした。寺沢先生のマーケティングの授業では、キャズムを突破するためにはというテーマで、生徒が商品をどのようにターゲットングしていくのか興味深いものでした。1 コマの授業の中において授業の引き出しがたくさんあるなど感動しました。佐々木先生の簿記の授業ではジグソー法を用いて手形を考えるとということで、授業の導入で考えた仮説を検証していくものでした。私も簿記の授業を担当しておりますが、方法次第で生徒の興味関心は格段に違うものだと感じました。研究協議の時間では私が疑問に思っていた事柄に対してアドバイスをいただきました。

また、教科教育基礎講座Ⅲでは他教科の先生方に模擬授業を行うというものでした。商業の知識がない他教科の先生方に授業を行うことはとても難しく、ゼロから生徒に知識・技術を身につけさせる大変さを痛感しました。そこに向けた、授業の組み立てがいかに大切かを学びました。様々授業改善を行うためのヒントを得たと思うので、今後に生かしていきたいです。新堂指導主事から励ましのお言葉をいただき、前を向いて頑張ろうと思えました。

最後に、これまでお世話になった方々に改めて感謝申し上げます。

この 1 年で改めて教科商業の難しさを感じたとともに、それ以上に面白さを実感しました。それは答えのない問いへの挑戦であるということです。唯一絶対の答えがない教科と言い表されるように創造的な発想を持ち、生徒と共に私自身も成長していかなければと思います。

青森県の商業教育の発展に少しでも寄与できるよう、そして生徒へ教科商業の面白さを伝えられるよう尽力したいとも思います。今後とも御指導御鞭撻のほどよろしく願いいたします。



## 6. 年間行事一覧

年	月	日	行 事	会 場
4	4	1	令和3年度 会計監査	青森商業高等学校
		12	第1回商業部会・県商研運営委員会	青森商業高等学校
	4	21	第1回商業部会・県商研役員会	観光物産館アスパム
		20	第1回総合的科目研究委員会	総合社会教育センター
		26	第1回会計分野専門委員会	総合社会教育センター
		26	第1回ビジネス情報分野専門委員会	青森商業高等学校
		28	第1回マーケティング・マネジメント分野専門委員会	総合学校教育センター
		5	10	総会・資格取得指導説明会
	5	19・20	第1回東北六県商研連絡委員協議会	仙台商業高等学校
		23・24	全商春季総会・研究協議会	東京・一橋大学
6	4	4	全国高等学校ビジネス計算競技大会県予選会	青森商業高等学校
		11	全国高等学校情報処理競技大会県予選会	弘前実業高等学校
	11	11	県高校ワープロ競技大会・全国高校ワープロ競技大会県予選会	三沢商業高等学校
		13	第1回研究誌編纂委員会	青森商業高等学校
	16・17	16・17	第1回東北六県商研理事会	仙台商業高等学校
		18	全国高等学校簿記競技大会県予選会	青森商業高等学校
	23	23	第2回総合的科目研究委員会・第1回教育課程等研究委員会	総合社会教育センター
		28	第2回マーケティング・マネジメント分野専門委員会	総合社会教育センター
7	4	4	全国商業高等学校英語スピーチコンテスト県予選会	総合社会教育センター
		9	青森県高等学校生徒商業研究発表大会	総合社会教育センター
	11	11	第2回商業部会・県商研運営委員会	青森商業高等学校
		13	第2回会計分野専門委員会	総合社会教育センター
	22	22	商研NEWS夏号発行	青森商業高等学校
		25	第38回全国高等学校簿記競技大会	東京・日本工学院専門学校
	26-28	26-28	情報スキルを伸ばす講義と実習	東京・全商会館
		27	第69回全国高等学校ワープロ競技大会	東京・日本工学院専門学校
	27-29	27-29	会計実務に関する講義と実習	東京・全商会館
		29	第68回全国高等学校ビジネス計算競技大会	東京・日本工学院専門学校
31	31	第33回全国高等学校情報処理競技大会	千葉・明海大学	
	8	1	第2回ビジネス情報分野専門委員会	青森商業高等学校
3-5		3-5	第70回全国商業教育研究大会	東京・ポートシティ竹芝他
		8-10	第14回全国商業教育指導者研修会（教員対象）	東京・全商会館
10		10	会計分野研究委員会（教員研修会：オンライン）	各校
		17	ビジネス情報分野研究委員会（教員研修会）	青森商業高等学校
27		27	情報処理技術者試験対策講座（津軽地区・オンライン）	弘前実業高等学校
		27	第26回東北六県高等学校生徒商業研究発表大会	岩手・胆沢文化創造センター
下旬		第56回海外商業教育事情視察	中止	
9	3	3	青森県高等学校ワープロ新人競技大会・東北六県予選会	弘前実業高等学校
		8・9	第70回東北六県商業教育研究大会	青森・ホテル青森
	17	17	青森県高等学校ビジネス計算新人競技大会・東北六県予選会	三沢商業高等学校
		18	第39回全国商業高等学校英語スピーチコンテスト	東京・明治学院大学
10	4・5	4・5	全商秋季総会・研究協議会	山形・トホリタ山形
		6・7	第2回東北六県商研連絡委員協議会	岩手・トホリタ盛岡他
	15・16	15・16	第32回全国産業教育フェア青森大会	青森・ワグアリア他
		22	第60回東北六県高等学校ワープロ競技大会	宮城・一迫商業高等学校
	29	第49回東北六県高等学校ビジネス計算競技大会	秋田・秋田商業高等学校	

11	1	商研NEWS秋号発行	青森商業高等学校	
	12	青森県高等学校簿記競技大会	八戸商業高等学校	
	14	第2回研究誌編纂委員会	青森商業高等学校	
	15	第3回ビジネス情報分野専門委員会	青森商業高等学校	
	17	第3回総合的科目研究委員会・第2回教育課程等研究委員会	総合社会教育センター	
	21・22	第2回東北六県商研理事会	秋田・バークシャー・イワテ	
	24	第3回会計分野専門委員会	総合社会教育センター	
	30	第3回マーケティング・マネジメント分野専門委員会	総合社会教育センター	
	30	マーケティング・マネジメント分野研究委員会（教員研修会）	総合社会教育センター	
	12	8	第3回商業部会・県商研運営委員会	青森商業高等学校
	12	高大連携推進協議会	W・Pアラスカ	
5	1	31	商研NEWS冬号発行	青森商業高等学校
	2	6	第2回商業部会・県商研役員会	W・Pアラスカ
		18・19	津軽地区高等学校日商簿記2級直前対策講座	弘前実業高等学校
		18・19	県南地区高等学校日商簿記2級直前対策講座	八戸商業高等学校
		18	情報処理技術者試験対策講座（県南地区・オンライン）	三沢商業高等学校
3	31	'22青森商業教育（マーキュリー）発行	青森商業高等学校	

## II 研究活動の概要

### 1. 総 会 青森県高等学校教育研究会商業部会総会

(1) 期 日 令和4年5月10日（火）

- (2) 議 題
- ・令和3年度庶務報告・事業報告
  - ・令和3年度監査報告
  - ・令和3年度決算報告
  - ・役員改選
  - ・令和4年度事業計画（案）
  - ・令和4年度予算（案）

### 2. 研 究 大 会 令和4年度 第70回東北六県商業教育研究大会 青森県高等学校商業教育研究大会（併催）

### 3. 研究委員会

#### (1) マーケティング・マネジメント分野研究委員会・専門委員会（事務局：三沢商業高等学校）

##### ○ 第1回マーケティング・マネジメント分野専門委員会

日 時 令和4年4月28日（木）13:30～15:30

会 場 青森県総合学校教育センター（第2多目的研修室）

内 容

- (1) 年間計画について
- (2) 教員対象研修会について
- (3) 令和5年度の発表について
- (4) その他

##### ○ 第2回マーケティング・マネジメント分野専門委員会

日 時 令和4年6月28日（火）13:00～16:00

会 場 青森県総合社会教育センター（第6研修室）

内 容

- (1) 実践授業について
- (2) 令和5年度の発表について
- (3) その他

○ 第3回マーケティング・マネジメント分野専門委員会

日 時 令和4年11月30日(水) 10:00~12:00

会 場 青森県総合社会教育センター(第6研修室)

内 容

- (1) 県高教研大会の分科会発表について
- (2) 令和4年度の総括について
- (3) 令和5年度の活動計画について
- (4) 令和5年度の教員研修会について
- (5) 令和5年度の発表資料について
- (6) その他

○ 第1回マーケティング・マネジメント分野研究委員会(起業家による講演会及び座談会)

日 時 令和4年11月30日(水) 13:00~15:00

会 場 青森県総合社会教育センター(第6研修室)

参加者 16名(うち専門委員14名)

内 容 起業家による会社経営における活用事例について

講 師 株式会社アグリーンハート 代表取締役 佐藤 拓郎 氏

(2) 会計分野研究委員会・専門委員会(事務局:八戸商業高等学校)

○ 第1回会計分野専門委員会

日 時 令和4年4月26日(火) 13:00~15:30

会 場 青森県総合社会教育センター(第2多目的研修室)

内 容

- (1) 令和4年度年間計画について
- (2) 令和4年度の研修会について
- (3) 令和6年度東北商研大会の発表等について
- (4) その他

○ 第2回会計分野専門委員会

日 時 令和4年7月13日(水) 13:00~15:30

会 場 青森県総合社会教育センター(第2多目的研修室)

内 容

- (1) 令和4年度研修会について
- (2) 令和6年度東北商研大会の発表等について
- (3) その他

○ 第1回会計分野研究委員会(日商簿記指導力強化セミナー)

日 時 令和4年8月10日(水) 13:00~15:30

会 場 各校(Zoomによるオンライン開催)

参加者 15名(うち専門委員7名)

内 容 ①収益認識基準改正の概要及び実務に即した指導法について

②日商簿記検定の動向について

講 師 日商検定推進アドバイザー 公認会計士 小島 一富士 氏

○ 第3回会計分野専門委員会

日 時 令和4年11月24日(木) 13:00~16:00

会 場 青森県総合社会教育センター(第6研修室)

内 容

- (1) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた会計分野の指導について
- (2) 令和6年度東北商研大会の発表等について
- (3) 令和4年度の活動について(総括)
- (4) 令和5年度の活動について(計画)
- (5) 令和5年度研修会について(計画)
- (6) その他

(3) ビジネス情報分野研究委員会・専門委員会(事務局:青森商業高等学校)

○ 第1回ビジネス情報分野専門委員会

日 時 平成4年4月26日(火) 13:00~15:30

会 場 青森県立青森商業高等学校(会議室)

内 容

- (1) 令和4年度年間活動計画について
- (2) 教職員対象研修会について
- (3) 地区別情報処理技術者試験対策講座について
- (4) 令和6年度全国商研、東北商研発表について
- (5) その他

○ 第2回ビジネス情報分野専門委員会

日 時 令和4年8月1日(月) 9:30~12:00

会 場 青森県立青森商業高等学校(商業実習室)

内 容

- (1) 教職員対象研修会の研修内容について
- (2) 地区別情報処理技術者試験対策講座の講義内容について
- (3) 令和6年度全国商研、東北商研発表について
- (4) その他

○ 令和4年度ビジネス情報分野科目指導法研修会

日 時 令和4年8月17日(水)

会 場 青森県立青森商業高等学校 B棟3階 情報処理実習室3

内 容 新学習指導要領における科目「ソフトウェア活用」で示されている表計算ソフトウェアの活用や情報システムの開発、アルゴリズムの基礎的・基本的な知識や技術の習得

講 師 青森県立弘前実業高等学校 教諭 西館 大輔

○ 第3回ビジネス情報分野専門委員会

日 時 令和4年11月15日(火) 13:00~15:30

会 場 青森県立青森商業高等学校(会議室)

内 容

- (1) 令和4年度の振り返りについて
- (2) 令和5年度の活動内容について
- (3) その他

(4) 総合的科目研究委員会(事務局:弘前実業高等学校)

○ 第1回

日 時 令和4年4月20日(水) 13:00~15:30

会 場 青森県総合社会教育センター（第3研修室）

内 容

- (1) 年間計画について
- (2) 昨年度の確認について
- (3) 令和4年度研究内容について
- (4) 令和5年度県及び東北高教研分科会発表について
- (5) その他

○ 第2回

日 時 令和4年6月23日（木）10:00～12:00

会 場 青森県総合社会教育センター（第5研修室）

内 容

- (1) 県生徒商業研究発表大会について
- (2) 令和4年度研究内容について（各校進捗状況確認）
- (3) 令和5年度県高教研及び東北六県商研大会分科会における発表について
- (4) その他

○ 第3回

日 時 令和4年11月17日（木）13:30～16:00

会 場 青森県総合社会教育センター（第3研修室）

内 容

- (1) 令和4年度研究進捗状況について
- (2) 令和4年度活動内容について（総括）
- (3) 令和5年度活動計画について
- (4) その他

(5) 教育課程等研究委員会（事務局：弘前実業高等学校）

○ 第1回

日 時 令和4年6月23日（木）13:30～15:30

会 場 青森県総合社会教育センター（第5研修室）

内 容

- (1) 年間計画について
- (2) 講義  
演題 「学習指導要領と学習評価 - 専門教科 商業 -」  
講師 青森県総合学校教育センター  
産業教育課 指導主事 新堂 満香 氏
- (3) 学習評価についての情報交換
- (4) その他

○ 第2回

日 時 令和4年11月17日（木）10:00～12:00

会 場 青森県総合社会教育センター（第3研修室）

内 容

- (1) 情報交換
  - ・ワークシートについて
  - ・評価に関する校内規程について
  - ・各校での課題について
- (2) 令和4年度活動内容について（総括）
- (3) 令和5年度活動計画について
- (4) その他

#### 4. 主 催 事 業

##### (1) 高大連携推進事業

青森県の商業教育における高大連携推進協議会

期 日 令和4年12月12日(月)

会 場 ウェディングプラザアラスカ

内 容

- (1) 令和4年度各校における高大連携の取組状況について
- (2) 高大連携から高大接続への取組状況について
- (3) 協議(一人一台端末時代のICTを活用した効果的な教育実践)
- (4) 質疑応答

##### (2) 地区別日商簿記直前対策講座

津軽地区

期 間 令和5年2月18日(土)～19日(日)

会 場 弘前実業高等学校

内 容 直前対策

講 師 仙台大原簿記情報公務員専門学校 阿部 透 氏

参加者 弘前実業42名 青森商業 6名 計48名

県南地区

期 間 令和5年2月18日(土)～19日(日)

会 場 八戸商業高等学校

内 容 直前対策

講 師 仙台大原簿記情報公務員専門学校 中島 京哉 氏

参加者 八戸商業18名

##### (3) 情報処理技術者試験直前対策講座

津軽地区

日 時 令和4年8月27日(土) 9:00～15:00

場 所 弘前実業高等学校(他校の参加者はリモート配信で講義を視聴)

内 容 情報セキュリティマネジメント試験対策

講 師 盛岡情報ビジネス&デザイン専門学校 樋口 正之 氏

参加者 弘前実業40名 八戸商業22名 三沢商業15名 青森商業9名 計86名

県南地区

日 時 令和5年2月18日(土) 9:00～15:00

場 所 三沢商業高等学校(他校の参加者はリモート配信で講義を視聴)

内 容 情報セキュリティマネジメント試験対策

講 師 盛岡情報ビジネス&デザイン専門学校 樋口 正之 氏

参加者 三沢商業18名 八戸商業21名 青森商業 3名 計42名

##### (4) 各種研修会参加

商業教育講習会「情報スキルに関する講義と演習」

期 間 令和4年7月26日(火)～28日(木)

会 場 全商会館(東京都)

内 容 マクロ言語(Excel VBA)

参加者 3名(三沢商業高校、八戸商業高校、青森商業高校)

商業教育講習会「会計実務に関する講義と演習」

期 間 令和4年7月27日(水)～29日(金)  
会 場 全商会館(東京都)  
内 容 財務会計、財務諸表分析、管理会計  
参加者 2名(青森商業高校、田名部高校)

第14回全国商業教育指導者研修会(教員対象)

期 間 令和4年8月8日(月)～10日(水)  
会 場 全商会館(東京都)  
参加者 1名(黒石高校)

令和4年度 産業・情報技術指導者養成研修

期 間 令和4年8月1日(月)～5日(金)  
会 場 大阪芸術大学(大阪府)  
内 容 教科「商業」における「指導と評価の一体化」のための学習評価の在り方に関する講義  
と演習  
参加者 なし

### Ⅲ 各種競技大会

#### 1. 珠算・電卓

(1) 第69回全国高等学校ビジネス計算競技大会青森県予選会（令和4年6月4日 青森商業高等学校）

##### ■珠算

###### 【団体競技】

順位	学校名	得点
1	三沢商業高等学校	1,310
2	八戸商業高等学校	850

###### 【個人総合競技】

順位	氏名	学校名	得点
1	細田 菜生	三沢商業高等学校	450
2	新館 倅幸和	三沢商業高等学校	440
3	松田 友璃	三沢商業高等学校	420
4	木村 美桜	三沢商業高等学校	390
5	佐藤 祥美	八戸商業高等学校	350
6	佐藤 瑠香	三沢商業高等学校	300

###### 【種目別競技】

順位	読上暗算	順位	応用計算	読上算
1	細田 菜生	1	新館 倅幸和	新館 倅幸和
	三沢商業		三沢商業	三沢商業
2	松田 友璃	2	細田 菜生	松田 友璃
	三沢商業		三沢商業	三沢商業
3	新館 倅幸和	3	木村 美桜	細田 菜生
	三沢商業		三沢商業	三沢商業
4	種市 美月	4	種市 美月	種市 美月
	八戸商業		八戸商業	八戸商業
5	佐藤 祥美	5	佐藤 祥美	福本 那美
	八戸商業		八戸商業	三沢商業
	金澤 ゆりあ	6	福本 那美	野崎 ひらり
	三沢商業		三沢商業	三沢商業

##### ■電卓

###### 【団体競技】

順位	学校名	得点
1	三沢商業高等学校	1,510
2	八戸商業高等学校	1,330
3	青森商業高等学校	1,230

###### 【個人総合競技】

順位	氏名	学校名	得点
1	磯 沼 莉 瑚	三沢商業高等学校	530
2	浜 道 真 穂	八戸商業高等学校	520
3	山 内 優 香	三沢商業高等学校	510
4	高 坂 美 結	青森商業高等学校	480
5	木 南 湖 杏	八戸商業高等学校	470
6	中野渡 望 愛	三沢商業高等学校	470

###### 【種目別競技】

順位	応用計算	読上算
1	小西 穂果	小西 穂果
	三沢商業	三沢商業
2	山内 優香	能方 朱里
	三沢商業	三沢商業
3	木南湖 杏	浜道 真穂
	八戸商業	八戸商業
4	浜道 真穂	山内 優香
	八戸商業	三沢商業
5	中野渡 望愛	磯 沼 莉 瑚
	三沢商業	三沢商業
6	磯 沼 莉 瑚	
	三沢商業	

(2) 第54回青森県高等学校ビジネス計算新人競技大会 (令和4年9月17日 三沢商業高等学校)

■珠算

【団体競技】

順位	学校名	得点
1	三沢商業高等学校	1,170

【個人総合競技】

順位	氏名	学校名	得点
1	新 舘 倅幸和	三沢商業高等学校	460
2	野 崎 ひらり	三沢商業高等学校	370
3	松 林 晴 香	三沢商業高等学校	340

【種目別競技】

順位	読上暗算	応用計算	読上算
1	新 舘 倅幸和 三沢商業	新 舘 倅幸和 三沢商業	新 舘 倅幸和 三沢商業
	野 崎 ひらり 三沢商業	松 林 晴 香 三沢商業	野 崎 ひらり 三沢商業
3	金 澤 ゆりあ 三沢商業	佐 藤 小 春 八戸商業	坂 本 千 夏 八戸商業

■電卓

【団体競技】

順位	学校名	得点
1	三沢商業高等学校	1,490
2	三戸高等学校	1,130

【個人総合競技】

順位	氏名	学校名	得点
1	新 山 奈々美	三沢商業高等学校	510
2	明 戸 樹紀奈	三沢商業高等学校	500
3	中野渡 望 愛	三沢商業高等学校	480
4	小 野 雅 登	三戸高等学校	450
5	佐々木 美 羽	青森商業高等学校	430
6	横 山 実 来	三沢商業高等学校	410

【種目別競技】

順位	応用計算	読上算
1	中野渡 望 愛 三沢商業	上 沢 春 華 八戸商業
	明 戸 樹紀奈 三沢商業	佐々木 優 衣 三戸
3	新 山 奈々美 三沢商業	小 野 雅 登 三戸
	横 山 実 来 三沢商業	横 山 実 来 三沢商業
5	八 木 理 緒 三沢商業	新 山 奈々美 三沢商業
	馬 場 美 妃 三沢商業	工 藤 洸 花 三戸

## 2. ワープロ

(1) 第59回青森県高等学校ワープロ競技大会(令和4年6月11日 三沢商業高等学校)

### ■ワープロの部

#### 【団体競技】

順位	学校名	打数
1	三沢商業高等学校	4,698
2	青森商業高等学校	4,192
3	八戸商業高等学校	3,064

#### 【正確賞】

該当者なし

#### 【個人競技】

順位	氏名	学校名	打数
1	松田綾乃	三沢商業高等学校	1,956
2	近藤鈴夏	三沢商業高等学校	1,588
3	野呂奏人	青森商業高等学校	1,586
4	番地遥大	青森商業高等学校	1,361
5	佐々木紗羅	三沢商業高等学校	1,356
6	高橋侑良	千葉学園高等学校	1,320

(2) 第54回青森県高等学校ワープロ新人競技大会(令和4年9月3日 弘前実業高等学校)

### ■ワープロの部

#### 【団体競技】

順位	学校名	打数
1	三沢商業高等学校	3,461
2	八戸商業高等学校	2,467
3	青森商業高等学校	2,300

#### 【正確賞】

該当者なし

#### 【個人競技】

順位	氏名	学校名	打数
1	中村湊玖	三沢商業高等学校	1,381
2	根岸ななか	三沢商業高等学校	1,107
3	小笠原零	三沢商業高等学校	973
4	佐藤亜美	青森商業高等学校	971
5	瀧澤悠仁	三沢商業高等学校	880
6	山上いち花	三沢商業高等学校	878

#### 【1年生の部・個人】

順位	氏名	学校名	打数
1	根岸ななか	三沢商業高等学校	1,107
2	佐藤亜美	青森商業高等学校	971
3	瀧澤悠仁	三沢商業高等学校	880
4	山上いち花	三沢商業高等学校	878
5	西村美宇	八戸商業高等学校	799
6	長谷川惺奈	青森商業高等学校	670

## 3. 情報処理

第34回全国高等学校情報処理競技大会青森県予選会(令和4年6月11日 弘前実業高等学校)

### 【団体競技】

順位	学校名	得点
1	八戸商業高等学校	357
2	三沢商業高等学校	339
3	弘前実業高等学校	271

### 【個人競技】

順位	氏名	学校名	得点
1	北川綾乃	八戸商業高等学校	120
2	山日滯	八戸商業高等学校	119
3	大久保玲菜	八戸商業高等学校	118
4	阿部友侑	八戸商業高等学校	118
5	小笠原明音	三沢商業高等学校	118
6	及川竜矢	三沢商業高等学校	112

#### 4. 簿記

(1) 第38回全国高等学校簿記競技大会青森県予選会(令和4年6月18日 青森商業高等学校)

##### 【団体の部】

順位	学校名	得点
1	三沢商業高等学校	335
2	弘前実業高等学校	288
3	八戸商業高等学校	218

##### 【個人の部】

順位	氏名	学校名	得点
1	古泊可衣	三沢商業高等学校	142
2	山田隼大	三沢商業高等学校	106
3	葛西聡	弘前実業高等学校	97
4	中村彩衣星	弘前実業高等学校	97
5	下道実桜	弘前実業高等学校	94
6	清水怜奈	八戸商業高等学校	91

(2) 第27回青森県高等学校簿記競技大会(令和4年11月12日 八戸商業高等学校)

##### 応用部門

##### 【団体の部】

順位	学校名	得点
1	青森商業高等学校	500
2	三沢商業高等学校	454
3	弘前実業高等学校	452

##### 【個人の部】

順位	氏名	学校名	得点
1	近藤佑紀	青森商業高等学校	175
2	下山瑞姫	弘前実業高等学校	167
3	葛西聡	弘前実業高等学校	167
4	今晴希	青森商業高等学校	164
5	金濱優姫	三沢商業高等学校	163
6	和田愛結菜	三沢商業高等学校	162

##### 基礎部門

##### 【団体の部】

順位	学校名	得点
1	八戸商業高等学校	239
2	三沢商業高等学校	221

##### 【個人の部】

順位	氏名	学校名	得点
1	小橋温和	八戸商業高等学校	85
2	高橋ひより	八戸商業高等学校	80
3	米内山夏芽	三沢商業高等学校	79
4	木村聡	弘前実業高等学校	76
5	山田優	弘前実業高等学校	74
6	関口まい	八戸商業高等学校	74

#### 5. 英語

第39回全国商業高等学校英語スピーチコンテスト青森県予選会(令和4年7月4日 青森県総合社会教育センター)

##### レシテーションの部(暗唱の部)

順位	氏名	学校名
1	メンリー舞愛	三沢商業高等学校
2	高橋真緒	青森商業高等学校
3	蛭名圭梨	三沢商業高等学校

##### スピーチの部(創作の部)

順位	氏名	学校名
1	白坂佳乃子	八戸商業高等学校
2	蛭沢佳乃子	三沢商業高等学校
3	亀田沙来	青森商業高等学校

#### 6. 生徒商業研究発表

青森県高等学校生徒商業研究発表大会(令和4年7月9日 青森県総合社会教育センター)

順位	学校名	テーマ
1	青森商業高等学校A	ネット通販サイトで青森を売り込め! ～県産雑穀を全国の食卓へ～
2	三沢商業高等学校B	厳選、新鮮、挑戦 ～三沢の自信を全国に～
3	五所川原商業高等学校	Reんごのストロー ～プラスチックを使わないストロー開発～

## IV 各種検定試験

### 1. ビジネス計算実務検定

第144回 全商ビジネス計算実務検定試験 R4.6.19									
	1級			2級			3級		
	珠算	電卓	ビジネス	珠算	電卓	ビジネス	珠算	電卓	ビジネス
申込者数	7	283	363	0	164	144	0	325	83
受験者数	7	268	345	0	156	137	0	305	78
部門合格者数	1	147	67	0	112	72	0	207	54
部門合格率	14.3%	54.9%	19.4%	0.0%	71.8%	52.6%	0.0%	67.9%	69.2%
級合格者数	71			69			49		

第145回 全商ビジネス計算実務検定試験 R4.11.13									
	1級			2級			3級		
	珠算	電卓	ビジネス	珠算	電卓	ビジネス	珠算	電卓	ビジネス
申込者数	14	302	334	0	194	221	0	184	310
受験者数	14	281	310	0	177	203	0	163	279
部門合格者数	11	228	88	0	151	121	0	91	206
部門合格率	78.6%	81.1%	28.4%	0.0%	85.3%	59.6%	0.0%	55.8%	73.8%
級合格者数	96			113			176		

### 2. 簿記実務検定

第94回 全商簿記実務検定試験 R4.6.26				
	1級(会計)	1級(原計)	2級	3級
申込者数	236	154	263	186
受験者数	223	140	245	171
合格者数	65	24	79	62
合格率	29.1%	17.1%	32.2%	36.3%
級合格者数	66			

第95回 全商簿記実務検定試験 R5.1.22				
	1級(会計)	1級(原計)	2級	3級
申込者数	436	415	332	419
受験者数	408	392	318	385
合格者数	89	150	145	255
合格率	21.8%	38.3%	45.6%	66.2%
級合格者数	70			

### 3. ビジネス文書実務検定

第68回 全商ビジネス文書実務検定試験 R4.7.3						
	1級		2級		3級	
	ビジネス	速度	ビジネス	速度	ビジネス	速度
申込者数	151	168	173	214	171	256
受験者数	147	160	164	205	166	245
部門合格者数	43	12	17	70	11	60
部門合格率	29.3%	7.5%	10.4%	34.1%	6.6%	24.5%
級合格者数	52		85		143	

第69回 全商ビジネス文書実務検定試験 R4.11.27						
	1級		2級		3級	
	ビジネス	速度	ビジネス	速度	ビジネス	速度
申込者数	83	101	229	257	395	420
受験者数	79	97	218	240	362	384
部門合格者数	11	19	40	44	17	62
部門合格率	13.9%	19.6%	18.3%	18.3%	4.7%	16.1%
級合格者数	27		133		263	

#### 4. 英語検定

第68回 全商英語検定試験 R4.9.11			
	1級	2級	3級
申込者数	28	153	170
受験者数	26	138	155
合格者数	8	13	88
合格率	30.8%	9.4%	56.8%

第69回 全商英語検定試験 R4.12.18			
	1級	2級	3級
申込者数	32	82	74
受験者数	28	63	68
合格者数	3	12	60
合格率	10.7%	19.0%	88.2%

#### 5. 情報処理検定

第67回 全商情報処理検定試験 R4.9.25					
	1級		2級		3級
	プログラミング	ビジネス情報	プログラミング	ビジネス情報	
申込者数	94	237	111	313	483
受験者数	92	223	110	296	450
合格者数	33	66	76	165	272
合格率	35.9%	29.6%	69.1%	55.7%	60.4%
級合格者数	99		241		

第68回 全商情報処理検定試験 R5.1.29					
	1級		2級		3級
	プログラミング	ビジネス情報	プログラミング	ビジネス情報	
申込者数	169	343	85	561	685
受験者数	164	333	82	527	613
合格者数	53	121	62	316	364
合格率	32.3%	36.3%	75.6%	60.0%	59.4%
級合格者数	174		378		

6. 商業経済検定

第37回 全商商業経済検定試験 R5.2.5						
	1級	2級				3級
		マーケティング	経済活動と法	ビジネス経済A	ビジネス経済B	ビジネス基礎
申込者数		314	144	87	14	147
受験者数		283	138	81	13	137
合格者数		159	80	36	3	118
合格率		55.1%	58.0%	44.4%	23.1%	86.1%
級合格者数	75					163

7. 会計実務3検定試験

第14回 全商財務諸表分析検定・財務会計検定・管理会計検定 R4.12.11			
	財務諸表分析検定試験	財務会計検定試験	管理会計検定試験
申込者数	107	35	31
受験者数	102	33	28
合格者数	58	8	9
合格率	56.9%	24.2%	32.1%

8. ビジネスコミュニケーション検定

第10回 全商ビジネスコミュニケーション検定試験 R4.7.10	
申込者数	0
受験者数	0
合格者数	0
合格率	0.0%

第11回 全商ビジネスコミュニケーション検定試験 R4.12.18	
申込者数	15
受験者数	15
合格者数	14
合格率	93.3%

9. 1級合格者の数

	ビジネス計算 珠算	ビジネス計算 電卓	簿記	ビジネス 文書	英語	処 理 情 報 技 術	処 理 情 報 技 術	商 経 合 計
人数	12	155	136	79	11	86	187	75

10. 3種目以上1級合格者数

学校名	3種目	4種目	5種目	6種目	7種目	8種目	9種目	合計
青森商業高等学校	9	10	2					21
弘前実業高等学校	26	21	4					51
八戸商業高等学校	28	8	2	1			1	40
三沢商業高等学校	23	13	8	7		2		53
三戸高等学校	1							1
七戸高等学校	3		1					4
青森中央高等学校	1							1
千葉学園高等学校	1							1
青森山田高等学校	1							1
計	93	52	17	8	0	2	1	173

## 編集後記

今年度も原稿の依頼に快くご承諾いただき、ありがとうございました。貴重な原稿をお寄せくださった先生方や会員の皆様方のご協力により、「2022青森商業教育マージャー」をお届けすることができます。心よりお礼申し上げます。

昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に努めながら各種競技大会や研修が開催されました。なかでも第32回全国産業教育フェア青森大会が生徒実行委員会を中心に先生方や県外から参加された方々の協力で無事に開催され、商業教育を含めた産業教育の情報を発信することができました。全国産業教育フェアを開催したことにより高校生の秘めたる力を見ることができ、あらためて高校生が活躍できる場が必要であると感じました。

また、青森商業高等学校においては今年度より庁内ベンチャー事業でグローバルな活躍ができる人財育成の取り組みが始まり、県内の商業高校と連携することも多くなりました。次年度は青森商業高等学校を中心に県内の商業高校と一緒に販売実習等の実施を計画しています。これを機に、青森県の商業教育をますます盛り立てていきたいと思えます。

終わりに、本研究誌の充実と発展のために、より一層のご指導ならびにご叱正を賜りますようお願い申し上げます。

(編纂委員)

### 研究誌編纂委員会

高橋 恭一	県立青森商業高等学校	(委員長)
榊 晃太	〃	(東青)
佐藤 雅哉	〃	(会場校)
伊藤 大貴	〃	(会場校)
柴崎 健太郎	県立弘前実業高等学校	(中南)
山口 舞	県立八戸商業高等学校	(三八)
山田 真菜	県立三沢商業高等学校	(上十三)
長嶺 良	県立板柳高等学校	(西北五)
向谷地 史拓	県立大湊高等学校	(下北)
山田 博規	千葉学園高等学校	(私学)



県商研ホームページアドレス <http://www.shoken-aomori.jp/>